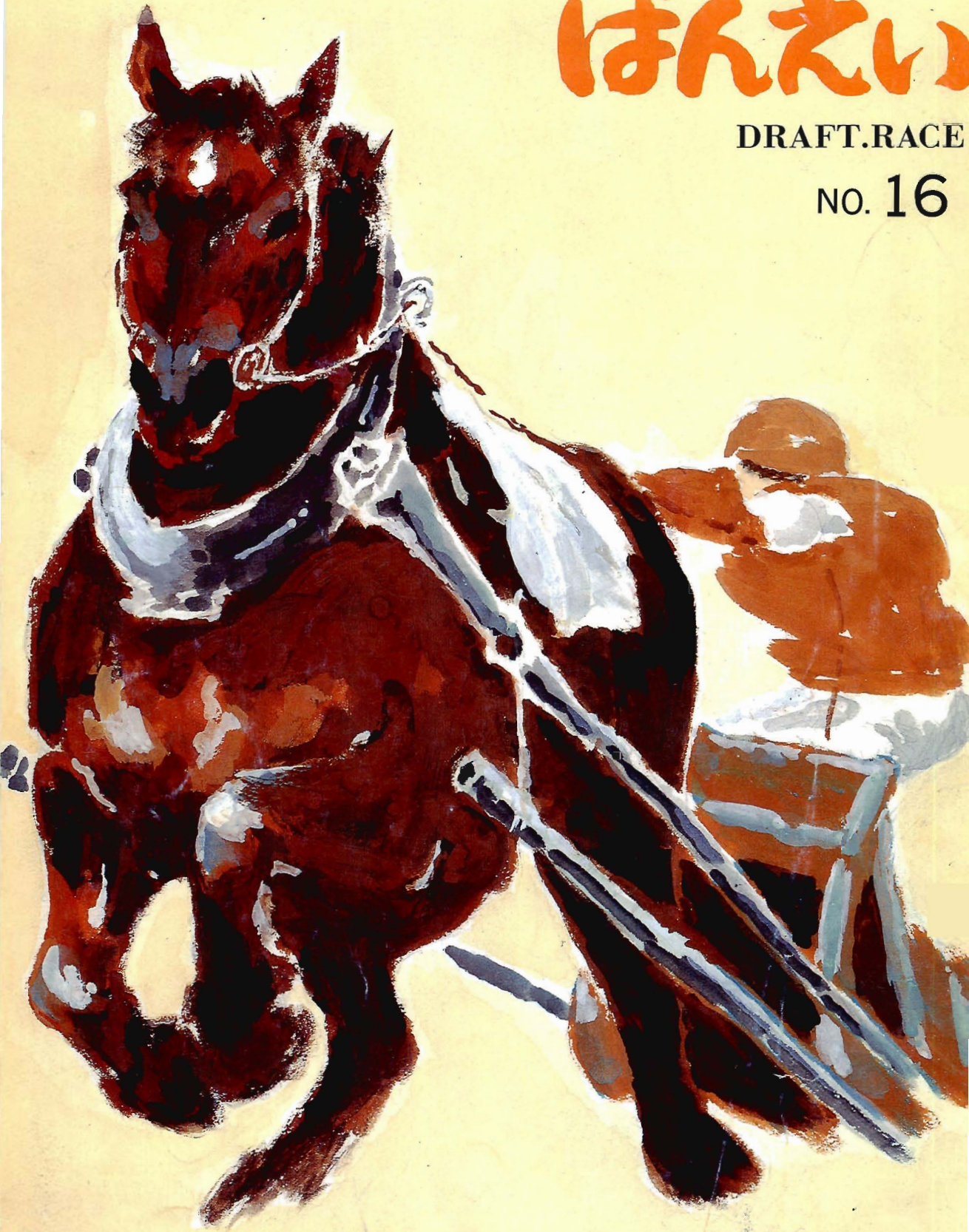


ばんえい

DRAFT.RACE

NO. 16



目 次

会報発刊に寄せて……………	坂東……………	3
将来の夢……………	酒井……………	4
一年を振り返って……………	荒井富三……………	7
これからの競馬に思う……………	井上……………	9
広報事業報告……………	千葉厚三……………	11
	吉井正則……………	
	岡 嘉彦……………	
	前田憲孝……………	
五年連続売上低迷の大ピンチ……………	鈴木一彦……………	14
一〇〇〇勝の思い出……………	木村卓司……………	18
マスコミに取り上げられたばんえい……………		20
まだ日本に輸入されたことのない馬の紹介……………		27
競走用具改善十余年の歩み……………	鈴木一彦……………	28
ばんえい便り……………		32
農用種雄馬(ばんえい)の購売と配置名簿……………		33
各地の祭典ばんば……………		34
昭和60年度馬産奨励事業奨励者名簿……………		38
昭和61年度番組編成要領……………		49
昭和60年度リーディング……………		50
昭和60年度賞金受賞ランキング……………		51
昭和60年度種雄馬ランキング……………		52
昭和60年度引退馬……………		53
昭和60年度道、市営競馬成績……………		59
昭和61年度道、市営競馬日程表……………		60



会報発行に寄せて

北海道市営競馬協議会

会長 坂 東 徹

昭和六十年年度の会報発行にあたり、関係各位のご健勝を心からお喜び申し上げますとともに、市営競馬の開催並びに本会の運営にあたりましては常日頃から何かとご指導ご協力を賜りましてここに厚くお礼と感謝を申し上げます。

さて、昭和六十年年度の市営競馬は、二十一開催・一二六日・一、二九〇レースを実施いたしました。各主催者の懸命な努力にも関わらず依然として入場人員・発売額とも低下を続け、入場人員では、三三〇、六九七人で前年対比九〇・三パーセント、売得金では、総額二百四億五千三百万円余の前年対比八九・三パーセントという結果に終わり、昭和五十六年以降五年連続しての成績低下となった次第であります。

昭和二十八年以来ファンとともに発展を続けて来た世界唯一のばんえい競馬の灯を消すようなことのないよう主催者・馬主の各位、調教師・

騎手の皆さんが相携え、それぞれの分野で不断の努力と創意・工夫を発揮して「ばんえい競馬は面白い」とファンの定着を図ることが肝要であると思うところでございます。

昭和六十一年年度の開催にあたりましては、まず昨年発生いたしました調教師の暴行事件や有名騎手の失踪事件等競走に直接関連はないにしても、マスコミを通じて世間の耳目を騒がせた事件は、一般社会の疑惑を招き、引いてはばんえい競馬に対する不信感を煽る結果とも成り兼ねないので、既舎関係者の自粛自戒を強く求められるところでもありますし、主催者においても、競馬の公正確保には今後より一層の努力が必要であると考えられるところであります。

また、今後引き続き検討すべき事項としては、一、四市による一部事務組合を早期に設立し、開催業務の一元化と経費の節減を図る。

二、道央圏に場外発売所を設置してファン層の拡大を図る。

三、ファンサービスと発売額の拡大を目的として場外向け映像伝送を実施する。

等それぞれ検討段階にありますが、いづれも現在の苦境打開のため、4市が一致協力してその早期実現に向け、精力的に推進すべきときではないか、と考えられますので、関係各位のご協力を切にお願いする次第であります。

また、当面においては、思い切った減量経営も必要でありまして、馬主の皆さんを始め、既舎関係者のご協力をお願いするところであります。

本会においても、昭和六十一年度予算の編成に当たっては、従来以上に経費の節減に努め、若干なりとも主催市の負担軽減になるよう意を尽くしたところでございます。

いろいろと申し上げましたが、昭和六十一年度は、ばんえい競馬にとって、正に正念場となる第一年目とも言えると思っておりますので、関係者一同一致協力してこの難局を乗り切りたいと願うところでございます。

今後とも皆様のなご一層のご支援ご鞭撻をお願い致しまして、会報発行の機会に私見を交え、所感を申し述べてご挨拶いたします。

将来の夢

旭川市競馬事務所

主 査 酒 井 進

これは、あくまでも計画性のない大きな夢である。

現在、旭川市の人口は三十六万人でありその内競馬ファンは、約二万人ともいわれているが実際に競馬場へ足を運んで来れるファンは、一日平均で三千人程度となっている。これを競馬ファンである一万人全員に競馬場へ来てもらい更に新規ファンを開拓するにはどうすればよいか。旭川競馬場は中心部から十二キロ離れた自然に恵まれた場所に設置されており、競馬以外に使用しているのは、三月に一万三千人前後の参加者で賑わう旭川国際バーサー大会のみであり、これだけの広大な場所を毎年何んらかの方法で利用してもらうことを想像して見ると、まず競馬場へ行くと、大変に美しく本当に楽しいといった雰囲気作り又は施設改善をするのが最善と思われる。

事業の実施及び運営は公社方式でどうだろうか。

一、競馬場の中庭整備

スタンド横から地下道で往来し、競馬開催中でも一般市民に開放

(ナイター設備を設置)

○テニスコート、サッカー場、

ゲートボール場、噴水施設、花壇、ミニ

発売所(自動発売)

旭川競馬場が、昭和五十年神居町上雨紛に移転してから早いもので十二年になろうとしている。あの頃は、オイルショック後の景気浮上で売上も上昇中であり近代競馬を目差して驚進の途をたどっていた。しかし、昭和五十六年頃から売上、入場者とも減少し昭和五十八年には市営旭川競馬として昭和二十八年に実施して以来初めての赤字経営となり収益事業も一般会計から繰入れし、やっとその場をしのいだ次第であります。

昭和五十五年に、かねてからの念願であったトターを導入しその年は最高の売上げを示した。しかし機械台数が少ないことから窓口混雑でフ

アンに多大の迷惑をかけたが、これらを解消する意味から翌年にトター追加導入及び屋外表示装置を設置し、万全な体制で開催に挑んだところ無念にも売上が落ちそれから下降線を辿って現在に至っている。この様な状態になってきたのも偶然とはいえ機械化にすれば売上げが伸びるといふ説も崩れ何か裏切られた様な感じになった。

あたり前の事であるがこれからは如何にして売上げを伸ばし入場者を増やし収益をあげるかということでは頭を痛めているところである。

ここでレジャーの多様化に対抗する意味で旭川競馬場を中心とした娯楽王国の夢を記して見る。

二、競馬場周辺の娯楽施設

○屋内プール施設の設置

初心者から上級者まで対象とし指導員を配置する。また、マイクロバスによる送迎を行う。



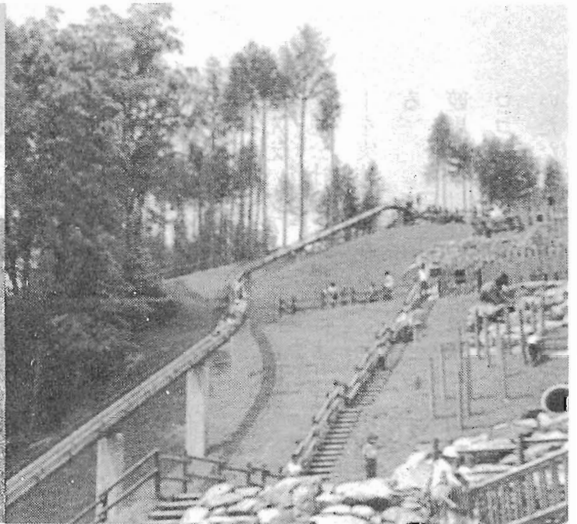
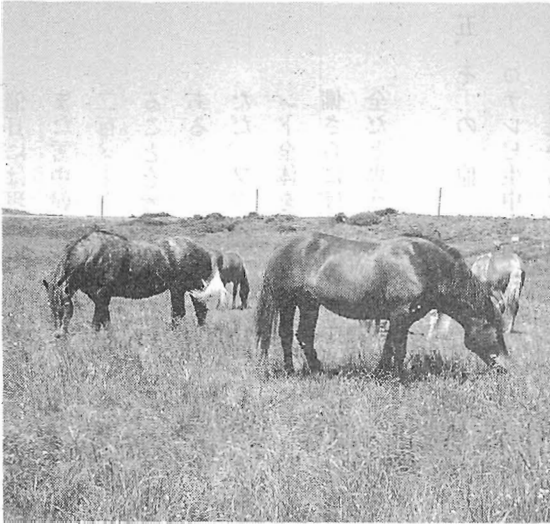
○インドアゴルフ及びバッティングセンターの設置（ナイター設備を設置）
バッティングセンターについては現駐車場の一部を利用する。

○フィールドアスレチックの設置

山小屋風レストラン等を併設する。

○ばんば牧場の設置

ばんば馬を子供及び一般市民に親しん



でもらう意味からばんば用具一式を陳列し花馬糞的なものの走行も取り入れる。

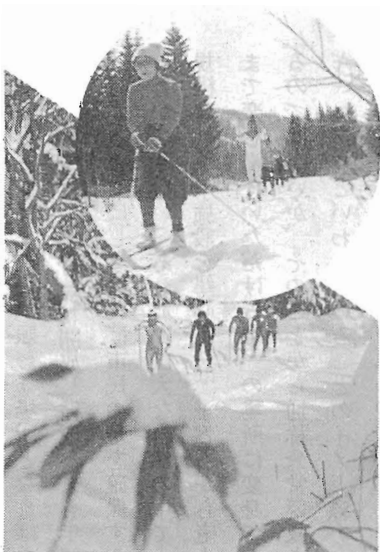
○キャンプ場の設置

ラジコン等で遊べる場所を併設する。

三、冬のスポーツ施設

○スキー場の建設（ナイター設備を設置）

競馬場正面の山はスキー場に適しており競馬場の駐車場とゴンドラあるいは陸橋で結ぶ、このことから競馬場そのものを市民の憩の場として提供する。



○歩くスキーコースの設定

競馬場の一周コースあるいはパーサー大

会コースの一部を歩くスキーコースとして設定し競馬場を休憩の場とする。

○スケートリンクの設置（ナイター設備を設置）

競馬場の中庭あるいは駐車場を利用し、大会等の催しができる規模の施設を設置する。

一般市民コースと競技選手練習用コースを併せ持つ。

四、競場開催に伴う施設の強化

○ミニ場外発売所の設置（自動発売機を主とする）

市内の繁華街にミニ場外を二か所程度設置する。光ファイバーによる大型映像、放映施設も併設し一般市民にはんばの醍醐味を楽しんでいただく。

○ナイター及び雪中競馬の実施（場外発売も含む）

ナイター競馬の実施曜日を決め午後九時頃までには全レース終了するようにする。夏場の暑い時期には、ビヤガーデン的な雰囲気楽しんでいただく（ナイター開

催日には現在のばんば祭りのな感じ）

また雪中競馬については、ばんえい走路二百メートルに何んらかの方法で覆えることを考えれば実施することが可能である。

ただ、ファンサービス面からするとスタンド全体をガラス張りにし暖房施設の完備さらには特別観覧席等を設置すれば万全だと思つ。

五、その他

○テレビ生中継の実施

これからは電波による宣伝方法が一番効果があるといわれていることから一期に一回程度は全道版で生中継をしたらどうか、このことからファンの確保あるいは有名馬、有名ジョッキーの宣伝にも効果があると思う。

○ばんえいツアーの推進

交通公社等との提携によりばんえいツアーを実施（現在も年二回程度実施している）

競馬観覧以外に周辺農家と契約しトーモロコシあるいはじゃが芋採集を楽しんでいただく冬の場合は三に明記しましたが

スキーツアーも併せて実施すれば可成りの宣伝効果があると思う。

このようなことがもし実施可能になれば年間通して競馬場を利用することができ活性化にもつながる。また、市民が賑わう場所となればあの広い駐車場は勿論、無料開放し循環バスも年間運行するようにしなければ市民の足を確保することができない。あれだけ広大な自然の中で大規模なレジャー施設を建設すれば、子どもから老人まで楽しんでいただける唯一の場所に変身できるのではないか、そのことから通称公営競技をギャンブルといわれていることのイメージチェンジにもつながり、ばんえい競馬の活性化を推進することができ。以上取留めのないことを記させていただきましたが、私の感じていることはあれだけの大きな施設を年間五十日余りしか使用しないことの勿体なさ、環境の良い大自然の中で競馬場を中心とした娯楽施設を建設しファンの増大を図れば、ばんえい競馬の業務に携わる者としては最高の欲である。私は、このような大きな夢を見たい！

一年を振り返って

岩見沢市農務部畜産課

事業係長 荒井 富三

十七年振りに競馬担当にもどって、近代競馬に改革され、その業務に不安をもった一年間でありましたが、各市の担当者、市協の方々のご協力により無事、六十年の競馬も終了し、今は、六十一年度の苦しい予算を編成中であります。さて、この一年間を振り返ってみると、永年の空白で、競馬の業務内容が近代的になり一体何をして良いのか、悩みながら無我無中で、当市の競馬に精を出したこの一年であり、そして、競馬が終了してみると、又も、例年通りの売得金の低落であり、どう考えて良いのか？

これまでも、各主催者の方々、市協の方々、活性化に取り組んでいたことに対して敬意を表すものであります。

小生も、競馬開催日が一日、くく終るたびに本当にどうしたんだろう、今後一体どうなるんであろうと毎日考えていたものです。この低迷には、数々の要因が複合的に作用しあっているのではないだろうか。

特に地方競馬については、もっと深く根を掘起さなければ、今後の明るい陽差しを見ることがなく終了するのではないだろうか、と考えるのです。

こう思い悩むのは決して小生一人ではないと思います。

この一年間、各市の担当の方と逢うたび、この悩みばかりで本当に苦しみの一年間でありました。

さて 競馬は「本質的に変わっていない」と、帯広市の小林部長さんが言っているように、小生もそう考えており、変わったのは、競馬を取巻く環境であり、中身ではないかと思う。

競馬の低迷が続くのは、前段で述べたように、数々の要因の複合的問題が原因であり、それを列挙してみよう。

- 一、レジャーの多様化
- 一、老令ファンの固定化
- 一、生活意識の変遷

一、ばんえい競馬の魅力不足「競走内容」

一、スター「馬」の不在

一、競馬場内の緑地等景観の整備

こうして、その要因を列挙してみたが、一年間、競馬場に通って見ると多くのファンを呼び、楽しく一日を過ごす物が実に何もないことが分かり、そのため高齢者ファンばかりの集まる競馬場になってしまった感じがするのである。

又、競馬開催の意味が分からない人達が多くなっているのではなからうか。

開催し馬券を売って、収益金を上げ、財政寄与しか考えていない。たしかに、競馬開催による収益金は、市民に還元され公営ギャンブルとして公に分認されているが赤字になれば、競馬の存廃を呼び、これでは、競馬を担当する者もど

う対応して良いか考えなくてはならない。

たしかに、財政寄与も大事だろうと思うが、競馬開催することにより、畜産産業が成りたち、競走馬の馬主が出来、そして調教師、騎手等の職業が出来、それらに支払う手当も二十数億の金額となり、又、競馬従事者には、給与が支払われることになり、競馬事業として充分に自治体に貢献しているのではないのでしょうか。

このように競馬を開催する意味をファンに認識させることも重要な課題ではなからうか。

この一年間で、昔の競馬と違って、いかに今の競馬事業の開催が難しいか、本当に分かりかけてきたものであり今後、更に勉強をしたいものであります。

ばんえい競馬は、北海道開拓の歴史に貢献し、生活にかかせない競馬であり、これを守り一層発展させなければならない、産業ではないだろうか。

そうしたばんえい競馬の発展には、振興策はもちろんです、経営努力も実施し、よりよい競馬をし、ファンに喜ばれる競馬にするため思いつくまま勝手に考えて見ました。

一、ファンが一日楽しめる競馬に

家族づれが来て、馬券購入だけでなく、

他の遊びも出来る場所を整備

一、レースの工夫

レースの工夫をし、スター馬の創出とファンの心理をつかむ創造性あるレースの実施

一、ばんえい競馬開始以来の歴史展の開催。

一、競馬関係者（人馬一体）のデモンストレーションを実施しファンにアピール

一、ローカル競馬としての魅力を

ローカル競馬としてファンのアイデアを取り入れ魅力ある競馬の実施。

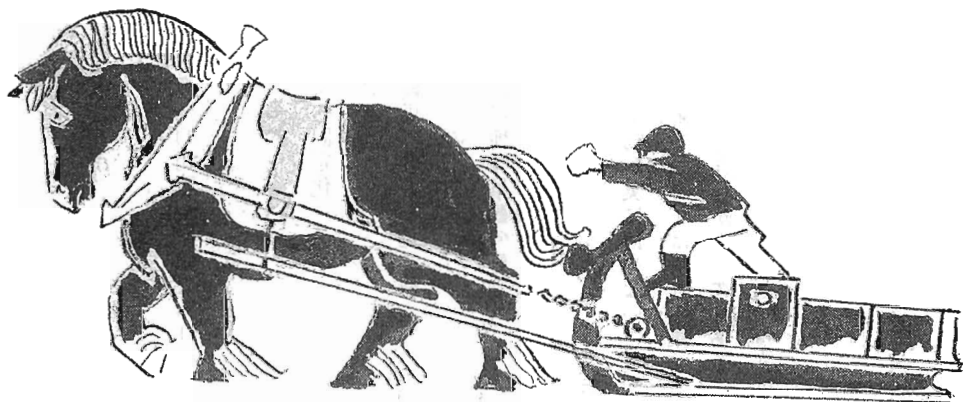
ファンあつてのばんえい競馬、今こそ、主催者も、馬主も、競馬関係者一同、競馬事業の陽を消すことないよう考えよう。

誠に勝手な放言であろう。

一年間担当して思いつくまま意見を述べて見ました。

そして、最後に「原点」にもどり、再度考えて見たい昭和六十一年度ですが、ばんえい競馬の発展が、大きく飛躍することを、祈るものであります。

ばんえい競馬ばんざい。



これからの競馬に思う。

帯広市競馬事務所

主 事 井 上 隆

早いもので、競馬事務所に異動となつてから、丸七年を過ぎようとしている。

前の納税課勤務も、ちょうど七年であり、競馬事務所と同じ年数を迎えたことに、感慨深いものを覚える。

競馬事務所への異動辞令を受け取つた時には、勤務場所がどこにあるのか判らず、人に聞いてみたが、競馬事務所だから競馬場だろうと言う人が大半だったので覚えているが、市役所と競馬場を行ったり来たりし、また、今みたく新聞紙上を賑わすこともなかった当時は、当然のことかもしれない。

競馬の知識が全くなかつた私に、来た当初、

馬券の見方を教えてくれたが、単勝、複勝、連勝の説明さえ、右から左の耳へと素通りしていったことを、今、競馬場で、馬券を初めて買う人に、馬券の買い方、式別等を教える時に、ふとなつかしく思いだすことがある。

競馬に来た当時は、まだ手売り発売で、二年後の昭和五十六年に機械化されるまで、払戻を担当したが、払戻業務もようやく判りかけてきた矢先、機械化を担当していた前任者が、機械が稼動する直前の四月一日で異動となり、その後を引継ぐこととなったが、開催が始まるまでの約一ヶ月間は、台風の中に放り込まれたようなものでした。

その年は、四月二十五日からの開催であり、

機械化の初年度ということで四月九日頃から従事員の研修があり、その準備や、従事員の欠員補充、機械化に伴う看板作成、消耗品、印刷物の発注と、次から次へと仕事があつたものでした。

まさか、四月開催であり、かつ、機械化の初年度にその担当者が異動するとは夢にも思つていなかったため、何の知識もなく、聞くこと、出てくること、全てが、判らないことばかりで、何十回となく前任者に問い合わせたものでした。

自分の仕事で精一杯で、新任者にゆつくり事務を教える余裕もないまま、勉強しながら残業の毎日であつたが、よく体が持つたものだと思ふ。

話がでては消えていった一部事務組合の設立が、昭和六十三年度から実施されそうだが、競馬事務所に来た当時も、一、二年後に組合が設立され、二、三名札幌に向かうという話があり、札幌に実家がある私が適任者と、よく驚かされたものである。

それから七年、話がでては各市の思惑がからみ、立ち消えていったが、今度こそ実現して欲しいものだと思う。

しっかりした情勢分析のうえに立つた、長期ビジョンを持たぬまま、日和見主義的発想で、今日まで競馬運営をしてきた結果、御承知のよ

うに、昭和六十年年度の帯広市営競馬場は赤字決算となり、昭和六十一年度についても、内部留保金もない状態で、売上につながる振興策を、単市だけでは実施できる状態になく、経費の節減に努めても、赤字決算は避けられそうもない。

競馬離れが益々進行していくと思われる情勢を打開するために、公務員の発想をなくした、柔軟な競馬運営ができる一部事務組合が設立されない限り、昭和六十三年以降についても、帯広市に明日はないと言っても、過言ではないだろう。

他市においても、現在の自分の市だけを見詰めた経営では、収益が益々悪化する情勢の中、いずれ何年か先には帯広市と同様の状況に直面するものと推察される。

一部事務組合設立に向け、定数、収益金の配分方法、執行体制等組合内部の整備面に重点が置かれ、現在直面している状況を打開できる振興策については、こういうことができずという程度しか論じられないのは、残念な事である。

組合が設立されるのは、まだ二年も先のことであり、その間競馬をとりまく状況が好転する見込みがない時に、組合が設立してから対策を考え、実行するというのでは遅すぎるのではない

だろうか。

組合設立の年から円滑に、かつ、しっかりと情勢分析のうえで、長期的ビジョンにたった振興策が実施できる体制を、積極的に組合設立までの二年間で構築して欲しいものである。

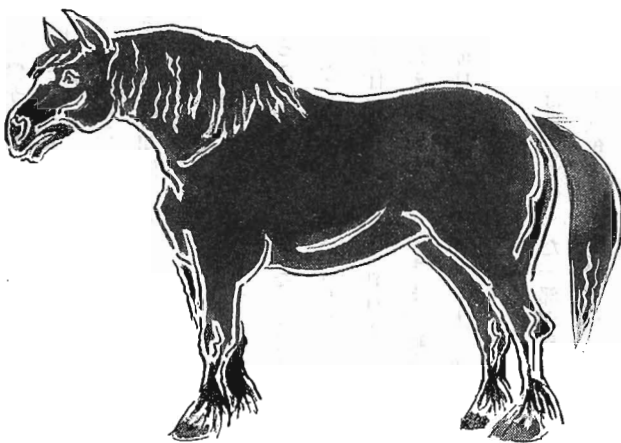
そのためには、できるだけ開催業務からはずれて、現在の運営、各市の利害等に惑わされることなく、新しい発想を持って、競馬ということの内、外面より見つめ直すことのできる専従者が必要であろう。

考えつく限りでも、相互場外の在り方、場外の施設整備、フアンのニーズ等検討し、実行しなければならぬ問題は数多くあり、調査、企画、実行できる一定の権限を専従者に与えたうえで、組合設立当初から、長期ビジョンに基づき、実のある運営を実施できる体制が整うよう重ねて希望するものである。

三人寄れば文珠の知恵ということはあるが、関係者一同知恵を出し合い、(突拍子もない考えの中に、いいヒントが含まれている場合も多い。)また、それを聞き入れる環境を作り出し、ばんえい競馬が永く存続するために、一部事務組合設立に向けて努力したいものである。

上層部の決断を期待する。

あと何年競馬に携わるものか、辞令ひとつで異動する身では予想もつかないが、私にとつて帯広競馬場は思い出の深い場所であり、この帯広競馬場が永く競馬場として存続することを願うとともに、いつの日か、あたらぬ予想紙を片手に、あたらぬ馬券を買っている自分の姿を夢に見ながら、競馬に携わっていきいたいと思う。



広報事業

昭和六十年度のばんえい競走広報事業は、数年来下降線をたどっている売得金額に歯止めを掛け、新規ファン獲得のため四主催市それぞれ趣向をこらし、ファンサービスの実施、各種イベントの実施と広報活動を行なってきました。

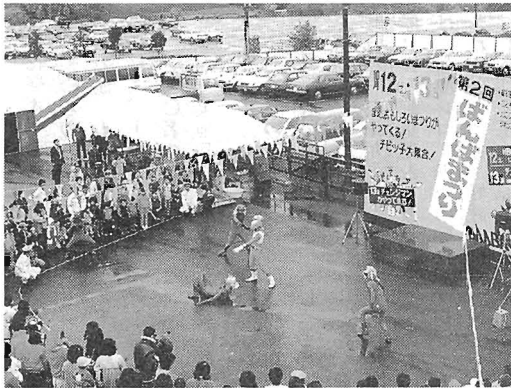
今年の広報活動実施状況を、四主催市の担当者の方々から報告いただきましたので紹介いたします。

◎旭川市

旭川市の広報事業は、ばんえい競馬の持つ「力強さ、勇壮さ、牧歌的温さ、素朴さ等」のプラスイメージに溢れた競馬を最終ターゲットに定義し広報事業を推進した。

旭川ばんえい競馬が、今後市民のレジャーとして広く親しまれ、大きくはばたいて行くためにも、北海道固有の価値ある「ばんえい競馬」としてのイメージビジョンを想定した上で、ハード・ソフト両面から見直を行った。

今年度は、第二回ばんば祭りを中心に若者、婦人、子供等を対象としたイベントを展開し健康的で親しめる場であることをアピールし観客動員を図った。



主な広報事業

- 一、第二回ばんば祭り
- (一) ファン参加のラジオ公開録音
- (二) 子供向マンガ映画の上映
- (三) 子供達に大人気の「チェンジマンショー」の実演
- (四) ばんばシャトル号の運行（キヤクタターバッチの配布）
- (五) 緑日店の開設（金魚、ヨーヨーすくい、わたあめ、焼いも、焼イカ



(六) 等の安価販売）
風、木工教室の開設

二、ばんえい競馬実況テレビ中継
北海道民に郷土が生んだ「ばんえい競馬」を視覚から抵抗なく取り入れられるような大衆番組を放映した。

三、ばんえい誌によるばんえいPR
ばんえい競馬を観光資源として活用するとともに、市民にもその価値観を再認識させるため週刊読売「小町百景（旭川ばんえいと味覚）」週刊平凡「旅（旭川ばんえいと安全地帯）」による記事掲載を実施し、多くの人々に旭川ばんえい競馬を紹介した。

旭川市農政部競馬事務所
事務吏員 千葉厚三

◎帯広市

今年度の帯広市営競馬は、道内のトップを切って、四月二十日より五月十四日までの前半戦三開催と、十一月二日より十一月二十七日までの後半戦三開催で、科学万博協賛競馬による一開催増の六開催を実施した。

家族ぐるみで楽しめる競馬場としてのイメージアップとファンサービスの充実を図るため、次の様なファンサービス・イベント等を実施した。

ファンサービスとしては、国際科学博覧会事務長の協力を得て、「つくばEXPO 85 パネル展」をスタンド二階で、前半戦の開催期間中実施し、四月二十八日には、科学万博協賛特別レースを記念して、万博サインペンを先着一、〇〇〇名のファンにプレゼントした。

五月五日のこどもの日は、兜を形どつ



た六花亭オリジナルチョコレート、先着五〇〇名のちびっ子にプレゼント。その他、十一月二日にコーヒーマシンの無料サービス、十一月四日は、スピードくじで、三〇〇名のファンにマスケットプレゼントを実施し、ファンサービスに努めた。

イベントの実施については、開催初日(四月二十日)に新人歌手、あしべまこと招いて、レコードキャンペーンを、競馬場と市内藤九デパート前で実施し、開催PRと新曲発表を兼ね、ファンの方には、新曲レコード一〇〇枚がプレゼントされるとあって、好評を得た。

また、四月二十九日には、十勝出身の十勝花子ショー、五月三日は北原ミレイコンサート、十一月三日横内淳ヒット歌謡ショーを競馬場で実施し、多数のファンが来場され、熱唱を聴きいていた。その他、日曜日、祝祭日をレディースデーとして先着二〇〇名の女性ファンに高級パンストのプレゼント、毎日曜日は、ポニー乗馬サービスを実施し、ちびっ子達で賑わった。

帯広市農務部競馬事務所

主事 吉井 正則

◎北見市

北見競馬では、昭和六十年年度のファンサービスとして、左記のとおり実施いたしました。

六月十六日 第一回ファンサービスデー

(婦人用自転車三十台の抽選会)

六月三十日 親子デー(子供用自転車

五台の抽選会、ファミリーランド乗物券等を子供に進呈)

九月八日

レディースデー(ネットレス、イヤリング二十本の抽選会(女性のみ)人場した女性にパンスト進呈)

九月十五日

お楽しみ抽選会(スピードクジで温度計付キーホルダー五百個プレゼント)

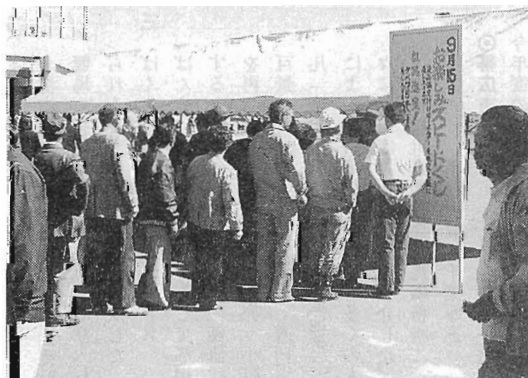
九月二十二日第二回ファンサービスデー(カメラ二十五台の抽選会)

万歩計、スポーツタオル三点セット二十五本の抽選会)

九月二十九日ファン感謝デー(血圧計

ファンサービスは、開催中の日曜日に実施したが、日曜日平均入場者、三、三三〇人を上まわった日は、六月十六日(四、〇四三人)、六月三十日(三、七〇四人)九月二十九日(三、四二二人)の三日間であった。

次に発売金額はどうであろうか。日曜日平均発売金額は、一億三千五百万(百万未満切捨て)で、平均発売金額を上まわった日を見てみると、入場者の時と同じ日の六月十六日(一億四千五百万円)六月三十日(一億五千万円)九月二十九日(一億五千五百万円)の三日間



であった。参考として、ファンサービ
スを実施しなかつた六月二十三日、九月
一日の日曜日は、入場者、発売金額とも
に、平均を下まわっている。

ファンサービスを実施した日曜日の入
場者数、発売金額を単純に日曜日平均入
場者数、発売金額と比較するには、過去
のデータや、天候、他の催物等の有無
について、詳しく調べなければならぬ
が、紙面の関係で省略させていただきます。
私の結論を言うと、ファンサービスは、
発売金額に十分効果があつたとみてはみ
ずぎであらうか。

大変大雑把な分析で結論を出してしま
つたが、本来ファンサービスは、競馬フ
ァンに日頃の「愛顧に感謝の意味を込め
て実施するものであつて、客寄せの手段
としてファンサービスを実施しないよう
希望しファンサービスの雑感といしま
す。

北見市農務部競馬事務所

事務吏員 岡 嘉彦

◎岩見沢市

今年の市営競馬は、七、八月の夏期お
盆を中心とした五回連続開催で、特に短
い北海道の夏と言われておりますが、今
年は蒸し暑く長く感じる日々の開催期間
でした。

当市の競馬事業における広報活動につ
いてご紹介させていただきます。

(一)、日程の告知については、北海道の動
脈、札幌、旭川間の国道二二号線、それ
に岩見沢、室蘭間の道南に通じる国道二

三四号線等が交差しており、近時の車社
会での国道沿に「野立看板」「ラジオス
ポット」等を重点に実施しました。

(二)、ファンサービスにおいては、「ファ
ン感謝デー」を設定し(初日、中日、お
盆、最終日曜日)、それぞれの開催日の
先着入場者から抽選により記念品を進呈
する方法で「空知名柄米キタヒカリ」
「小林酒造名酒」「カネヒロ美味ジンギ
スカン」等を各企業から協賛をいただき、
ファンからも大変好評を得た次第です。

(三)この外、暑い時期の開催でウチワ、又、
ポケットティッシュ、マツチ等日程広告
と併せファンに配付しました。

(四)、イベントとしては、恒例による「ば
んえい婦人教室」を牝馬特別競走と併せ
実施しましたが、教室は馬の見方、馬券
の仕組、市の財政寄与等の講義内容で札
幌市等のご婦人から問合せがあるなど、
仲々の人気があります。又、参加者には、
記念品(オリジナルエプロン等)を進呈
しました。

次にファン人気投票によるポプラ賞競
走は、回を重ねる毎に投票数も伸び人気
のあるところであり、投票者の中から抽
選による賞品も今年は、カラオケセット
メンズバック、オリジナルTシャツを進
呈する等して、年々レースとして定着し
てきております。

又、パネル展は、ばんえいオープン馬
を中心としたパネルを展示し、展示した
パネルを市営岩見沢記念競走日にファン
の投票抽選により進呈しました。

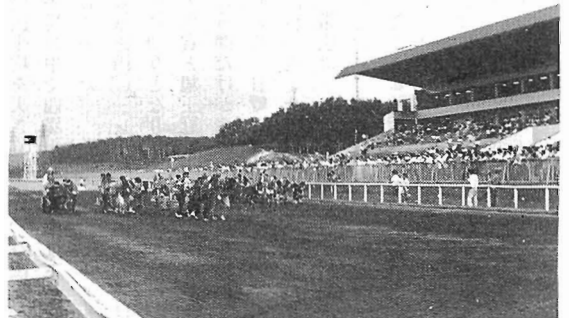


この外、岩見沢競馬ファン感謝の集い
として岩見沢競馬花火大会を競馬場を会
場を実施し、ファンが一万五千人も真夏
の涼を求めて観覧したが、数年前の競馬
開催日を懐しく想われました。

更には、「人間ばんば大会」を開催日
の昼休みに実施し、この応援合戦も華々
しく各チームの力自慢を競い合い、開催
日の話題となっております。

その他、チビッコを対象としたぬいぐ
るみショーやポニーの無料乗馬サービ
スを実施し、ガンバ君キーホルダーをプ
レゼントをする等、種々ファンサービ
スに努めました。

岩見沢市農務部畜産課
主事 前田憲孝



五年連続売上低迷の

大ピンチ

北海道市営競馬協議会

事務局長 鈴木 一彦

昭和六〇年度も相互場外と釧路場外に

期待をかけ、また昭和五十九年の四年振りの水田大豊作と平年を上回る畑作の好調で、本道農業経済の好転化を心待にしていたが、それ等の期待は見事に裏切られ、売得金の一日平均前年対比は、八九・三%の不振な成績で終了し、昭和五十六年から連続五年間売上ダウンの憂慮すべき年となった。

六〇年度を顧みて

本年度は、休催競馬場を利用しての相互場外発売日数を大巾に増加し、また日本中央競馬釧路サービスセンターでの相乗り場外を四月から発売する等、場外発売に重点をおき、帯広競馬場での科学万博協賛競馬の開催、北見競馬場での薄暮競馬の実施、PR活動の強化等々、五十五年度をピークに下降線をたどっている売上に、歯止めを掛けるべく努力をし、今

年こそはと期待に胸を膨らませながら、

四月二〇日帯広で開幕、二十一回、一二六日を開催、十一月二十七日帯広競馬を最終日として無事閉幕することができましたが、開幕当初から期待は次々に崩れだし、秋になっても復調の兆を見ることができず、単年度赤字決算見込の競馬場は、史上初の帯広と五十八年度に続いて二度目の旭川で、ばんえい四競馬場の半数の二場が赤字見込の厳しい年となった。

(開催回数と日程)

開催回数は、旭川、北見、岩見沢の三場は各五回、帯広は科学万博協賛競馬の一開催増で六回となり、合計前年と同回数(二十一回)、一、二六日を開催した。

開幕の帯広初日の四月二〇日は、過去に経験のない早い開催で、早春残雪の溶けきれない競馬場での開催で売上も伸びなやみ、また、開催回数も昨年(二十一

回)に増加された為、無理な過密日程を組まざるを得ず、十一月十二日間に十日とか、十八日間に十五日等の休催日の少ない連続開催が数多く組込まれ、四月二十日から十一月二十七日迄の二、三二日間に、開催日が一二六日に対し休催日が九六日と言う、毎日が競馬競馬の強行日程でファンはいささかバテ気味となった。

前年度は、釧路場外発売の関係もあり八月以降は極力土曜日の開催を避けましたが、本年度はファンの要望もあり、七月の岩見沢を除き土、日曜日を中心とした日程編成となった。

(売得金額)

本年度の売得金総額は、二〇四億四、八七〇万円

前年対比 一八億一、五八一万円減と大巾に低下し、比率も、八九・三%の成績で、相互場外、釧路場外等に大きな期待をよせていたが、結果は五年連続売上減少の憂慮すべき事態となった。各競馬場別の売得金額は、

- 旭川 五八億〇、一八六万円
 - 帯広 五五億三、〇四三万円
 - 北見 四五億〇、二七八万円
 - 岩見沢 四六億一、三六一万円
- で、四場共に予算を七億一、二億円も下廻る不振な成績であった。
- 一日平均売得金の前年対比は、
- 旭川 八七・〇%(六四・九%)
 - 帯広 八四・八%(五八・五%)

北見 九〇・五%(六七・一%)
 岩見沢 九五・四%(五七・一%)
 平均 八九・三%(六一・五%)

で、昭和五十六年度の八七・一%に次ぐ予想をはるかに超えた不本意な成績となった。

参考迄に、昭和五十五年以降の各場別上昇率を表記すれば、

場	55年	56年	57年	58年	59年	60年	55年対比
旭川	107.0	96.2	81.8	86.3	109.8	87.0	64.9
帯広	113.7	76.6	100.6	86.3	89.0	84.8	58.5
北見	117.0	88.8	95.1	100.6	95.4	90.5	67.1
岩見沢	112.0	91.7	83.7	99.5	78.3	95.4	57.1
平均	110.9	87.1	90.6	94.4	92.6	89.3	61.5
平全	102.3	94.6	92.6	91.9	87.2	96.0	67.4

で、全国平均を大きく下廻り、全国三十一競馬場の中で四場平均上昇率は下から六番目であった。

一日五億円、一レース一億円突破等は遠い夢物語りとなり、不振の本年度は、農水大臣賞と旭王冠賞の二大ビッグレースの二日間だけがやっと三億円を確保できたものの、日曜日及び祝日であっても二億円台の売上を確保できたのは旭川だけで、帯広は一日、北見は三日、岩見沢はお盆を含めて四日間だけであった。

昨年度から本格化された場外発売は、中央競馬同様に本場の発売額は予想通り低下の傾向にあり、本場七二・八%(前年比三・六%減)場外二七・二%の比率となった。

本場一日平均売得金の前年対比は、
60年度 55年度対比

旭川 八二・七％(五〇・一％)
帯広 七三・一％(三八・九％)
北見 八八・七％(四四・一％)
岩見沢 九七・一％(四六・七％)
平均 八五・一％(四四・八％)

で、特に目立つのは帯広で、ピーク時の55年対比では三〇％台まで低下したが、年間土・日曜発売の中央釧路場外の影響が、強く現われてきたものと推察することができま

一人平均購買額(除場外)及び前年対比は、

旭川 四八、二〇五円(一〇三・五％)
帯広 四〇、三五五円(八九・三％)
北見 四六、七五四円(八八・三％)
岩見沢四五、三四四円(九五・二％)
平均 四五、〇四一円(九四・三％)

で、旭川だけが三・五％増であったが、北見は今年から五万円を割り、帯広はやつと四万円を確保した低調成績だった。尚全国平均は、四三、八〇〇円で前年対比一〇〇・一％と横ばいであった。

全国地方競馬の一日平均売得金上昇率(一月〜十二月)は、九六・〇％で、依然として低落傾向が続いているが、しかし昨年一〇〇％を上回った場は二ヶ所であったが、本年は高知の一・二・四％をトップに、一〇〇％以上を確保し復元の兆がみえるのは一〇場に達し、また年末年始に開催の九場はいずれも前年を四・五〇％を上回る好成績をあげ、特に園田

は久し振りにレコードを樹立する等明るいニュースが聞かれる様になってきた。

道営競馬との売上対比は、昨年に引続き売得金総額において、一億八、九六七万円凌駕することができた。

道営競馬の一日平均売得金を一〇〇として、競合した旭川と岩見沢の二場を比較すれば、

旭川 一六二・五％
岩見沢 八九・四％

で、道営旭川は上昇率一六・七％で全国第二位、道営岩見沢は一〇・六％で全国第六位と共に好成績であったので、ばんえい旭川は五五・四％減、岩見沢は五・二％減と両場共に前年度を下回る成績となった。

(入場人員)

本場入場人員は、売上同様に連続五年間低下し、前年対比九〇・三％の成績であったが、場外発売日数が昨年より五三日増加した為、総入場人員の前年対比は一〇二・一％と若干ながら増員した。

本場入場人員 三三〇、六九七名
場外入場人員 二三四、五六七名
合計 五六五、二六四名
四競馬場の本場入場人員及び一日平均前年対比は、

旭川 九二、八三九名 八〇・〇％
帯広 九一、二四三名 八一・九％
北見 六三、三五〇名 一〇〇・五％
岩見沢 八三、二六五名 一〇二・一％
で、岩見沢と北見は若干増加した為、売

上も九〇％台を確保できたが、旭川と帯広は九〇％を割る成績となった。

男女別の本場入場人員とその比率は、
男性 二七八、四四一名 八四・二％
女性 五二、二五六名 一五・八％

で、55年以降は女性の入場者数を調査し、女性の入場率の高い競馬場は低い場より成績が良いと言う傾向があるが、今年も女性入場率一七・〇％の岩見沢が本場売得金前年対比九七・一％とよく健闘し、北見が一六・四％で八八・七％、旭川が一五・二％で八二・七％、帯広が一四・九％で七三・一％の成績であり、女性入場率と売得金上昇率が比例されている結果となった。

(場外馬券発売)

釧路場外も二年目を迎えて四月の初開催から発売することができ、また相互場外も極力発売日数を増加する等、場外発売は昨年より大巾増となった。

本場	場外発売場と発売日数				
	旭川	帯広	北見	岩見沢	釧路
旭川	30	36	30	14	16
帯広	24	36	15	18	16
北見	18	14	18	14	16
岩見沢	18	14	14	17	16
合計	66	72	84	29	65
	316	53	83	104	76

昨年と比較し、旭川六日、帯広一九日、北見六日、岩見沢五日、釧路一七日、合

計五三日の増加となった。

各場毎の場外売得金と場外比率は、
旭川 一二億二六六一万円 22・9％
帯広 一八億四八八五万円 33・4％
北見 一五億四一三万円 34・2％
岩見沢 八億三八〇五万円 18・2％
合計 五五億五四六五万円 27・2％
発売日数が五三日増(二〇％増)にもかかわらず、売得金は一億五千万円増(二・八％増)と伸びが低く、場外比率も三・六％増に留まった。

参考として道営競馬の場外比率は二三・〇％であった。

場外発売所毎の売得金額は、
旭川場外 一七億二二一五万円
帯広場外 一四億八三九四万円
北見場外 一三億八八三一万円
岩見沢場外 二億二一八五万円
釧路場外 七億三八三三万円
で、一日平均売得金額と前年対比は

旭川場外 二六〇九万円 一〇六・四％
帯広場外 二〇六一万円 七九・五％
北見場外 一六五二万円 七九・六％
岩見沢場外 七六五万円 七〇・六％
釧路場外 一三三万五円 八〇・四％
で、旭川の一五六万円増以外は軒並に減少し、帯広と北見は中央釧路場外の影響岩見沢は道営札幌との競合、釧路は一週間に一〜二日の飛石発売による客放れ等が原因となったのではなからうか。
尚参考として、道営競馬場外成績は、旭川一日平均一五八七万円、帯広一六八七万円(一〇一・一％)釧路に一四五万

円(一一四・四%)で、それぞれ前年の成績を上廻った。

一人平均購買額及び前年対比は
旭川場外 三〇、四九四円 91・8%
帯広場外 二二、八二七円 86・7%
北見場外 二六、三四六円 74・7%
岩見沢場外二八、四七九円 80・0%
釧路場外 一四、〇三八円 78・2%
釧路が極端に少ないのは、道管と市営の競合日は入場者の区分が不明確の爲であり、市営単独発売日の一日平均売得金は一、三三九万円、一人平均は二一、六四九円で、帯広場外を若干下廻る成績であった。

入場人員は

総入場人員 一日平均
旭川 五六、四七六名 八五六名
帯広 六五、〇〇七名 九〇三名
北見 五二、六九六名 六二七名
岩見沢 七、七九〇名 二六九名
釧路 五二、五九八名 八〇九名
合計 二三四、五六七名 七四二名
で、場外発売二年目の旭川は一日平均前年対比で一五・八%増と大健闘し、本道No.2三六万都市の実力をみせ、また三年目の北見は六・五%増と固定ファンで安定し、二年目の釧路は横ばいの二・九%増であったが、四年目の帯広は毎年低下し、本年も八・二%減、二年目の岩見沢も一一・八%と大中に減少し、大萎縮しい場外であった。

釧路場外の中央競馬及び道管競馬の成績を参考に記すれば、

中央競馬 一〇四日(土・日曜発売)

発売額 七二億五、八〇七万円
一日平均 六、九七八万円
前年対比 一三三・八%
道管競馬 八三日(平日発売)
発売額 一二億〇、七三三万円
一日平均 一、四五四万円
前年対比 一一四・一%
市営競馬 六五日(平日発売)
発売額 七億三、八六一万円
一日平均 一、一三六万円
前年対比 八〇・四%

(競馬番組)

暗いトンネルを走ること四年、いつこうに明るみも見えず、苦しい財政が続いている為、本年度は昨年度と同じ開催回数も、報道費については大中削減も止むを得ず、前年対比八千万円減の二二億円を計上した。

出走延頭数 一一、九七〇頭

競走回数 一、二九〇競走

一競走平均 九・三頭

で、競馬番組の内容は前年に比較して大きな変更はなかったが、重点としては、オープン馬の保有頭数を増加する編成、四・五歳馬及び下級クラスの特別競走の減少、特別及び重賞競走の賞金を一九〇方式から一八〇方式に変更する等、苦しい予算のやりくりが大変であった。
重賞競走は例年同様に二十九レースを実施し、看板レースの三大重賞競走の一着賞金は、

七〇〇万円 農林水産大臣賞
六五〇万円 旭王冠賞、岩見沢記念

で、岩見沢記念がお盆開催の爲格上げされたが、帯広記念は格下げになり、その他の一着賞金は据え置かれたレースが多く、
四〇〇万円 旭シルバークップ
三〇〇万円 四レース
二五〇万円 七レース
二〇〇万円 一四レース
を実施し、二着以下は一八〇方式を一八〇方式に変更したので、若干減額となった。

(出走馬)

出走申込頭数 一、三〇二頭
出走実頭数 六一二頭
新馬登録頭数 七〇八頭
で、前年対比は、申込三三頭減、実頭数八五頭減、新馬二三頭減であり、実頭数の前年対比八七・八%に減少した原因は、能力検査基準の強化により出走馬の質の向上を図ったためである。

年令別出走実頭数は

三歳 一八五頭 四歳 一一三頭

五歳 九〇頭 六歳以上 二二四頭

であったが、三歳は六年振りに二〇〇頭を下廻り、四歳五歳も共に一六、十七頭の減となった。

年間取得賞金額の最高馬は、一四戦三勝、G1レースの旭シルバークップ、岩見沢記念、農水大臣賞の三重賞競走を制覇した九歳馬

キンタロー号 二、一九六万円
が、同厩舎であり昨年五歳No.1のキンタロー号に、一千万円の大差をつけて古馬No.1に輝いた。

キンタロー号は五十八年度の農水大臣賞の覇者であり、通算取得賞金が九、四二五万円に達したので、ばんえい史上初の一億円馬誕生が確実となってきた。

五歳馬は、二四戦四勝、ポブラ賞一着、旭クインカップ二着の

タニノヒメリユール号 七一四万円
が、雌馬ながら並居る雄馬の強剛を退けてタイトルを獲得した。

四歳馬は、一四戦三勝、文月賞と菊花賞のクラシック二冠に輝いた

ホウショウウリキ号 七七七万円

が、昨年三歳No.1のカネミフロンティア号を押えて第一位となった。

三歳馬は、一八戦一〇勝、イレネー記念一着、青雲賞二着の

ニューフロンテヤ号 八六三万円

が、三歳チャンピオンとなった。

一頭平均取得賞金額は

三歳 一四〇万円

四歳以上 一八九万円

全馬平均 一七四万円

であり、出走実頭数が前年対比八五頭減の爲平均値は上り、前年対比三歳が九万円増、四歳以上が一六万円増、全馬平均で一四万円増の成績であった。

雌馬優遇策は昭和五十八年度から実施してきたが、本年度も四一頭が出走し、雌馬確保率の一つの目標である二五%に

一步近づき、昨年度の比率一九・五%を上廻る二二・二%を確保できた。

三歳馬の性別一頭平均取得賞金額は

雄馬 一三万七千五百円
雌馬 一四万九千八百円

で、前年対比雄馬一四万四千円増に対し、雌馬はレース面と賞金面で優遇されているのに、二万三千円減の成績であり本年は雌馬の弱い年であった様だ。

馬格については、大型化が益々進み、昨年の史上最高を又も今年はあっさり更新してしまつた。

本年度最終出走時の馬体重の一頭平均と前年対比は、

三歳 八七九kg (1kg増)
四歳以上 九五八kg (9kg増)
全馬平均 九三四kg (6kg増)

で、最高と最低は、三歳九八三kg、七六五kg、四歳以上一、一三六kg、八三五kgであり、五歳馬ダイスパーエース号が十一月四日の出走時一、一四三kgで三着となつたが、これは出走馬の史上最高記録のようである。一トン以上の馬は、三歳馬はいなかつたが、四歳以上は八七頭でこれは新記録となつた。

(騎手成績)

調教騎手 四九名(新規三名)
騎乗騎手 三一名(新規一名)
で、前年対比調教騎手は同数、騎乗騎手は三名減の総数八〇名であつた。

調教騎手の成績は、
取得賞金 谷内二三松 六六四八万円

勝利度数 三浦 忠 五二勝
勝 率 長沢豊秋 一三・四%

で、谷内調教師は連続三年取得賞金第一位の偉業を達成し、引退の花道を飾ることができた。三浦、長沢両調教師の第一位は初回であつた。

騎乗騎手の成績は、

取得賞金 金山明彦 九五八〇万円
勝利度数 金山明彦 一二八勝
勝 率 金山明彦 一七・六%

で、金山騎手の一人舞台となり、勝利度は年間最多記録を達成し、通算勝利度数も一四四八勝で、一五〇〇勝の大記録達成も目前に迫つてきた。

また、千勝騎手が五十七年の金山騎手、五十九年の山田騎手に続き、本年度は、木村卓司騎手が五月十四日第八レースで、工藤正男騎手は九月三〇日第三レースで、それぞれ一八日目と一三年目まで念願の千勝を達成した。

新人大河原和雄騎手は、開幕初日の四月二〇日カッパル号に初騎乗、良く健闘し初勝利でデビュー戦を飾り、驚異的なスピードで二五勝を達成して△印が取れたが、その後あまり勝鞍にめぐまれず、三四勝に留まつた。

ばんえい調教会の重鎮である中西関松調教師と谷内二三松調教師が、十一月末日で調教師を勇退されましたが、ご両人は、帯広と岩見沢の調教会支部長として、永年にわたればんえい競馬発展の為にご尽力されましたことに感謝すると共に、今後のご多幸を祈る次第であります。

(馬産対策)

道内の農用馬飼養頭数は、昭和五十五年を最低とし、終戦後から続いた雪崩現象に歯止めが係り、昭和五十七年には一五、二二〇頭迄回復したが、最近のばんえい競馬の売上不振に比例して再び減少の傾向が続いている。

種付頭数も前年対比六六三頭減の八、六五九頭、生産頭数も前年対比五四五頭減の五、六四七頭に減少した。

しかし頭数は減少しても生産者の生産意欲が低下したわけではなく、むしろ量より質の向上に向つての熱意が旺盛となり、年々馬格は大型化され、平均馬体重量は、昨年度の史上最高を本年度はあっさり更新してしまつた。

「ダービー馬はダービー馬から」の馬産の原則が、遅時ながらばんえい生産界で見直され、競走経歴の優秀な種雄馬は数千万円で売買され、また本年度の三歳能力検査合格馬一八五頭の中で、競走経歴種雄馬の産駒が二二〇頭(六五%)に達し、ファンに馴染の深かつた往年の名馬の二世が、続々と競馬に出走する様になつてきた。

昭和六十一年度に向つて

昭和六〇年度の公営競技界にも、ようやく復元の兆が見え始めてきた。

中央競馬は二桁の伸びに近づく一〇九・一%、競輪一〇〇・八%、競艇一〇二・三%、オート一〇〇・三%と久方ぶり

に一〇〇%以上に浮上したが、残念な地方競馬のみ未だ浮上せずの九六%に留まつてしまつた。

ばんえい競馬も、この五年間続いた水面下から浮上すべく、売上増加対策として、場外発売日数を前年対比五二日増の三六八日を計画し、またファンサービスと売上増を狙い、場外発売の締切時刻を発売時刻の一〇分前にする予定である。

北見では施設改善の特別競馬を二開催予定し、岩見沢では七月開催の日曜日にユ一(遊)トピア・サンデーレースとして薄暮競馬の実施を計画中であります。

ここ数年米経営の合理化により、開催経費の節減を図つてきたが、昭和六十一年度はさらに大巾な見直しを実施し、執務員の定数減、従時員定数の再検討、報償費の減額、一般管理費の減額等々節減に節減を重ね、この苦境を乗り切る所存であります。

昭和六十一年度の開催日程は、四月二十六日北見で開催、例年より一回多い二十二回、一三二日を開催し、過去に経験のない厳冬の十二月一六日北見で終了の予定ですが、ファンの競馬放れに歯止めをかけるべく、競馬の公正を第一とし、番組編成に工夫を加えファンに魅力ある競馬の提供に努め、かつ、懸案の一部事務組合の設立、場外発売所の新設、光ファイバー利用の映像伝送等についての検討を、精力的に推進する予定でありますので、何卒よろしくご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

一〇〇〇勝の思い出

騎乗騎手

木村卓司

この度、一〇〇〇勝を達成したことは偏^{ひと}えに皆々様のご支援と、ご厚情によるものと、心より感謝致します。

幼い頃から馬と共に生活をし、父について、地元近郊の草ばんばを廻り歩きました。

そして、父の乗った馬を大きな声で応援し、馬が優勝すると優勝旗をかついで馬に乗り、馬場を一周するのが自慢でした。高校卒業後、家業を手伝うつもりの方が父の勧めで騎手免許を受けてみようと思ひ、受験した学科は、今と違い、それ程むずかしくなかったと思ひますが、面接は今同様厳しいものでした。

その頃のばんえい競馬はそれほど人気はなく、競馬だけでは生活が出来なく殆んどが副業とし

てやっていた様です。

父もハイヤー会社を本業とし、ばんえい競馬は、どつちかと云うと道楽というふう^に近所の人達に見られ、親の道楽に、息子もついて行くと云われたものです。

ですが、自分が選んだ道ですので、一生懸命やっていたらいい事もあると、父の励ましで頑張りました。

昭和四十三年初騎乗。何も分らず、父や先輩に教えられた事を守り、ただ大声をだして、ソリから落ちぬ様乗っていました。今と違い減量騎手制度もなく、仲々勝たしてもらえませんでした。

良い馬は、どうしても腕のいい父が乗り自分は

新人ですので、乗せてもらえる馬なら、どんな馬でも乗りました。それが今になったら良かったと思つています。

そして、一勝をあげたのが、フカガワザクラ号という馬でした。その馬は真知目な馬で、乗っているだけで勝たせてもらったのです。

騎手が一人前になるには、人それぞれ、違いはありますが、自分は五、六年はかかると思っています。

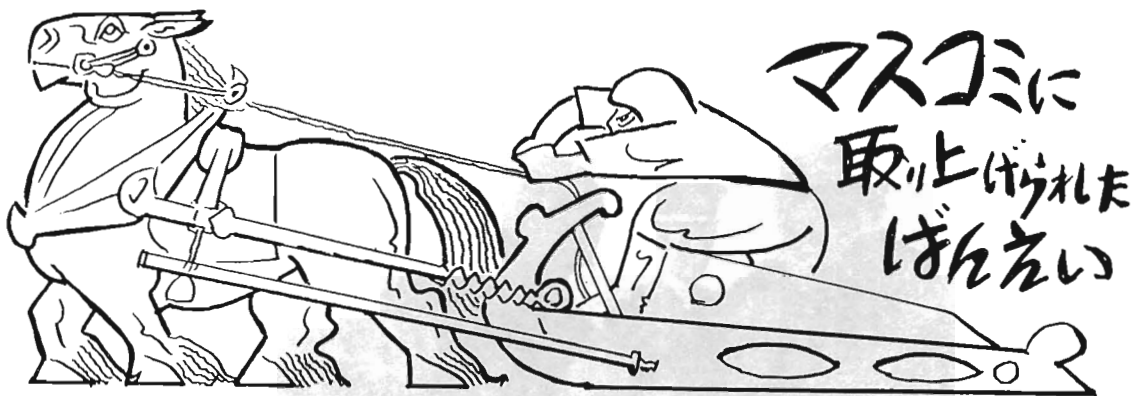
それには何事も、自分自身の努力が必要です。そして、騎手の場合は、やはり馬との出会いです。良い馬と巡り合い、その馬の気性をはやくつかみ、それをこわさぬ様に伸してやる。それには、調教師、厩務員さん達の協力が必要です。自分が、ここ迄これたのも、それ等に恵まれたものと信じております。

そして良き友でありライバルでもある、先輩山田勇作さん、後輩金山明彦君に囲まれ、最高の五十四年〜五十六年を送れた事を幸せと思ひます。

これからも、ファンの信頼を裏切ることなく、皆々様のご指導、ご協力のもとに努力し、騎手として恥じぬ様、邁進する所存であります。



年	騎乗数	1着	2着	3着	4着	5着	着外	失格	賞金額	
昭和43年	83回	4回	3回	5回	6回	10回	55回	回	198,000円	敢斗賞 1回
44年	143	12	19	21	19	18	54		1,207,000	好レース賞 1回
45年	143	15	15	23	10	25	52	3	2,503,000	
46年	140	16	21	14	12	25	52		2,971,000	
47年	259	52	35	28	21	26	95	2	9,101,000	
48年	319	49	45	50	37	28	110		13,314,500	リーディング第3位
49年	404	55	47	68	42	42	150		33,182,000	" 第3位
50年	408	64	65	41	49	55	133	1	44,692,000	
51年	422	60	53	51	56	39	161	2	55,973,000	" 第3位
52年	519	82	71	72	65	45	184		76,555,000	" 第2位
53年	542	81	80	67	75	55	182	2	74,605,000	" 第2位
54年	563	69	80	64	77	64	205	4	76,706,000	
55年	585	70	90	67	74	59	220	5	75,763,000	" 第4位
56年	589	80	61	64	76	63	243	2	78,439,500	
57年	647	90	90	61	61	66	279		84,040,500	
58年	688	89	89	78	74	62	294	2	94,154,500	" 第3位
59年	727	98	87	78	87	83	290	4	90,906,000	" 第3位
60年	747	87	89	77	87	75	332		83,067,500	



マスクミに
取上げられたい
ばんえい

1、一月二日 NHK・TV

PM五・五〇

今年のテスト受験馬は、約一二〇頭といわれる。それを目指して今日も特訓、特訓の生活だ。朝三時にはもう起きて、厳しい冬の調教が始まる。旭川競馬場厩舎で越冬した湖上調教師。

冬のせめ馬は大変だが、やはりレースの方が厳しい。今はまだつらいところまでやっつてはいないと言う。

2、一月四日 NHK・TV

PM七・一〇

これも旭川の三歳調教。全国向け放送。夜の六時半からニュースネット北海道でも取上げる。ばんえいは馬の持久力と瞬間の力を競う競技、三〇〇キロの重量をつみ高さ一メートル余の障害を二つ越えていく訓練をさせる。

3、一月四日 NHK・TV

AM七・五〇

最北の街佐呂間で二十四歳の老馬が毎日オガ屑運搬の馬車を引き稼いでいる。名は春勇号、人間でいえば百歳である。飼主の草野さんは八十一歳だが、尚、かくしゃくとして老馬と共に働いている。草野さんはもう五〇年も馬と一緒に働いてきたが、春勇号とは十年の付き合いになる。暑い時も寒い時もよく命令をきき、良く働らく、街の人も「元気で……」と励ましてくれるほどの評判だ。八十一歳と百歳の愛情はこまやか、珍らしくも美しい人間と動物の交流をニュースの中の一コマまで描いて見せる。大写真になると心な

しか春勇号の優しい眼に涙が見える。これは一月八日朝七時から再放送された。

4、一月十五日 NHK・TV

PM二〇・五〇

「シルクロード巡礼」、物凄い馬群が画面一杯におしよせて末しては去っていく、その数六―七集団、一団は約千頭と言う。「天馬は東北より来る」と唐の詩人杜甫もこの地の馬をほめたたえた。天山山脈の広大な山麓にはおよそ十萬頭の天馬が育てられている。体軀は中型中間種で黒鹿毛と鹿毛馬が多く二―三人の牧童がついている。

5、一月十七日 NHK・TV

PM六・五〇

これはポニー馬話の話、留萌の真鍋さん。父君が家畜商だったせいもあり、大の馬好きである。真鍋さんはポニー馬話を仕立てて八キロの雪道を二時間かけてスキー場へ行く、そこには子供達が大量待っている。小柄のポニーは良く言う事を聞いて一回十人位の子供を乗せてスキー場を一周する。子供達はポニーの可愛らしさにそばによって手をかける。夕方近く別れの時は姿の消えるまで見送ってくれる。ポニーは手軽に飼える、もつとふやして子供達に喜んでほしいと言うのが真鍋さんの願いだ。

これは二月五日にも再放送された。

6、一月十八日 HBC・TV

PM六・二〇

十勝音更にある種畜牧場は我国唯一の農用馬品種改良をやっている国立牧場で

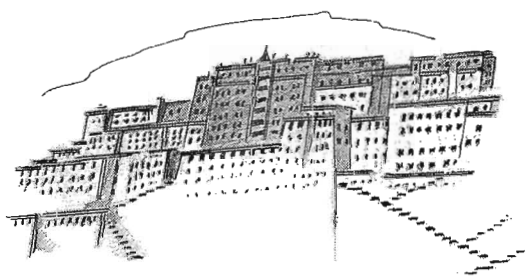
ある。二月はベビークラッシュの季節が始まる。運動不足による難産を防ぐため、毎日十五分間雪中の馬運動をやっている。牧草をめぐらした雪のチャーチにしつらえた水槽でのどをうるおし、良く乾燥した乾草で体力をつける。

7、一月二十日 HBC・TV

PM六・三〇

レポート 堂本暁子の「チベットのシンボル・ポタラ宮のすべ」

中国の秘境チベットの丘陵にそびえる



ポタラ宮殿はあまりにも有名だ。世界の屋根ヒマラヤの高峰群をはるかに眺望する広大な斜面に立つ白壁と窓の宮殿は八階建てである。これは五世ダライダマが権力を誇示するため建立し波乱多きチベ

ット秘教の歴史はこれより花ひらいたと伝えられている。

正月には各地から美男美女が集まり、又夏祭りにはチベット独特の競馬が行なわれる。厚さ二五〇センチもある壁、階段建築とも見える無数の階段、石を重ねてスキ間に鉄を流しこんで造ったという。

これこそ鉄壁ともいえる堅固な建造である。だっぴろい中庭、無数の菩薩堂、聖観音堂、百平方メートルの中に建つ西大殿には十五体の像が並び、宝石をちりばめた装飾は、けんらん豪華をきわめる。

素朴なチベット競馬にもひかれるが、ここではボクラ宮の紹介に喰れてしまっ

8、二月八日 HBC・TV

AM 八・五〇

「オロシヤ・シベリヤ大旅行」

このところ人気の上がっている作家、椎名誠のシベリヤ横断大旅行を、HBCは大きく取上げる。

今から約二百年前江戸幕府末期の頃、千石船の船頭、大黒屋光太夫が江戸への舟旅で難波し、シベリヤ西端のオホーツク海岸に漂着、極寒の大陸を横断して当時の首都ペテルブルグ（現在のレニングラード）まで約四万キロの旅の末、時の女帝に日本への帰国を嘆願したという。辛苦の史実を確かめようとして、企画した壮大なドラマである。

二百年を経た今回の企画は、まず七〇〇キロの空の旅で始まる。

空からは広い海原の彼方にアリュエシヤン列島が見えてくる。ここで大破した

船を手当して更に漂流に等しい航海を続けオホーツクの大海を渡るのである。

光太夫は伊勢の白子を出港して江戸に向う途中、大嵐に見舞われてさしも大型の千石船も大破し八ヶ月の漂流の後、このアムチトカ島に打ち上げられた。十七人の船員は次々と死にここに上陸したのは僅か六人だけだった。

当時三十二歳の光太夫はここに上陸し



て船中で倒れた仲間三人を葬る。今でも浜辺に近い丘に墓石が立ち、天明一年没北嵯門尺（ほくさもんじやく）と刻まれた碑銘が判読できる。

上陸してからの光太夫の旅は徒歩から始まり土地の人に馴じむに従って馬と馬槽を利用し、夜の多くは野宿だったとい

うからその辛苦は想像を絶するものがある。

今回は飛行機と、馬と馬槽と自動車（トラック）を利用しての旅だが、最後には列車をも利用して完遂する。

最も熾烈な冬のシベリヤ旅行は光太夫の旅を偲び、オホーツク市を起点として始まった、主として馬を利用してのシベリヤ横断は熾烈な体験だった。

シベリヤの馬は驚くべき耐寒耐久力を持つている。特に氷点下六〇度〜七〇度に達する極寒のシベリヤで力強く生きるヤクーツト馬の素朴なゴロツとした体軀と元気さは目をみはるものがある。どこか道産馬に似た相貌と体付は栄養満点、頑健そのもので見渡す限りの雪原や、林の中を奔放に駆け廻る。ふき出す息はまるで水蒸気のように吹き出て煙のように霧敬する。

果てしなくつづく大森林の中を一行はヤクーツト馬に乗って行く。このあたりの家はまばらで、炭鉱労働者や狩猟を業とする人が多く住みついている。

氷点下六〇度の中でたき火をして、一行の人達にラーメンを御馳走して喜ばれる。電気もないこの地方の人達は皆、頗る親切で純朴なソ連人だ。おそらく二百年前、この地に足跡を残した光太夫達はこの親切によって生きながらえたのだと思っ

この地方の狩人達の多くは遊牧民の末えいで獣皮を取って、これを売り少からずの収入を得ているようだ。

一軒の猟師の家を訪ね土地料理を御馳走になる。大皿に盛った馬の肉、そのソーセージ、馬乳のバター、馬肉の塩漬、トナカイの肉の一塩漬など……。馬肉は人間の食欲を充実し体力をつけ、なものにも劣らぬ栄養源だと教えられ、馬肉を主食とするこの地方の人達が、いかに極寒の中で力強く生きていくかを知る。つやつやとして血色のいい顔、たくましい体軀、明るい性格に驚き感嘆する。

近所の人達も集ってきて「春を呼ぶ唄」と踊りで歓迎してくれる。陽気で親切なこの人達と別れを惜しみながらトラックに乗り込む。シベリヤの果てしれぬ雪原と森の中に何十キロも続く直線道路が次から次へと展開する。中には百キロを起える直線道路もある。車は地吹雪の中をばく進する。

やがてアイアン峠を越え、悠然と流れる海のように広い大河レナを右に見、オホーツクから約一三〇〇キロ、シベリヤの首都といわれるヤクーツク市に到着する。シベリヤはソビエト連邦の二分の一以上の広さがあるといわれる。ヤクーツク自治共和国はそのシベリヤの大半を占める行政区域である。市内には石造のビルが立ち並び人通りも多い。

市内の立派さに比較して郊外に出ると住宅や既舎はすべて木造。驚くのは家屋や堀、木柵がなぜか傾いている。それは厳冬で土地が凍り、春になると土台を持ち上げるからだという。ここで椎名の旅は終る。

光太夫の手記には寒さは格別であったが、夏も又暑く地獄の旅だったとあった。九年六ヶ月の旅から、一七九三年日本に帰国する。根室海峡を経て国後島が見えた時、光太夫の望郷の念は奴可ばかりだったろう。

寛政四年十月七日根室に到着、故国の土を踏んだ。当時の幕府は厳しい鎖国制をとっており、光太夫はしばらく松前藩にあずけられ、その後も蟄居生活をしいられたという。光太夫はこの旅行中に多くの体験と知識を得たが現在早大図書館に保管されている。「算術入門書」は当時貴重な研究書として、後世に遺され、近代科学の発展に多大の貢献をしたと高く評価されているが、その功を溜められず没したという。(三時間)

9、二月十二日 NHK・TV
AM七・三〇

朝のニュースで四月から始まる帯広ばんえいの調教ぶりを紹介、前日十一日は猛吹雪。その中の調教は物凄く地吹雪に荒れる練習馬場を、髪を振りみだし、驚進する重ばん馬と調教師の婆はいかにも北海道の荒々しい冬の風物とも見えた。

10、二月二十四日 HBC・TV
AM九・〇〇

兼高おたる世界旅行。今日は中ソ国境地帯ウイグル地区の生活を見せる。

このあたり馬と羊が群生している。馬は小型の軽種に似て精悍。住んでいるのはカザフ族の者が多く羊肉を主食にしているという。斜面のむこうから乗馬隊が

登ってくる、若いも若きも男も女も……。

姑娘達はベルシャ・トルコ系でなかなかの美人ぞろい。服装も帽子も郷土色にあふれ、刺しゅう模様は美しく華やかである。この日は、お祭りとおって恒例の羊皮のとりあいがある。猛然と駈けてくる乗馬の群れが地上の羊皮を鞭で拾う。これを取り合い争うのである。昔は生きた羊を追って捕え、これを取り合い肉は裂けて血しぶきが散ったというから残酷なものだった。全速力で駈け廻る大馬群が人馬一体の妙技で右往左往する。

馬人たちの馬術は絶妙。馬はまるで自分の体の一部だという。十三、四歳で既に達人の域に達する。ゴールに羊皮を投げ入れた者が勝ちとなる。アフガニスタンにも同じゲームがあり、騎馬民族のスポーツとして、又祝祭日の風習として現在に残っている。

11、三月四日 NHK・TV
AM八・〇〇

北見には本邦最北の競馬場がある。ここには平地競走のコースもある。しかし平地はもう二十七、八年前からやっておらず、あたかもばんえい専門競馬場の観がある。ばんえいだけでこれだけ立派な競馬場が建ったといってもいいほどだ。

この競馬場を推する網走支庁管内にはばんえい用繁殖牝馬が約一五〇〇頭おり、年々五・一六〇〇頭の農耕馬を生産している。今はその誕生シーズンに入り生産農家の厩舎からはやがて可愛いとねっ子が出てくるようになり、とんだり跳ねたり

するのが見える。

12、三月六日 NHK・TV
PM六・四〇

いま南幌町には十八頭位しかばん馬はいない。軍馬生産育成地として盛んだった頃は一年を通じて馬車を引く農耕馬が往来を行き交わしていたものだ。街の人は今見る馬糧を珍らしそうに昔を惜しむ。

13、三月八日 NHK・TV
AM七・五〇

ばんえい競走馬は一般に農耕馬といわれている。またの名を産業用馬ともいう。血種別にいえば重種、中間種に属するが、馬体から見れば重ばん馬、鞍馬といえる。戦後軍馬生産の目標が失われたとき、競馬の目的は大きく変化し、スポーツと馬産を旗印とした。ばんえい競馬は産業、用馬の生産改良を目的にするという点で、国会でも格好な説明資料になった。

音更の種畜牧場は既述のとおりばん馬生産の国立牧場である。生産期を迎えて分娩後の運動のため春が待ち遠しいと吉川種畜係長はいう。生まれてきたとねっ仔は黒色のものが多くばんえい競走馬としてのたくましい素質が期待できる。

14、三月十日 NHK・ラジオ
AM七・三五

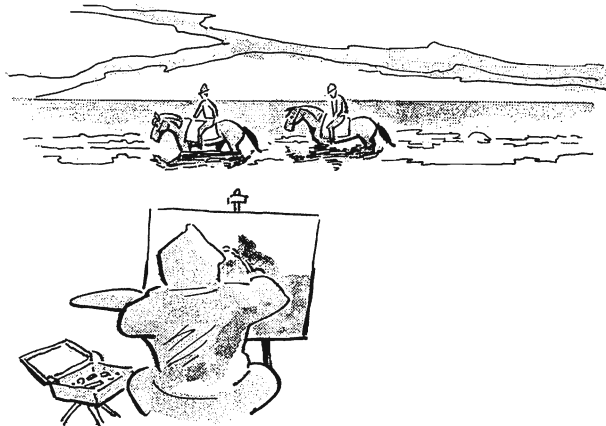
これも音更の話。三十ヘクタールの農業を営む鳥井平松さんは、三十歳で今なお元氣な老馬を飼っている。鳥井さんは「この歯を見なさい」と愛馬の門歯をカメラに見せる。種畜場の吉井係長も「三十歳で健在なのは極めて珍しい」という。

鳥井さんはいつまでも大切にされて長寿記録に挑戦するんだと頑張っている。鉛玉をやるとコリコリ音をたてて食べる。

15、二月十五日 NHK・TV

AM八・〇〇

冬の石狩浜では白い息を吐きながらばんえいの調教が行なわれている。そして砂浜と波濤の風景を眺めながら一人の画家がキャンバスに向っている。札幌から移り住んだ澁井さんは石狩浜を描くために来ているのだという。激しい調教のあと三頭のばん馬が海中を歩く。画布におさめられた冬の海辺とばん馬は好適なモチーフだ。



16、三月十五日 毎日新聞 夕刊

「サバイバル、厳しいのは人間世界だけじゃない」三歳で運命決まる。だから必死!!「受験戦争」

舞台は氷点下二十度の原野、重いコンクリー塊を引き訓練は厳しい。チャンス五回、競走率は七・五倍、不合格なら哀れな運命、と六段抜きの大見出し、特集で雪中のはげしい猛訓練とばんえいレース、道産馬について紹介する。

17、三月十八日 NHK・TV

PM七・一〇

これは塩原温泉の観光馬車、しゃれた四輪のメリケン馬車だ。馬はふとい重はん馬。動きに出る前に体を洗い手入れも充分に塩原節の中を歩様も軽く出かけていく。

18、三月十九日 NHK・TV

PM六・五〇

北見小清水の林正男牧場から森に続く林道は登坂調教に格好の場所だ。来月開催のばんえいにデビューするのを前に毎朝四キロの猛訓練「頑張れよ」カメラの前で声をかけ、林調教師も歴戦のばんえい騎手だった。「ビシッと調教すれば、三頭に一頭の合格といわれるテストも何とかなるべ」と意気軒昇!

19、三月三十一日 HBC・TV

AM九・〇〇

兼高かおるの旅行記には、しばしば農耕馬が出てくる。今日は太平洋の孤島で巨石像のあることで有名なイースター島を訪れる。

ここは観光園といわれるが馬三万頭、牛二〇万頭、羊三万頭が飼われ、青年が二十一歳に達すると土地五ヘクタールが与えられ、トラクターで耕作する農業園でもある。島には火山石が多く、これをよけて畑を作る。人口は少なく岩礁に囲まれ、洞穴には色彩を施した絵画がある謎の園である。南米チリには三五〇〇キロをへだてて国際飛行場もある。

野生の馬はその馬を調教した乗馬にまたがる青年が見廻っている。外国との交流は週に一度の飛行機と年二度の船によるだけだという。

20、四月一日 NHK・TV

AM八・〇〇

ばんえいがめしより好きという神田正一さん。稼ぎまくって金を貯めてこの道に入ったという。神田さんが購入した農耕馬は九五〇キロの大物、馬名はキタノカイリキ号という。近くにあるスロープを使って山の中の雪中訓練、重量二〇〇キロを積んでの調教は本番の三分の一にしかならないから登坂調教は絶対の必要条件だという。

ばんえい馬は超大型ぞろいだが優秀馬はアンコ型でなく、むしろ筋肉質で顔もキリッとしたものが多いのだと神田さんの相馬法を披露する。

21、四月十一日 毎日新聞 朝刊

「気品高く迎賓馬車」

王子製紙江別工場で大正十年から保存してきた「迎賓馬車」が昨十一月、道開拓記念館に寄贈された。同館は旧札幌停車

場を模して造られた開拓村の正面管理棟に展示するという。

この馬車は明治三十九年宮内省から下げを受けた札幌鉄道作業場で賓客の送迎に使われ、大正十年王子の工場に引き



取られたものといわれ、黒塗りの英国製で明治中期の製作という。

22、四月二十日 NHK・TV

AM八・〇〇

今日から昭和六十年ばんえいが開催されるとNHK朝のニュースは伝える。

今や世界に類例のない巨大馬を六〇〇頭以上も集め、豪快なレースを展開する北海道独特のばんえい競馬は「正に世界の最高峰」だと紹介する。

23、五月九日 NHK・TV

PM一〇・〇〇

この日のシルクロードはおびただしい石ころに被われた山門山を駆ける野生馬を見せる。どの馬にも仔がついているのが面白い。天山山脈山麓の騎馬民族の祭典には恒例のように羊皮の奪い合いがある、パオの中では美しい郷土服に着飾った娘たちが馬乳をふるまう。

この地方は土地が肥沈で三蔵法師の時代から農改の産物は豊かであった。当時の城跡が今も尚、遺跡として残されている。

24、五月十四日 HBC・TV

PM六・〇〇

高橋定雄さんは、今や最後といわれる鞍馬用馬具の名人だ。父親は農家で「農耕運搬には高価な馬具が好まれる。おまへたちは独立して立派な馬具を造って農業に尽せといわれた。」

高橋さんは見様見真似で馬具づくりをおぼえ、凝り性と器用さと熱心さで腕を上達させた。誰も教えてはくれない。すべては他人の技術を盗んでおぼえ、熱心さで腕を磨いた。夜中まで残業して頑張り、遅いぞと親方から怒られたこともしばしばだった。一番むずかしいのは、北海道に合った馬具でなければならぬことだ。農耕用と冬山造材用とは違っている。しかし、現在はばんえい競馬用に力を入れている。美しい飾りをつけた天、から、わらび型、背づり、つり革、よび出しをつけたばんえい競走馬の暗れ

姿に高橋さんは目を細める。

25、五月二十二日 NHK・TV

AM七・四〇

宮崎県綾町にある馬の調教場。ここは地方競馬に出る馬の調教を目的に設けられているが、年に一回の祭典競馬も催しており、錦丸競馬場という名もついている。一周は千メートルの小型トラック。今約三〇頭の二歳馬が在きゅうしており、二人の職員が乗馬で三周の追運動をしている。

26、五月二十三日 NHK・TV

PM七・一〇

四年間きゅう務員をして馬の管理と馴法を習得し、腕を磨いた大河原騎手（二五歳）は春の旭川ばんえいに初出場して見事二着に喰い込み初陣を飾った。

27、六月十六日 HBC・TV

AM一〇・〇〇

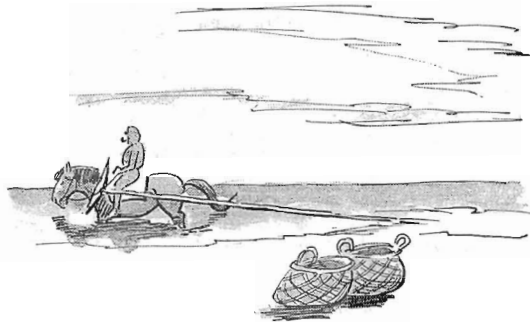
HBC日曜のレギュラー番組。滝田栄の旅の番組「世界めぐり」はこの日、中谷みのるのレポートで、ベルギー・ブリュッセルで牧畜を営むアマンさんのエビ漁を紹介する。

晴れた日にアマンさんはエビ取りの馬車を海に出す。もう四〇年もやっているが、海にはその日七人位しかいない。一五〇年ほど前から始まったものといわれ最盛期には三十人位入っていたそうですが次第に減ったという。

馬の背の両脇に直径三〇センチ位の籠をつけて行き、海に入るとこれを馬に曳かせて底をひく。一回三〇分位で籠一杯

のエビが獲れる。海は遠浅だが馬は背中まで入っていく。馬が疲れるので一日四回位しかやらない。

エビは小さく灰色をしているが、これを塩味で煮ると真赤になり、すこぶる美



味い。この馬エビ漁のエビは特別美味だというので値段も舟漁の二倍にもなるといふ。アマンさんの家族は四人、現在山羊四八頭、羊一五頭、馬二頭を飼い畑をやっている。晴れた日に仲間とエビをとり、ビールを飲むのが最高の楽しみだといふ。

28、七月十八日 NHK・TV

AM八・〇〇

朝のニュースで日高にある馬の老人ホームをとりあげる。土井昭子さんが経営

するオーシャン牧場は軽種の生産育成で知られた牧場だ。

今競馬を引退した馬たちを引受けて「老馬ホーム」をやっている。平凡な成績で終わった引退馬たちの前途は暗い。土井さんは競走場裡に活躍した老馬たちを終生面倒みて、その労をねぎらいたいと今五頭の馬を預っている。馬主のうち三人は外国人。月六万円の預託料というから中央の現役馬四五万円に比較してかなり安い。土井さんはこの仕事に「生き甲斐を感じる」と理解ある馬主に感激している。ばんえいにも、これに似た話はあるが、それはまだ自馬に限っているようだ。

29、七月十八日 NHK・TV

PM六・四〇

馬と人の綱引きを見せる。馬はばんえい現役馬の芦毛。対するは室蘭大谷高校生、あいにく雨降り跡でグラウンドはぬかるみだ。まず男子十五人とやり、次いで女子二〇人とやったが、いずれもあつさり馬が勝ち、今度は男女混合三十人とは五戦、男子三十人には疲労も出たか敗退する。結局、六勝一敗一引分で馬に軍配が上がった。

30、七月二十五日 NHK・TV

PM一〇・〇〇

シルクロードは多民族の道といわれるほど、民族交流と混血の歴史に彩られている。

今日はトルフト族。錫伯族（シボ族）回族を取上げる。いずれも中ソ国境近くの山野に馬を放牧し、共に生活した遊牧

民達である。

トルフト族の楽しみは競馬と角力。その昔、モンゴルの民と共に漢民族に反目し、敗北を重ねて遠くロシアのボルガ河畔まで逃げのびた歴史がある。シボ族は弓矢で腕をみがき、幼少の頃から角力を楽しんでいる。広大な平原を疾駆する馬群は物凄い迫力だ。

31、八月二十一日 NHK・TV

AM七・〇〇

原生林に囲まれた山中にある瀬川牧場の主人公鶴雄さんは牛馬の専門家だ。八月には三人の孫達と土産馬に乗って雄阿寒岳に登山を約束する。娘のみよさんは札幌から駆けつける。山には熊がおり、登山は冒険をともなう。八月六日朝八時半、カメラマンの酒井さんをも加えて、孫のともし、のりたか、たかしの三人を含む一行は出発する。同行者は十余人、馬は子馬を含めて十六頭、林中深く分け入れば三十度の急傾斜が追ってくる。たかしくんの馬はいうことをきかず、カメラマンは落馬するなどハプニングもあったが、五時間かかって山頂に達した。酒井さんは「馬が歩いてくれたので楽しくできた」と巧みな馬の山歩きに感心する。

32、九月二日 NHK・TV

PM六・四〇

今年の音更ばん馬は参加六十一頭。ふたつの障害と二〇〇米の距離も本場そっくりにコースが設けられ、ポニーの速歩レースもある。

障害でそりが横転し橇をはなして馬を

立て、レースを続行する一幕もあったが、酒と折詰めで声援もはずみ、観衆は場を埋めて秋の一日を楽しんだ。

33、九月二十日 NHK・TV

AM七・四〇

中国の秘境チベットで競馬が行なわれている。祭典第一日は十歳未満の少年達が、大群衆の前で巧みに馬をあやつって疾走する。不思議なことに突如逆方向に走る場面がある。競馬は直ちに中断されて長老達が集まり協議に入るのである。

それは大自然には定められたしきたりがある。裸妻を育てれば天から慈雨が降る。それが生への法則なのである。競馬は黄河の流れに沿って走り、逆走は神に逆うので不可能とされる。人間も自然そのもの。自然のリズムに合わせなければならぬ。自然のリズムに合わせなければならぬ。再び競馬は勇壯さを更に加えて行なわれた。三日目には成人の騎乗する大競走が行なわれ祭典は終了する。

34、九月二十四日 HBC・TV

PM六・三〇

ニセコ町第一回フェスティバルで行なわれた人間対馬の綱引きがまた取上げられた。これには大観衆が集まり、菊地町長はこの行事を毎年行ないたいと挨拶する。

出場のばん馬は鹿毛のせん馬、昔流に
いけば乙馬クラスの体格だが三十人の若
者を相手に二戦したが、やはり軍配は馬
に上がる。

羊跡山の頂きには初冠雪が見え満山紅

葉に包まれて美しい。これは十月四日夜八時三十分からの北紀行にも再放送され力強い重ばん馬の人氣は上々。

35、十月六日 HBC・TV

AM九・〇〇

兼高かおるの旅行記に今日も馬が出る。題して「ワインと競馬」出場ののは農耕馬のふとい型、オーストリアの貴族ハンガロツケ家の経営するブドウ園には数頭の馬が飼われている。同家の広い草原には馬場があり乗馬練習に使われている。

この草原、あちこちが禿けて赤土が出ている。美しい郷土服に着飾った老人、

い。

36、十月二十一日〜二十六日

NHK・TV 正午〇・二〇

馬の旅「北海道日高・十勝の旅」

シベリヤ横断ですっかり馬づいたエッセイストの椎名誠が、今度は秋色濃い北海道の騎馬旅行に挑戦した。

出発点は日高門別町の白井牧場から。同行者は場長の白井民平氏と女優の江夏子さん。白井氏は東京オリンピックの馬術選手でもあり、椎名の乗馬術の相談相手となる。ここで乗馬を借り、飼料と荷物積んだ馬車を仕立てて貰う。一日の行程は約百キロの予定、計画は日高門別から海岸沿いに静内、浦河、えりもを経て広尾に出、大樹から帯広、池田、音更までの行程である。

椎名の馬はフアーザー、白井はフアラ、馬車馬はクロ号だ。汀は専ら馬車で行く。

新冠町では半坪位の小屋約三〇棟の中で子牛が飼われているのが見える。こうして牛乳を与えて育てると、健康管理に良く多頭飼育に便利という。

静内町では馬の彫刻家原島義孝氏を訪ねる。萩伏では狩人で農家の行方正雄さんに熊の出るデントコーン畑に案内される。

浦河町ではコンビインで稲刈りをする農家の堀さんを訪ねる。堀さんは五三体の羅漢像を作っている彫刻家でもある。

汀の同行は浦河で終り、ここから新井春美さんに交代し、えりも岬を訪ねる。

曇っていた空から雨が落ちてきて、えりもをたち、百人浜を右に、黄金道路を



北進するあたりは雨。それでも広尾町では元氣な子供達が拍手で迎えてくれ元氣が出る。

翌朝十三人乗りの船で鮭漁を見に沖へ行き豪快な綱上げを手伝ってくる。

再び乗馬の族で大樹町に向う。ここで柏台牧場を訪ねる。日高山麓にある広大な牧場には樹木が点々とたち、まるで外国の大牧場風景を思わせる。場長の相馬和胤氏は東京の人、十七年前牧場生活に撞かれてこの地に入り、馬のほか、赤斑のヘレフォード種、黒い和牛などの肉牛を飼っている。
ジープに乗って場内を一巡、広大な風

光を満喫する。エゾ鹿、熊、狐の出没する畑や草地。場内を流れる深い溪流、高い鉄橋、秋には鮭鱒が遡ってくるという草原のたき火で焼いたホイルに包んだ鮭の味は格別だった。

又大な北海道の牧場をあとにして一行は、又旅を続ける。

十勝はメークインと男爵のふる里、平均二〇ヘクタールという十勝農家の経営規模は全国一、機械掘りでどんとん掘り出されていく馬鈴薯にずうっと見とれてしまう。新井はゆでたふかし薯を頬張って産地の美味に目をまるくする。笛とギターでもほり歌というのを聞かせてもらい別れる。

旅も終りに近づき池田町に入る。あいにくの雨は降りやまず馬車の上の新井は傘をさしている。

清見丘公園ではばん馬競走をやっている。一行はこの町のばん馬愛好会の人達に迎えられて見物人に加わる。

会長の田中弘吉さんはばん馬競走の仕組みや出場馬について説明してくれる、かねてからの念願だった椎名のレース出場は実現する。練習二回でレースに挑戦するが素人の不馴れで障害降坂のときは坐りこんでしまい三頭立ての三着、二回目には少々馴れて一着となり「優勝おめでとう」とみんなにほめられるが、椎名は「どうも友情で勝たしてもらったような気がする」という。それでも嬉しそう。

最終日は音更の種畜牧場見学。種畜厩舎の前で吉川課長の説明を聞きながら力

強いブルトナーのような大型馬に感嘆する。

白樺の並木が正面まで続く道を馬にゆられながら掃途につく。

新井は「見てきた風景が物凄く広い視野の中に入り、北海道のふところの深さを感じる三〇〇キロの旅でした。「東京にいると心がせまくなるような気がします」と感想を語り、椎名は「北海道の皆さん、あたたかく歓迎していただいて有難う今度はベルシユロンで北海道一周をやりたい。」とさよならを告げる。

37、十一月十一日 H T B・T V

P M 一〇・三〇

久米宏のニュース・ステーションが、ばんえいを取上げる。入厩馬六〇〇頭、三歳馬で既に九〇〇キロを超える馬もいる巨大馬ぞろいと先ず世界に冠たる大型馬の大集合を紹介する。

珍らしいばんえい競走のルールと施設などを説明。障害のひと腰ふた腰に熱狂するファンの声も多く、ばんえい一流ジョッキとして本年既に一二〇勝を上げた金山騎手を大写真で紹介する。

38、十一月十四日 N H K・T V

P M 六・二五

「ネット北海道」の一コマに「スペインル鉄道の模索」として釧路の街路をゆく馬車馬ハルヒメ号を見せる。ハルヒメは既に二十歳のお婆さん馬だ。しかし頬かむりの松じいさんのいうことはよく聞き毎日オガ層運びに精出している。「もううとしたから仕事も今年限りかもしれない。」

と爺さんはつぶやく。

39、十一月十六日 H B C・T V

A M 一・〇〇

土曜日のレギュラー番組となっている「もうひとつの旅」はこの日岸田今日子の朗読で「プラターニと私」を送る。

白亜の美しい家が建ち並ぶスペインの街で生れた詩「プラターニと私」はこのまちに生れ育った素朴なロバと詩人の交流をうたったものである。プラターニはロバの名前。スペイン人がつづる美しい詩に魅せられて岸田は朗読し自らもこの街に旅しプラターニならぬロバの手綱をとって石畳の上を歩く詩情豊かな作。

40、十一月十七日 毎日新聞

「放牧馬畜舎に帰る」

音更町の種畜牧場では春から放牧していた親仔馬が晩秋を迎えて畜舎に帰ってきた。農機具の普及で一時見られなくなった農耕馬だが、最近ではばんえい競馬や土づくり更には肉用として飼育農家がふえている。この牧場でも「よみがえる馬産園」を目ざして繁殖につとめ、ばんえい競馬で大活躍する名駿も輩出している。

41、十二月三日 各 T V、各新聞、ラジオ

奈良法隆寺の藤の本古噴から出土した多数の金銅製馬具はその精巧さ高貴さにおいて今迄かつて類例のない歴史的にも美術工芸的にも国宝級の逸品といわれている。我國の古代中国との交流解明の一助となり、いかに馬の利用が古代から日本と大陸間に普及していたか、いかに馬が人類文明に貢献していたかがよく判る貴重な資料である。

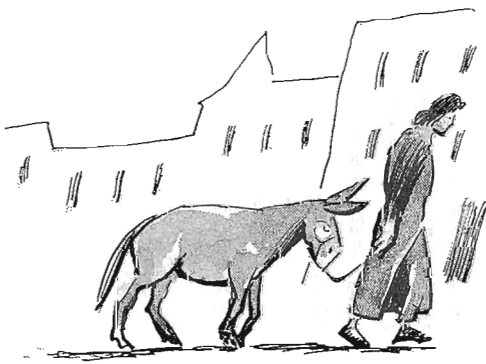
42、十二月十日 U H B・T V

P M 九・〇二

「気がつけば騎手の女房」

これはばんえいの関係ではないが「同じ競馬界で働く騎手の女房が自分の生活を小説化し、佳作として認められ、文学賞に輝やくということがこの社会では極めて珍稀なことなので特別にここに取上げてみたのである。

東京外語大を出たインテリ女性が騎手と家庭を持ち、競馬厩舎生活の珍らしさから書いた小説が、名評論家として著明



だった大宅壮一の没後、生前の活動を記念して作られた「大宅ノンフィクション賞」を受賞したというものである。中央競馬騎手吉永正人と恋愛し妻となり、四人の子供を抱えて奮闘するみち子は外語大を出てから競馬記者となり、取材のため中央競馬に通ううち五九年の三冠馬ミスターシービーの吉永騎手と知り会う。



さてこれは本当の話でテレビは本人に
余市出身の坂口良子、騎手松浦には平田満、母親役には大女優杉村春子、牧場主にベテラン花沢徳衛などの配役で製作されUHBから放映された。

テレビ脚本には松浦と結ばれるまでは外務省に勤める許婚者の宅麻がいたという原作にないフィクションがあり、その点少々出来すぎという批評もあった。

43、その他新聞報道

ときにはブラックニュースも報道された。ことしはこんなのがあった。毎日新聞十二月十七日朝刊に公営競技を締め出された暴力団Hが園田競馬場でレース中に爆竹を投げとんだ。これは幸いレース

には影響はなかったが、第七レースのゴル手前三〇メートル地点で、同じ暴力団Oが白いタオルを振りながら駆け抜け、一部の馬が斜行したため、このレースは不成立となった。約六十人が騒いだが、この二人威力業務妨害でつかまった。

ばんえいでも先年岩見沢でこれと同じ事件があり、ゴール前三十メートル地点でコースに侵入した男があり一人の警官が突進タックルでコース外にはね飛ばしことなきを得た。これが走路監視VTRに克明に撮影され紛争研究の好適な資料となった。

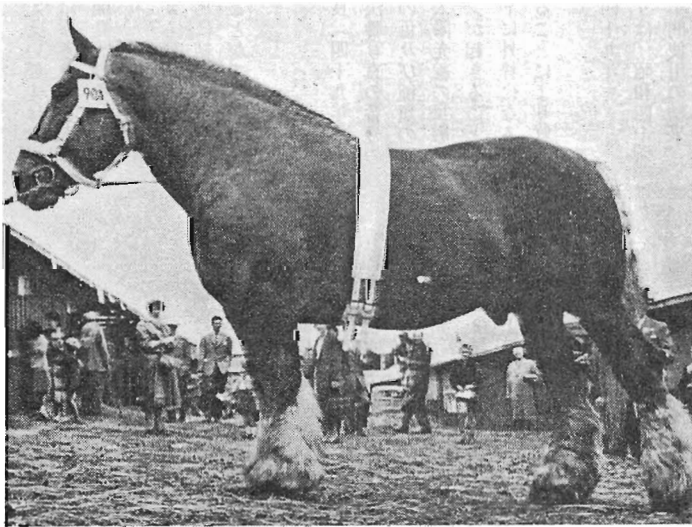
同じ毎日九月二十七日の夕刊には冠川ばんえいで偽造馬券防止のため特殊塗料で馬券を印刷した。これに紫外線をあてると偽造が忽ち判明するという。既に道営競馬、北見、岩見沢ばんえいでは馬券に特殊液を塗る方法を用いているが、馬券そのものを印刷する方法は始めて。



まだ日本に輸入されたことのない馬の紹介

ユトランド馬 (デンマーク原産)
十二世紀に初めて、それとして言及されたデンマークの重種馬は、少なくとも紀元八〇〇年頃に始まるバイキング時代から、すでに存在していた。

ユトランド馬は、胸が深く、鞍部はきわだたくぼんでいる。肘からき甲までの長さは、蹄から肘までの長さよりだいぶ長く、同様に胸部からでん部までの長さは、き甲の高さ(体高)より長い。標準毛色は淡赤茶色、粟毛、縞毛である。



競走用具改善

十余年の歩み

北海道市営競馬協議会

事務局長 鈴木 一彦

終戦後競馬法の改正により、昭和二十一年にばんえい競走が加えられ、昭和二十二年北海道馬匹組合連合会が主催し、旭川競馬場で二日間開催したのがばんえい競走の嚆矢であり、早くも四十年の歴史を経過したが、昭和四十八年に私がばんえい競走に関係してから十余年、ばんえい競走の近代化と公正化に向って、競走用具の改善を実施してきたが、その歴史を振り返り歩みをここに記してみたい。

私の道営競馬時代（昭和二十三年～四十七年）には、平地競走の執務が多く、道営ばんえい競走の開催には時々執務してまいりましたが、昭和四十一年で道営のばんえい競走が中止され、その後ばんえい競走とはすっかり疎遠となった。

昭和四十八年七月、東京から本会に赴任して始めての執務が旧北見競馬場でしたが、暫く見ていなかったばんえい競走が外観はオンボロ競馬場ながらその内容の近代化ぶりには一驚してしまった。平地競走にも参考となる対面決勝判定

写真、直線セパレートコース、VTR、トロール、騎手服の指定、枠別ゼッケン及び帽子の色別、鉄そりの使用、鉄板で囲まれたコンクリート製重量物、グラスファイバー製かじ棒、スターテングゲートの設置、着順電光掲示板の設置、赤外線水分計による馬場水分の研究等々道営ばんえい競馬中止後七～八年の短期間に主催者、きゆう舎関係者一丸となつての近代化への努力が、こもも進んでいるとは考えてもみなかった。

ばんえい競走は、プロスポーツの中でも特に競走用具が多く、競走用具が多ければ考えられない様な事故が競走中に度々発生し、ファンに大変迷惑をかけていたが、事故のない公正競馬を開催する為に「一度起きた事故は二度と繰返してはならない」ことをモットーに、事故再発防止の改善策に日夜心血を注いできたところであります。

平地競走の場合は、先輩格の中央競馬又は歴史ある諸外国の競馬等が良き手本

となつていますが、ばんえい競走は世界で唯一の競馬として他に参考とするものがなく、総てを我々で開発改良をしなければならぬ困難があり、暗中摸索の中で試行錯誤を繰返しながら研究改善を重ね、その結果が公正競馬に結びついた時の喜びは、筆舌に表すことができない程嬉しいものであります。

(一) No.1 プレート改良（四十九年）

対面タワーから決勝写真の番号の写りが悪く、塗料の色及び種類の研究をしていたが、太陽光線の反射が原因でハレーションが起きることがわかり、No.1 プレートに外枠になるに従つて傾斜をつけることにより鮮明な写真となつた。

(二) No.1 試作そり（四十九年）

第一号競走用そりは、昭和四十六年に製作され、三年間使用の結果、次の欠陥が目立ってきた。

ア ズリはU字鋼を二枚溶接しているため、溶接面のカドが摩耗して穴があきかけてきた。

イ ズリの中が狭く（十cm）競走中に落鉄がはまり込みブレーキとなる事故発生

ウ 馬がそりを蹴つた時、鼻木の二本のケタの間に後肢蹄鉄がはまり込み抜けなくなった事故発生

エ 重量物が競走中に落下する事故発生
これ等の欠陥を次のとおり改善して

No.1 試作そりが製作された。

※ 接地面の鋼平鉄をズリから約二、三mm 外側に出しカドの摩耗を防ぎ、また方向性の安定化を図る為に、スキーの原理を応用し滑走面を凹型に改良した。

※ ズリ巾を五cm 広げ五cm とした。

※ 鼻木前面を鉄板で被覆した。

※ 重量物を平型鉄板とし、2本のボルトで固定する構造とした。

※ 総重量を一五〇kg 増加し四〇〇kg とした。

※ 斬新なデザインとした。

(三) No.2 試作そり（五十年）

No.1 試作そりは一年間の試験期間を経て、現在使用中の競走用そりの原型であるNo.2 試作そり製作の基礎研究に役立った。

No.1 試作そりの欠点は

ア 構造が複雑（束木が多い）。

イ 重心が高く、高さ三十五cm（安定が悪い）。

ウ ズリ巾が広すぎ曳きづらい。

また滑走面の凹型は必要ない。

エ 総重量が重すぎ輸送及び点検がしづらい。

オ そのの後端の写真が不鮮明

カ 騎手重量調整用重量カバンの格納場所がない。

キ 騎手の身長に差があるので足掛

が二段必要である。

等が検討され、No.2 試作そりの製作

にふみ切った。

区分	競走用 1号	試作 No. 1	試作 No. 2	競走用 2号
重量	242kg	400	320	300
全長	232cm	240	250	230
前巾	67cm	67	67	67
後巾	70cm	70	70	70
高さ	36cm	35	30	30
ズリ長	225cm	230	230	205
ズリ巾	10cm	15	12	12
引木長	100cm	100	100	100
鼻木高	110cm	95	95	96

※ H型鋼材高さ三十cm巾十二cmの一枚物を使用し、No.1の欠点ア、イ、ウを解消した。

※ 総重量物を三二〇kgとした。

※ そりの後端に三角型白色のヒレ状の突起をつけ、その先端をそりの後端とし、その一部に重量カバン格納場所を作った。

※ 足掛を二段とする。

※ 重量物の固定はボルト二本の必要がないので一本とした。

(四) 第二号競走用そり(五十一年)
昭和五十年八月にばんえい競走創設以来の大不詳事件「そり不正仕掛事件」と「重量物中抜事件」が発生し、未曾有の試練を受けた衝撃の年となったが、すでに試作そりで二年間の基礎的な研究をしてきたので、

No.2試作そりに若干の改良とトラック輸送の横積の關係で全長を二十cm短縮する程度の改善で、現在使用中の第二号競走用そりを完成することのできた。

(五) 蹴止の設置(五十三年)

昭和五十二年北見競馬において第二障害で騎手が腹部を蹴られて重傷また翌五十三年岩見沢競馬において発走後顔面を蹴られ左眼失明の重傷を負う事故が発生したので、急遽鼻木前方にガス管で製作した高さ二十cmの蹴止を取付けた。

昭和五十四年に蹴止の中間パイプを取はずし、脱糞の時に馬糞が蹴止に唯積する欠点を改善した。

(六) 重量物の改善

ア 中箱型重量物の改造(五十四年)
平型重量物の積載基準を制定した為中間の箱型重量物に体重調整用重量カバンを格納できる様に改造した

イ 前及び後箱型重量物の改造(五十七年)
平型重量物を積載する時の事故防止及び迅速化を図る為、両側面をU字型にくり抜いた。

ウ 平型重量物の改造(五十七年)
平型重量物を積載する時に、手を狭等の事故防止の為に持手部分を改造した。

(七) ヘビ金の改善

ア(ヘビ金の改善(五十年))

競走中併走馬の胴引クサリがヘビ金に引かかる事故発生

ヘビ金の先端を内側に向け、長さを十五cmに改造した。

イ 再改善(五十五年)

前期ア同様の事故が一件再発した為、第一号競走用そりで改善したヘビ金の先端をさらに内側に湾曲し、再発の防止を図った。

(八) ひざがりクッション

騎手の脚部の打撲防止の為に、鼻木のひざが当たる横ケタ部分に、スポンジをゴムで被覆したクッションを取付け事故防止を図った。

二、胴引の改善

(一) 胴引の試作(四十九年)

マニラ麻製平打繩の胴引は、競走中しばしば切損する事故が発生し、公正確保上重大問題となっていた。

麻製に代る胴引として、ナイロンロープ及びビニロンロープ製の平打繩を北海製鋼KKに特注して二組の試作胴引を製作し、一年間調教師に貸与して試験したが、強度、伸長度、硬度等満足する結果が得られなかった。

(二) ナイロンベルト製胴引(五十年)

大阪のある業者の紹介により、自衛隊の無線用アンテナを張る時に使用している、厚さ二、三mm、巾六十mmのナイロンベルトがあることを知った。早速現物を取寄せて、札幌市琴似の道立工業試験場に強度試験を依頼

したところ、一枚の「引張試験破断荷重三〇〇kg」のデータを得たので、自信を持って胴引の製作をしたが、これは大成功で胴引のベルト部分の切損事故は皆無となった。

(三) 胴引くさりの短縮(五十二年)

胴引のくさり部分が長くて重いので胴引がたれ下り、競走中胴引をまたぐ馬が多発しているため、この防止対策として十一個のくさを八個に短縮し、ベルト部分を三十cm長くした結果、胴引またぎの件数は極端に減少した。

(四) おたふくの改造(五十三年)

胴引に一番力のかかる発走の時におたふくが伸びて胴引がはずれる事故が発生したので、その対策として四分鉄製を五分鉄製にして強度の増加を図り、また中心点に力がかかる様に角度を変えた結果、この種の事故は皆無となった。

(五) 胴引くさりの改造(五十三年)

四分鉄鍛造手打くさりを使用していたが、接合部が離れてくさりが切断する事故発生、くさりの強度を図る為に五分鉄を使用し、且つ接合部を約二倍の長さに改善した結果、完全に切損事故が排除された。

(六) 胴引はずれ防止ひも(五十六年)

競走中胴引のおたふくが箱金からはずれる事故が連続発生、留革の強度及び長さの問題があったので、急遽胴引はずれ防止ひも作成、胴引の

先端部に装着させ、従来の留革の使用と共に二重の安全策をとった。
三、かじ棒の改善

木製(タモ材)のかじ棒を使用していた時代は、競走中の転倒により折損事故が多発していたため、昭和四十六年に北見市でグラスファイバーの試作品を作り研究していたが、堅牢で柔軟性がありすぐる良好であったので、昭和四十七年から採用された。

(一) かじ棒の補強(五十一年)
グラスファイバー製も四年を経過し、競走中一件、競走以外で二件の折損があったので、更新の機会に補強の為肉厚とし、またそり金具さし込み部分を鉄板で被覆する等の強度の増加を図ったので、競走中の折損事故は皆無となった。

(二) 長尺かじ棒の製作(五十二年)
競走馬の大型化に伴い、二一八cmのかじ棒では短く肘下に狭まる事故が発生したので、二二八cmの長尺かじ棒を四組新規に製作した。

(三) かじ棒がらみ防止装置(五七年)
競走用具の改善で最も遅れをとっていたのが併走馬とのかじ棒がらみ防止対策であった。

昭和四十八年以降地全協主催と市協主催で、毎年二回開催している「ばんえい競馬専門職員実務研究会」において必ず議題となり研究されていたが、これと言う名案もなく暗中模索の中で試作品による実験を重ね

ていたものの、理想的なものを完成するに至らなかった。

昭和五十六年秋、ある調教師の案からヒントを得て、かじ棒の先端から鋼線入ビニールホースを差込み、それをわらび型に繋ぐ方法で試作品を作ったが、それが現在使用中の防止装置の原型となった。

翌五十七年の北見競馬の能力検査で全馬に装着させ、九十二レース、八六二頭で実験した結果、成績は良好で一件のかじ棒がらみも発生しなかったため、自信を持って本番採用に踏切った。

試作品であったので、部品の強度及び結着方法等に改善の予地があったのでさらに改良し、旭川競馬から一部調教師の反対を押し切って競走に使用したが、一開催に五十六件は発生するかじ棒がらみが、極端な接触によるものが一件発生しただけの好成绩となり、其後部品の改良を加えた結果、最近二年間かじ棒がらみみが一件もなく、近い将来には「かじ棒がらみ」は死語となることであろう。

四、その他競走用具の改善

(一) 乗馬手綱の統一(五十一年)

ばんえいの乗馬手綱は左右一本ずつの華やかな引手綱を使用していたが、古くて汚れたものやロープ等も使用され見苦しいので、本会で革製三mの乗馬手綱を製作し、貸与して

統一を図った。

(二) 競走用ゼッケンの改善

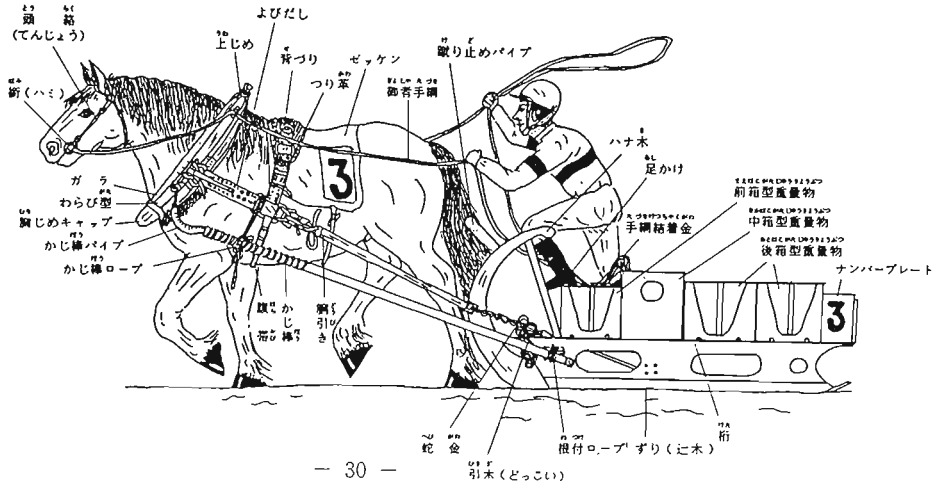
昭和五十三年に重賞用紫色ゼッケンを製作、五十四年にはゼッケンを大型化すると共に、背ズリーケ所の尾錠留であったものを、左右つり革に二ヶ所合計三ヶ所の尾錠留として競走中のゼッケンの反転を防止し、五十五年には、馬背部の発汗軽減の為に十六ヶ所に汗抜き穴をあけ、五十七年には重賞競走用ゼッケンに馬名を記入した名札を挿入できる細工をし、ファンサービスに努めた。

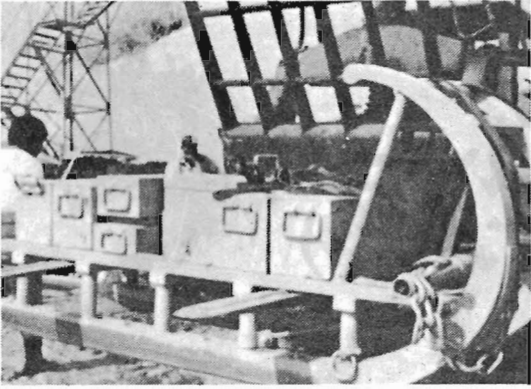
(三) 胸締キヤップの使用(五十四年)

わらび型の下端湾曲部にハミ環が嵌入する事故は毎年数十件発生し、その防止対策に頭を悩ましていたが、試作品での実験を数年続け、革製でマジックテープを使用して簡単にガラに装着できる胸締キヤップが完成した。

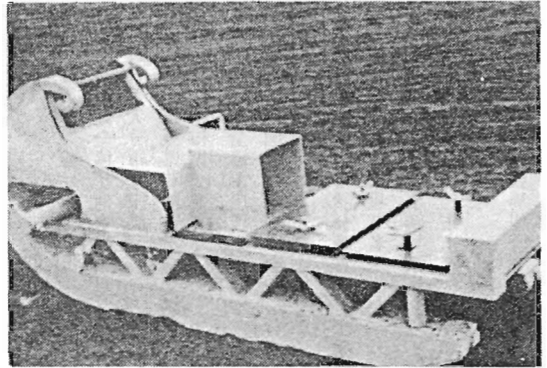
一部きゅう舎関係者の反対もあったが、昭和五十四年から装着を義務づけたところ、結果は最高でハミ環嵌入事故はその後完全に排除することができた。

以上、競走用具の改善について昭和四十八年以降の経過を述べましたが、今後突発的な事故がいつ発生するかも知れませんので、常に競走用具の改善研究を怠らず、事故の少ない世界で唯一の公正なばんえい競馬として、益々の発展に努力する所存であります。

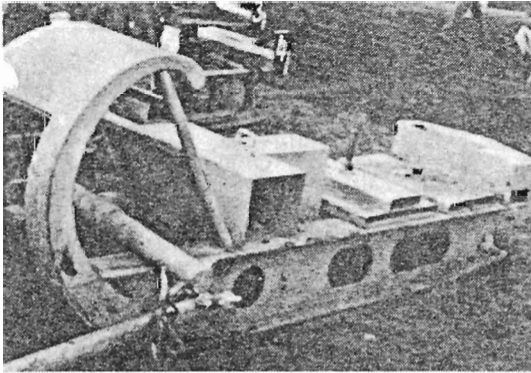




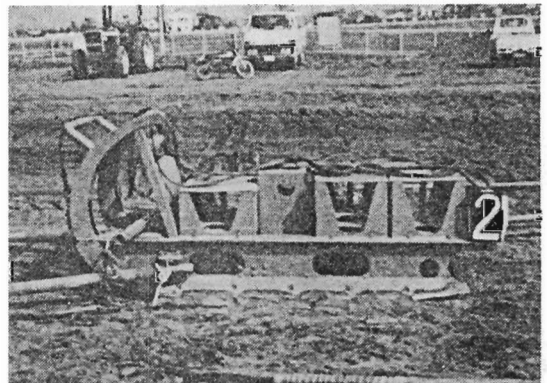
No.1 競走用そり



No.1 試作そり



No.2 試作そり



No.2 競走用そり

ばんば祭り

1、競馬監督

農林水産省畜産局競馬監督課から、ばんば祭り競走の監督に左記の日程でこ来場になり、熱心な監督とご指導を戴いた。

- 7月14、15日 岩見沢 平野監督官
- 9月14、15日 北見 甲斐監督官
- 10月20、21日 旭川 佐々木監督官
- 11月23、24日 帯広 岩村監督官
村松監督官

また北海道競馬事務所からは

- 6月1日 旭川 荒谷課長
岩村主事
- 8月7日 岩見沢 加藤主任
大沢主事
- 9月23日 北見 山本課長
大沢主事
- 11月2日 帯広 瀬口主査
及川主査

2、千客万来

- 5月7日 地全協松浦会長来場
- 5月11日 大分市長来場
- 5月13日 埼玉県草加市市議会議員13名来場
- 5月17日 地全協古屋理事来場
- 6月16日 四国「さかえる会」一行来場
- 7月9日 府中市市議会議員8名来場
- 7月24日 高崎競馬場7名来場
- 8月8日 熊本市議会議員来場
- 8月20日 秋田県酒田市市議会議員6名来場
- 8月24日 岩手県競馬組合3名来場
- 8月26日 青森県熊木町町議会議員4名来場

名来場

- 9月2日 岩手県競馬組合小原副管理
者他1名来場
- 9月9日 保安協会鈴木理事他1名来場

11月17日 地全協理事来場

以上の方々か来場されました。

- 3、木村卓司騎手ばんば祭り競馬史上三人目の一〇〇〇勝達成。

五月十四日、帯広第三回六日目八レースのニッショウツツパメ号に騎乗して、第一着となり、金山騎手、山田騎手について三人目の一〇〇〇勝騎手となった。木村騎手は、昭和四十三年に騎手として、デビューして以来十三年目にして、念願の一〇〇〇勝を達成した。

4、新人、大河原騎手スピード出世

今年度の新人騎手である大河原和雄騎手は競馬開幕二十八日目の旭川第二回四日目八レース二番ツカサトップ号で一〇四戦目で二十五勝を上げ減量騎手を抜け出しばんば祭り史上初のスピード出世を果たした。

5、馬・人・トラクター・「ザ対決」

五月二十五日旭川競馬場にフジテレビの人気番組「ザ対決」の録画取りが実施された。

今回の「ザ、対決」は一定重量を積載したそりを、馬と人間八名とトラクターで直線二〇〇メートルの走路を引き、何が一番先にゴールするかのだ。

馬も人もやはり機械力には負けてしまいトラクターが1着。やはり機械は強い。

6、旭川名物「ばんば祭り」

旭川競馬場で昨年度より実施し、ファンに大変好評な「ばんば祭り」が今年度も実施された。

子供向け映画の上映やキャラクターショーでチビッ子達は大喜び。

お祭りにはかせない緑日店も

ヨヨーすくい、金魚すくい、焼いも、焼いかその他多くの出店で、競馬とお祭りの二本立てでファンも楽しい一日でした。

7、帯広競馬アトラクション

今年度の開幕帯広春競馬は、広報活動の一環として、歌謡ショーが多々実施された。

初日の4月20日は、新人歌手のあしべまことショー、4月29日、地元十勝出身



の十勝花子ショー、5月3日、北原ミレイショーと次々と人気歌手のミニコンサートが実施され、来場した多くのファンはヒット曲メドレーに聞き入っていた。

8、暴力団シャットアウト

主催者協議会プロロック会議において決定された、「暴力団、ノミ屋、コーチ屋等の入場拒否」を十一月二日からの帯広競馬で実施された。事前広報としては、報道関係者をプロロック会議に臨席させ、会議内容を新聞等に報道させ周知を計った。実施結果は、入場拒否二十五名、退

お知らせとお願い!
ファンの皆様
ご来場ありがとうございます。
この度全国公営競技会の申合せにより、場内の秩序を維持し公営競技に関する犯罪を防止するため、法令・規則等の規定に基づき、暴力的不法行為、ノミ行為者、コーチ屋等の入場は堅くお断りします。
万一入場した場合は退場を命じます。また入場料はお返しいたしません。みなさまのご協力をお願いします。

入場拒否
次の者は帯広市地方競馬実施規則93条により入場を拒否する。

記

1. 入場券又は記号通行証等を所持しない者。
2. 地方中央各親馬に隣接することを禁止された席上において反復して入場を拒否されている者。
3. 他人の馬券投票券の購入をめぐって妨害・強制・干渉した者。
4. 場内において、ノミ行為を行い又はその相手方となった者。
5. 集团的又は常習的に暴力的不法行為を行う恐れのある者。
6. 競馬の公正を害し又は場内の秩序を乱す恐れのある者。
7. 他人の迷惑となるような服装又は言動をしている者。

場命令七名で、対象者に対する通告は、警察官及び整理委員が口頭で行った。

9、今年度の勇退調教師

十一月二十四日、帯広競馬場において二名の調教師の方が勇退されました。永年に渡り、ばんえい競馬発展のために努力された二名が仲間の調教師、騎手の拍手で見送られ、今年度かぎり、競馬場生活にピリオドを打たれました。

調教師 谷内二三松

調教師 中西 関松

長い間、大変ご苦労様でした。



昭和60年度購買農用種雄馬名簿（ばんえい馬）

配置番号 登録番号	馬名 (旧馬名)	品 種 毛 色	生 年 産 地	血 統		体高cm 胸囲cm 管囲cm 体重kg	購 売 価 格 配 置 先
				父	母		
会 60-3 S -655	ホマレオーザ (サロマッシーニ)	ペ ル 青 毛	昭52 佐呂間町	ペ ル ペル系	二世 ロッシニ 春 風	164 223 27 1,004	500万円 釧路農協連
会 60-4 S -656	ゼットボーイ (修 宝)	半 血(鞍) 栃 栗 毛	昭53 足 寄 町	ペ ル 中 半	第二 オデオ ン 栄	167 224 26 913	375万円 十勝農協連
会 60-5 S -657	ソラチキリン (宝 雄)	ペ ル 青 毛	昭51 池 田 町	ペ ル ペ ル	第三 オデオ ン 宝	172 237 28.5 1,007	550万円 十勝農協連
会 60-6 S -658	ウシオドトー (優 菊)	ペ ル系 青 毛	昭53 女 満 別 町	ペ ル ペル系	二世 ロッシニ 第十大菊	172 222 28 947	550万円 ホクレン北見支所
会 60-7 S -659	リュウタロー (栄 雄)	半 血(鞍) 青 毛	昭51 池 田 町	ペ ル 重 半	第三 オデオ ン 山	165 230 27.5 944	515万円 上川生産農協連
会 60-8 S -660	ブラックリバー (宝 岩)	半 血(鞍) 青 毛	昭51 釧 路 町	中 半 重 系	南 星 大 岩	173 231 28 1,025	510万円 ホクレン稚内支所

ばんばん祭典

昭和四十八年度より実施している本会馬産奨励事業の一環である祭典（記念）ばん馬競走も年々内容が充実し各主催者の努力のほどがうかがえます。今後とも市営競馬発展のために馬産奨励に御協力をお願いします。

ここに、各主催者より送られた終了報告書をもとにして各地の祭典（記念）ばん馬競走を紹介します。

○早来町ばん馬競走大会

一、主催 早来町鞍馬同好会

会長 橋本 善吉

二、開催日 九月十五日

三、場所 早来町新栄鞍馬競走特設会場

四、出走頭数 二十九頭

五、競走数 十六レース

六、入場者数 一、五〇〇名

七、本会副賞受賞馬 ツガルフジ

雄三歳

八、馬主 青森県青森市 寺田 畜産

九、明年度開催の予定 九月中旬

○長沼相馬神社奉納ばん馬大会

一、主催 長沼相馬神社

大会長 広川鉄次

二、開催日 八月十七日

三、場所 長沼町農村広場

四、出走頭数 四十頭

五、競走数 十三レース

六、入場者数 五〇〇名

七、本会副賞受賞馬 ハヤテヒゼン

重半 雄二歳

八、馬主 惣別町 三上 博行

九、明年度開催の予定 八月十七日



○第八回下川町鞍馬競技大会

一、主催 下川町ふるさとまつり振興会

会長 奥村 驍馬

二、開催日 八月三十一日

三、場所 名寄川緑地公園共進広場

四、出走頭数 六十四頭

五、競走数 十九レース

六、入場者数 一、〇〇〇名

七、本会副賞受賞馬 芳英

半血 雌六歳

八、馬主 下川町 川崎 金作

九、明年度開催の予定 八月三十日

○第四回幕別町鞍馬競技大会

一、主催 幕別町鞍馬競技大会

実行委員長 国枝 光明

二、開催日 九月十六日

三、場所 幕別町依田鞍馬特設馬場

四、出走頭数 九十四頭
五、競走数 三十二レース
六、入場者数 一、〇〇〇名
七、本会副賞受賞馬 ノサップ

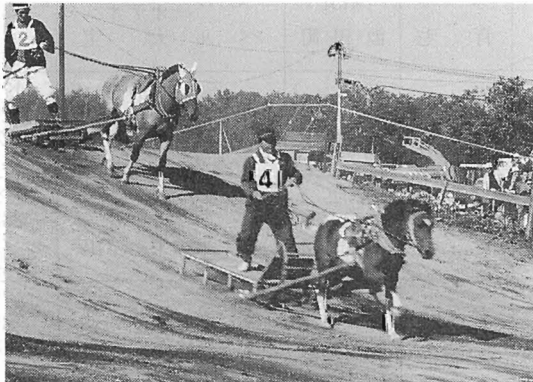
雄五歳

八、馬主 根室市 下内畜産

九、明年度開催の予定 九月

○第十二回馬事競技大会

一、主催 別海町馬事愛好同志会



会長 米田 秀雄

二、開催日 九月二十二、二十三日

三、場所 別海町農村広場

四、出走頭数 百七十頭

五、競走数 三十三レース

六、入場者数 二、五〇〇名

七、本会副賞受賞馬 オフィツエヒメ

雌二歳

八、馬主 白糠町 小倉 勇三郎
九、明年度開催の予定 九月二十三日

○浜中町畜産祭典競馬競技大会
一、主催 浜中町畜産祭典実行委員会
大会長 渡部 和雄

二、開催日 十月六日

三、場所 浜中町字浜中市街

四、出走頭数 百四十五頭
五、競走数 二十七レース

六、入場者数 七〇〇名
七、本会副賞受賞馬 岩姫

八、馬主 浜中町 出口 広樹
九、明年度開催の予定 十月五日

○池田町競馬競技大会
一、主催 池田町競馬愛好会
会長 田中 弘

二、開催日 六月十五日



三、場所 池田町字清見特設会場
四、出走頭数 五十一頭
五、競走数 二十四レース
六、入場者数 二、〇〇〇名
七、本会副賞受賞馬 マツノリユウ

八、馬主 阿寒町 長村 豊司
九、明年度開催の予定 六月十五日

○雄武町ばん曳競技大会
一、主催 雄武町馬産振興会
会長 尾田 美供

二、開催日 八月十八日

三、場所 雄武町晩曳競技会場
四、出走頭数 四十一頭
五、競走数 十四レース

六、入場者数 六〇〇名
七、本会副賞受賞馬 第十一玉姫

八、馬主 雄武町 鈴木 由雄
九、明年度開催の予定 八月十五日

○黒松内町ばん馬競技大会
一、主催 黒松内町愛馬同志会
会長 小林 幸作

二、開催日 八月四日

三、場所 黒松内町家畜共進会々々
四、出走頭数 四十三頭
五、競走数 十三レース

六、入場者数 五〇〇名
七、本会副賞受賞馬 金太郎

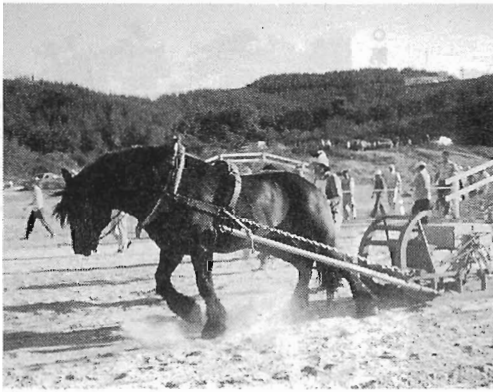
八、馬主 今金町 山田 重一
九、明年度開催の予定 八月三日

○第六回浦幌町ばん馬大会
一、主催 浦幌町馬産振興協議会
会長 坂口 岩夫

二、開催日 八月二十日
三、場所 浦幌町帯富特設会場
四、出走頭数 五十六頭
五、競走数 二十八レース

六、入場者数 五五〇名
七、本会副賞受賞馬 アキホープ
雄十一歳

八、馬主 標茶町 飯塚 勝
九、明年度開催の予定 八月中旬
○第十八回足寄町競馬大会
一、主催 足寄町競馬協会

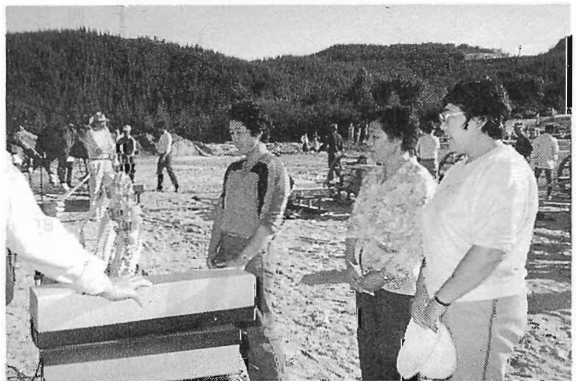


二、開催日 九月十五日
三、場所 足寄町里見ヶ丘
四、出走頭数 六十七頭
五、競走数 二十一レース

六、入場者数 一、〇〇〇名
七、本会副賞受賞馬 ミカツキ

八、馬主 鹿追町笹川 飯田 貢
九、明年度開催の予定 九月十五日
○第二十五回鹿追町競馬競技大会
一、主催 鹿追町瓜幕競馬会
会長 菊池 義憲

二、開催日 八月二十一日
三、場所 鹿追町瓜幕競馬場
四、出走頭数 四十三頭
五、競走数 二十六レース



六、入場者数 三〇〇名
七、本会副賞受賞馬 アラキホープ

八、馬主 標茶町 飯塚 勝
九、明年度開催の予定 九月十五日

○第二十五回鹿追町競馬競技大会
一、主催 鹿追町瓜幕競馬会
会長 菊池 義憲

二、開催日 八月二十一日
三、場所 鹿追町瓜幕競馬場
四、出走頭数 四十三頭
五、競走数 二十六レース

六、入場者数 一、〇〇〇名
七、本会副賞受賞馬 ミカツキ

八、馬主 鹿追町笹川 飯田 貢
九、明年度開催の予定 九月十五日

○第二十五回鹿追町競馬競技大会
一、主催 鹿追町瓜幕競馬会
会長 菊池 義憲

二、開催日 八月二十一日
三、場所 鹿追町瓜幕競馬場
四、出走頭数 四十三頭
五、競走数 二十六レース

九、明年度開催の予定 八月二十一日

○第七十六回音更東士幌馬競馬大会
一、主催 音更町東士幌馬競馬会
会長 田宮 一夫

二、開催日 九月二日

三、場所 東士幌神社特設会場

四、出走頭数 六十一頭

五、競走数 二十一レース

六、入場者数 七五〇名

七、本会副賞受賞馬 アキホープ
雄十一歳

八、馬主 標茶町 飯塚 勝

九、明年度開催の予定 九月二日

○第十一回上士幌町鞍曳競馬大会
一、主催 上士幌町鞍曳同好会
会長 中島 新一

二、開催日 九月二十日

三、場所 上士幌町常設馬場

四、出走頭数 五十六頭

五、競走数 二十二レース

六、入場者数 三五〇名

七、本会副賞受賞馬 キンタイ
雄十一歳

八、馬主 上士幌町 渡辺 昇

九、明年度開催の予定 未定

○豊浦ばんば競馬大会
一、主催 豊浦町馬産改良同志会
会長 矢野 清志

二、開催日 六月二十三日

三、場所 豊浦町スカンジヤ広場

四、出走頭数 七十頭

五、競走数 十七レース

六、入場者数 五〇〇名



七、本会副賞受賞馬 スキノハラホープ
重半 雄二歳

八、馬主 森町赤井川 伊藤 弥一

九、明年度開催の予定 六月下旬

○第十二回弟子屈町鞍馬競馬大会
一、主催 弟子屈町馬産振興同志会
会長 阪口 麻一

二、開催日 九月八日

三、場所 弟子屈町鞍馬場

四、出走頭数 七十九頭

五、競走数 二十二レース

六、入場者数 一、三〇〇名

七、本会副賞受賞馬 摩周新山
半血 雌三歳

八、馬主 弟子屈町 長谷川 義晃

九、明年度開催の予定 八月第二日曜日



○第二十八回当別町鞍馬競馬大会

一、主催 当別町鞍馬競馬会
会長 青山 勝美

二、開催日 十月二十日

三、場所 当別町字下川通堤外地

四、出走頭数 二十九頭

五、競走数 十二レース

六、入場者数 三〇〇名

七、本会副賞受賞馬 レディーコート
雌八歳

八、馬主 当別町 間峠 正明

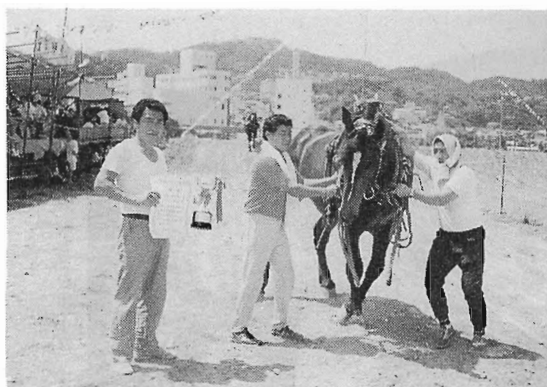
九、明年度開催の予定 八月二十日

○第三十九回むらりん港まつり
一、主催 室蘭鞍馬同志会
大会長 笹浪 幸男

二、開催日 七月二十八日

三、場所 室蘭市入江町

四、出走頭数 四十三頭



- 五、競走数 十八レース
- 六、入場者数 三〇〇〇名
- 七、本会副賞受賞馬 ツガルアキフミ

- 八、馬主 青森五所川原市 寺田 武造
- 九、明年度開催の予定 七月最終日曜日

○第十回標津・中標津連合馬事競技大会

- 一、主催 標津・中標津地区馬事受好会
- 会長 秋山 隆男
- 二、開催日 八月二十五日
- 三、場所 中標津町南中特設会場
- 四、出走頭数 百二頭
- 五、競走数 二十七レース
- 六、入場者数 五、〇〇〇名
- 七、本会副賞受賞馬 リユウドウ

- 八、馬主 釧路市 山根 正勝
- 九、明年度開催の予定 八月十七日

○西胆振鞍馬競技大会

- 一、主催 西胆振鞍馬同志会
- 会長 高橋 泰雄
- 二、開催日 七月十四日
- 三、場所 虻田町家畜センター
- 四、出走頭数 九十二頭
- 五、競走数 二十二レース
- 六、入場者数 一、五〇〇名
- 七、本会副賞受賞馬 ミシマ

- 八、馬主 八雲町 三島 克隆
- 九、明年度開催の予定 七月十日

○第十一回根室市馬事競技大会

- 一、主催 根室市馬事振興会

- 二、開催日 九月十五日
- 三、場所 根室市馬事公園
- 四、出走頭数 八十頭
- 五、競走数 二十三レース
- 六、入場者数 五、〇〇〇名
- 七、本会副賞受賞馬 マツノリュウ

- 八、馬主 阿寒町 長村 豊司
- 九、明年度開催の予定 九月七日

○第四十三回鞍馬競技大会

- 一、主催 相馬妙見神社愛馬講
- 会長 斉藤 忠治
- 二、開催日 九月一日
- 三、場所 滝上町鞍馬競技場
- 四、出走頭数 五十六頭
- 五、競走数 二十レース
- 六、入場者数 一、二〇〇名
- 七、本会副賞受賞馬 カチハナ

- 八、馬主 滝上町 平地 威
- 九、明年度開催の予定 九月一日

- 一、主催 江差町畜産連絡協議会
- 会長 高島 秀夫
- 二、開催日 三月三十一日
- 三、場所 江差町字柳崎町旧宅地跡
- 四、出走頭数 四十五頭
- 五、競走数 三十五レース
- 六、入場者数 四〇〇名
- 七、本会副賞受賞馬 江差

- 八、馬主 江差町 山田 雄作

九、明年度開催の予定 三月下旬



○第十回北渡島家畜商芽部支部鞍馬競技大会

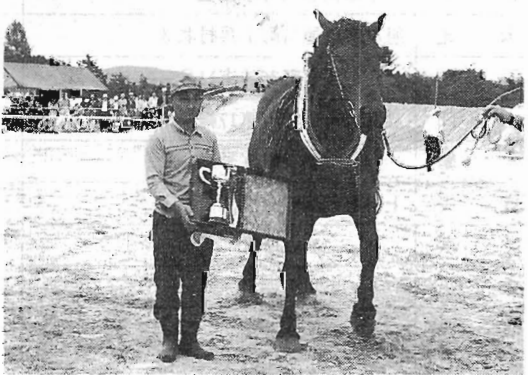
- 一、主催 北渡島家畜商業協同組合
- 芽部支部長 西村 忠三郎
- 二、開催日 五月十二日
- 三、場所 森町上台町
- 四、出走頭数 百五頭
- 五、競走数 二十三レース
- 六、入場者数 一、二、〇〇〇名
- 七、本会副賞受賞馬 川北姫

- 八、馬主 札幌市 坂爪畜産
- 九、明年度開催の予定 五月十一日

○第七回本別町鞍馬競技大会

- 一、主催 本別町馬事振興会

- 二、開催日 九月十九日
- 三、場所 本別町農協高評会々場
- 四、出走頭数 四十八頭



会長 山口 樞

- 五、競走数 二十九レース
- 六、入場者数 三、〇〇〇名
- 七、本会副賞受賞馬 タカウヒメ

- 八、馬主 本別町月見台 小笠原 貢
- 九、明年度開催の予定 九月十九日

昭和60年度

北海道市営競馬協議会馬産奨励事業奨励者名簿

交付者氏名	生産者奨励		
	住所	馬名	血統名
高 嶋 武	札幌市北区北26条西14丁目	アズサヒメ	栗 姫
安 彦 勇	札幌郡広島町字北の里120	(旧ミスツギタテ) クインフェロー	広 姫
藤 坂 巖	〃 〃 53	ノホルトウコウ	藤 勇
佐々木 良 雄	石狩郡当別町字東蕨代	イサムヒカリ	佐々 錦
鶴 卷 広 一	〃 〃 青山四番川	ツルマキヒメ	征 春
市 川 武 一	〃 新篠津村第48線北3番地	ハツカリ	武 の 丸
沢 村 敏 美	亀田郡大野町字水渡921	ホツカイニセイ	北 竜
長 岡 美 男	茅部郡森町字駒ヶ岳274	コマタイショウ	駒 山
福 岡 義 光	磯谷郡蘭越町字清水37	タツゴロウ	達 五 郎
松 田 昇	夕張市清水沢常前町	イナズマ	栄 昇
〃	〃	シンバオー	鋭 照
〃	〃	テルオーザ	第 三 朗 夕
川 副 博	深川市多度志町字ウッカ	ベニオウショウ	優 進
高 橋 悟	〃 〃 下宇摩	ハウショウリキ	宝 奨 力
坂 田 剛	〃 〃 鷹泊	ミスタミコ	多 美 姫
谷 美喜男	〃 〃 下幌内	ロングボーイ	駿 進
貴 下 伸 一	空知郡北村砂浜	ヒノマルタカラ	貴 勇
砂 子 康 弘	〃 奈井江町588-1	ナイエハウシュ	烈 雄
〃	〃 〃	ハクリウウォーザ	明 陣
瀬 戸 慶 秋	夕張郡長沼町東8条南10丁目	イチトヨヒメ	寿 里 姫
城 戸 良 雄	〃 東3条北15丁目 〃	トーコニセイ	宝 栄
片 山 光 夫	〃 〃 東町	ニシキプリンス	力 栄
古 林 正 夫	雨竜郡幌加内町字振起	ナガレボシ	正 力
岩 城 米 光	旭川市東旭川町上兵村北3	ホームランオウ	第 四 早 風
小 林 一 明	士別市多寄町36線東11号	ミスリンセイ	第 四 豊 姫
嶋 田 吉 太 郎	富良野市山部町東17線	シマノミハル	島 の 三 春
小松田 繁	〃 朝日町9号	フラノタカラ	桜 宝
中 下 盛 夫	上川郡剣淵町14区	カツミユキ	盛 栄
佐々木 勲	〃 〃 7区	バンテンリュウ	天 竜
黒 川 末 男	〃 下川町西町	アポロクイン	藤 千 代
小 原 貞 夫	〃 〃 パンケ	オバラキング	初 宝
長谷川 昇	〃 〃 上名寄	テツハル	春 風

交 付 者 氏 名	生 産 者 奨 励		
	住 所	馬 名	血 統 名
鴨 田 清 一	上川郡下川町三の橋	ユウキコー	雪 姫
〃	〃 〃 〃	リュウセイコウ	大 力
数 山 晃 次	空知郡上富良野町豊里	ハクバタロウ	富 里
三 住 秀 明	苫前郡苫前町字旭422	マルサンセンブー	由 美 子
小 川 政 吉	天塩郡幌延町開進	サントーヨーニシキ	男 山
生 本 清 八	稚内市川南	カゲムシヤ	豊 光
梅 津 二	〃 サラキトマナイ	シゲノフラワー	第 二 茂 原
米 田 喜 多 見	稚内市大字声間村字樺岡	ソウヤチカラ	青 宝
米 田 貢	稚内市樺岡	ソウヤオンザ	優 烈
〃	〃 〃	ソウヤフジハナ	優 花
〃	〃 〃	リ シ リ	蘭 成
浅 野 守	〃 曙	フジノトヨ	勝 春
斉 藤 義 春	北見市大和472	キクヒメ	第 二 春 姫
横 島 安 男	〃 仁頃694～2	サンカンオ	栄 冠
八 木 沼 義 雄	〃 大正637	ダイニコウヒメ	第 二 幸 姫
安 倍 信 男	網走市字中園495番地	(旧イチトーヨーニシキ) ダイニシンリュウ	倍 勝
古 瀬 進	〃 潮見322番地	ハクバフジ	第 三 清 春
木 村 専 治	紋別市南ヶ丘町7丁目44の4	キタノトップヒメ	栄 姫
〃	〃 〃	ハツホマレ	初 誉
山 崎 光 雄	〃 新生2172	ハクエイ	光 雄
高 木 幸 雄	網走郡女満別町字巴沢二	ハヤサカエ	鷗 栄
中 川 貞 男	〃 美幌町大通南2丁目19番地	ミサイル	白 峰
西 村 栄	〃 津別町共和387番地	フジリュウ	栄 駒
大 平 信 夫	〃 〃 二又303番地	(旧ダイニハルヒメ) リュウジン	宝 富 士
崎 山 尚 徳	〃 東藻琴村字西倉154番地	ナ オ コ	姫 桜
山 内 紀 光	常呂郡端野町字協和365番地	キョーフウ	清 風
岩 渕 幸 夫	〃 訓子府町柏丘18番地の2	ユウチョウ	明 朝
皆 川 鶴 次	〃 留辺蘂町字泉358番地	タカラウンリュウ	勝 之
須 佐 忠 一	〃 佐呂間町字知来417番地	オノショウニセイ	旭 進
鈴 木 文 蔵	〃 〃 幌岩269番地	ブンゾウ	連 進
松 原 豊	〃 常呂町字岐阜349	(旧サクラフジ) タロータイコー	豊 駒
佐 藤 秀 雄	〃 〃 富丘613	タカラリキ	怪 力
東 初 男	〃 〃 〃 415	タンリュウ	金 竜
岡 崎 日 出 男	紋別郡遠軽町清川480番地	ア サ マ ル	朝 藤
大 塚 真 見	〃 湧別町字西芭露477	カツホマレ	西 芭 露 華
平 石 磯 美	〃 滝上町字上渚滑原野51線南13	アサヒコマ	楓 栄
大 水 徳 光	〃 雄武町字北雄武522の2	フクアラシ	福 嵐

交付者氏名	生産者奨励		
	住 所	馬 名	血 統 名
金野佐助	伊達市北黄金町	マルセンシラオイ	鉄 若
内山孝平	勇払郡厚真町厚和37-1	ダイテンリュウ	第 二 北 洋
鳥海満保	〃 〃 美里	マルトシュウザン	五 月 誉
長谷川均	〃 早来町遠浅	ツキノレデー	月 姫
遠藤久夫	〃 〃 北進86	ミネノタカヒメ	優 姫
新井寿春	〃 追分町若草2-1	アマニシキ	鶴 姫
榑 寿博	〃 〃 本町5	サカエユウシン	豊 福
岩倉正幸	有珠郡壮瞥町字滝ノ町	カクイセンブー	宝 勇
高橋静雄	虻田郡虻田町入江	カネタカ	大 鷗
細川幸雄	〃 〃 月浦	マルモキット	月 宝
前田正雄	〃 豊浦町豊泉	(旧ゴトーヨーニシキ) シンカイジン	新 山
西川正	〃 〃 字桜	ホワイトハマナス	西 栄
谷川恒夫	白老郡白老町北吉原528	タニノリユー	名 宝 山
長船隆夫	沙流郡日高町日高	ゴーリキ	春 豊
森野敏政	〃 〃 〃 457	ハヤテマツカゼ	産 宝
松井勇	〃 〃 三岩33	マツリキ	染 敬
大下清	静内郡静内町本別	クインパワー	良 姫
栗山喜一	三石郡三石町歌笛938	キタノリキ	躍 進
三井樹雄	帯広市西16条南4丁目117番地	タツマキツバメ	勇 将
佐々木繁	〃 西10条南10丁目	メジロオーザ	小 雄
〃	〃 〃	ヤマサキング	緑 雄
川端章	河東郡音更町錦	(旧サトウレンポー) ニシキレンポー	天 龍
福士元衛	河東郡音更町十勝川温泉北17-1-6	ブラックアリー	第 六 福 宝
菅光雄	〃 士幌町字士幌西2線75	アカネタイカン	宝 姫
〃	〃 〃	ハイゲントカチ	栄 時
和田登志男	〃 〃 中士幌東6線105	シホロオーザ	士 幌 駒
安村敏美	〃 〃 士幌西3線194	ナイスヒメ	栄 進
村上ヨシノ	〃 上士幌町字上士幌東3線336番地	カネノホル	金 昇
〃	〃 〃	タカノタイトル	宝 楓
遠山昇	〃 〃 〃 上音更東3線276番地	キタノルーキー	梅 若
大内義一	〃 〃 居辺東16線264番地	キクノタイトル	大 竜
岩瀬準一	〃 〃 居辺東14線270番地	ダイイチハヤブサ	第 一 隼
深川繁信	上川郡新得町字屈足柏町2丁目19番地	ジャパンキング	栗 宝
小川弘志	〃 〃 〃 西1線92番地	フジノタカリユウ	勝 宝
宮坂実	〃 清水町字熊牛本村	ミヤサカエ	宮 栄
野尻弘	〃 〃 中熊牛3	メジロパワー	旭 豊
竹内実	河西郡芽室町新旭	ジャンデパワー	竹 風

交 付 者 氏 名	生 産 者 奨 励		
	住 所	馬 名	血 統 名
横 野 武 則	河西郡更別村上更別香川区	リキサンキング	怪 力
清 重 政 春	広尾郡大樹町生花327番地	ゴシキザン	藤 栄
岩 岡 保	〃 〃 日方292番地	フラノオーザ	飛 竜
高 谷 万 喜	〃 〃 生花181番地	ラブリーホープ	第 三 宝 姫
佐 藤 弘	〃 忠類村字中当235番地	カネノリバー	初 駒
野 坂 清 太 郎	〃 〃 元忠類187番地	トカチシンザン	第 二 新 山 王
木 幡 一 男	〃 〃 朝日69番地	トキノハード	宝 栄
相 沢 祐 子	足寄郡足寄町字奥足寄	アイヒメ	相 姫
留 田 広 治	〃 〃 〃	ウシワカ	治 駒
〃	〃 〃 〃	バラト	広 春
沼 田 勉	〃 〃 ラワン高台	キングパンサー	明 宝
〃	〃 〃 〃	フジテンザン	恵 勝
加 藤 茂	〃 〃 平和	ダイカンフォーユー	栄 洪
後 藤 有 弘	〃 〃 奥足寄	ハッピダイヤ	弘 栄
高 橋 要 一	〃 〃 上利別	ハヤブサタカラ	金 竜
青 木 栄	〃 〃 ラワン高台	ハヤブサニシキ	勇 栄
宮 崎 貞 太 郎	〃 〃 西一線	カヤベタイトル	霧 風
永 井 満	〃 〃 中足寄	タカラシュンメ	典 明
宮 川 貞 夫	〃 〃 平和	ブラックローズ	銅 菅
吉 口 政 雄	〃 〃 トツトリ	ミスカバト	武 春
竹 森 千 代 三	〃 〃 宮城	ミミシロ	仙 豊
角 田 正 夫	十勝郡浦幌町字共栄	イチモンジヒカリ	角 栄
小 枝 重 市	〃 〃 〃	コンゴマサテル	柴 竜 改
木 南 一 彦	〃 〃 貴老路	ゲイシンタカラ	駒 宝
渋 佐 一 夫	〃 〃 川流布	トーホクオー	宝 露 志
佐 藤 重 夫	〃 〃 貴老路	ロンダイ	神 竜
佐 藤 勝 次	中川郡幕別町新和	オーカムサシ	第 四 豊 光
井 上 秀 美	〃 〃 相川	カイダンジ	北 風
高 橋 昭 夫	〃 〃 南勢	キクユタカ	菊 豊
長 谷 川 治 市	〃 〃 相川	コマヒカリ	高 駒
矢 竹 幸 博	〃 〃 〃	スピードホマレ	博 勇
高 橋 宗 吉	〃 〃 豊岡	ダイカンセイ	宗 勇
稲 上 敏 治	〃 〃 相川	ダイゴウルトラ	第 五 蘭 盛
菊 地 豊	〃 〃 〃	チヨダハヤテ	豊 姫
長 崎 正 雄	〃 〃 駒畠	ハイテンリュウ	宝 駒
笠 間 貞 雄	〃 〃 新川	フジカブト	梅 春
大 西 三 四 郎	〃 〃 茂発谷	ホシタカラ	宝 星

交 付 者 氏 名	生 産 者 奨 励		
	住 所	馬 名	血 統 名
西 村 義 治	中川郡幕別町古舞	マ ー キ ン	西 桜
小 笠 原 玉 子	〃 〃 大豊	マ サ リ ユ ウ	宝 玉
塚 谷 晴 英	〃 池田町字昭栄	エ ン ガ ル キ リ ン	大 銘
佐 川 修 一	〃 〃 常盤	キ ン シ ョ ウ マ ル	雄 宝
小 松 田 昭	〃 〃 川合	グ レ ー ト パ ン サ ー	桃 山
鈴 木 正 春	〃 〃 信取	シ ン タ イ ガ ー	弾 丸
京 極 広	〃 〃 常盤	ハ ヤ サ メ	早 雨
安 富 忠 幸	〃 〃 清見	ホ ク セ イ タ カ ラ	浪 夕
山 路 敏	〃 〃 常盤	ミ ハ ル コ マ	第 二 紀 樂
門 寿 雄	〃 豊頃町仁徳	ア ポ ロ ス ピ ー ド	金 昭
〃	同 上	タ カ ラ カ イ リ キ	勇 春
青 木 茂	〃 〃 旅来	キ ン セ イ	金 星
桜 沢 満	〃 〃 〃	タ カ ラ イ チ	宝 進
宝 田 健 一	〃 〃 十沸	カ チ ヒ メ	宝 富 士
美 馬 勲	〃 〃 北星	タ カ ラ キ ン ボ シ	宝 大 介
吉 村 広 道	〃 〃 二里塚	タ カ ラ コ マ ニ セ イ	北 宝
〃	同 上	タ カ ラ セ イ ウ ン	緑 宝
青 木 茂	〃 〃 旅来	タ カ ラ セ イ コ ー	竜 宝
木 幡 忠 義	〃 〃 二宮	タ カ ラ ダ イ オ ー	宝 姫
青 田 一 郎	同 上	タ カ ラ ダ イ リ キ	宝 来
松 崎 サ ヨ	〃 〃 牛首別	タ ケ ミ ツ	千 代 宝
木 幡 勇	〃 〃 二宮	ダ イ ヤ カ ー ル	鹿 宝
松 井 孝 一	同 上	ダ テ ト ッ プ	姫 二 の 宮
中 原 昭 吉	〃 〃 北誉	ホ ウ エ イ ヒ カ リ	宝 栄
川 向 義 信	〃 〃 牛首別	ヨ シ ノ オ オ ザ ン	宝 山 吹
本 寺 菊 雄	〃 本別町木札内	(旧 ア ケ ボ ノ) ト カ チ レ ン シ ョ ウ	大 宝
森 春 蔵	〃 〃 北4丁目	エ ー ゲ ツ	春 駒
久 常 公 司	〃 〃 勇足西5区	ク ロ テ ツ	第 一 初 駒
横 山 伴 英	〃 〃 美里別東上	チ カ ラ エ イ ユ ウ	清 栄
高 谷 鉄 造	釧路市駒牧	ウ ル フ タ イ ヨ ウ	釧 山
松 下 政 義	〃 山花14線139	カ ナ ギ フ ジ	富 士
木 村 武 志	〃 大楽毛1の1	カ ネ ミ ノ ル	釧 路 栄
川 原 義 信	〃 武佐3-33	キ タ ノ タイ シ ョ オ	神 楓
渡 辺 勝 美	〃 大楽毛127-253	シ ョ ホ ー	晏 宝
佐 藤 義 夫	〃 住之江町5の1	シ ン ガ ン マ	豊 盛
佐々木 勇	〃 大楽毛4-184	ハ ヤ テ ホ シ	第 二 銅 柑
山 根 清	〃 中島町12	ヤ マ ト フ ジ	竜 清

交 付 者 氏 名	生 産 者 奨 励		
	住 所	馬 名	血 統 名
館 野 英 一	厚岸郡浜中町恵茶人	キングタイトル	宝 相
森 山 明 義	〃 〃 湯沸	ミ サ キ オ ー	岬 王
古 川 俊 宣	川上郡標茶町阿歴内	(旧キタミハクリユウ) イナズマカミカゼ	北 竜
〃	同 上	オ オ ン ニ シ キ	北 楓
安 瀬 輝 男	〃 〃 南標茶	タ ケ チ ヨ	雄 宝
佐 藤 久 一	〃 〃 北片無去	フ ジ ジャ ー ド	富 士 波
阿 部 忠 志	〃 〃 上オリベツ	ブ ラ ッ ク	豊 山
端 正 行	〃 弟子屈町鋳別	カ ツ ハ ル	勝 春
奥 村 辰 男	〃 〃 原野3	ニ シ キ ザ ン	二 世 摩 周
渡 辺 三 郎	〃 〃 〃 原野	ヒ カ リ ク イ ン	美 姫
佐 藤 昌 明	阿寒郡阿寒町紀の丘	ア キ ー ド	松 菊
長 村 豊 司	〃 〃 上舌辛	タ ケ ハ ナ	克 竜
堀 田 実	〃 〃 12-28	ダイニキャッシー	昭 雄
古 内 勇	〃 〃 布伏内	ナカフシンザン	北 勇
野 沢 定 美	〃 〃 上徹別	フジノスキー	美 駒
〃	同 上	マ ッ タ ロ ウ	駿 定
野 沢 利 男	〃	フジノパワー	富 士 昭 力
山 崎 克 俊	〃 〃 旭	マ ッ ノ フ ジ	松 の 藤
田 中 軍 治	〃 鶴居村茂雪裡	ジョウセイハ	都 雄
菊 原 亀 松	白糠郡音別町市街	ゴールドクイン	淀 菊
木 村 次 郎	〃 白糠町大秋	オ サ ム ラ	勇 宝
宮 崎 修 人	〃 〃 暁	シヨロヒカリ	優 雄
室 内 稔	〃 〃 東2北1	フジオー	由 鉄
寺 下 キ エ	〃 〃 東栄	リキホマレ	蘭 力
北 村 邦 雄	〃 〃 末広	リキマルホープ	池 月
湯 村 勲	〃 〃 泊別	ワールドヒカリ	紅 桜
大 道 実	野付郡別海町別海新栄	シャリツバサ	照 桜
〃	同 上	ネムロレー	島 昭
池 田 明	標津郡中標津町東12北8-1 <small>北海道電力 精華寮内</small>	カネミフロンティア	豪 栄
亀 田 英 二	〃 〃 北中標津	キ ン フ ジ	天 龍

競走経歴種馬管理者奨励金交付者

交付者氏名	競走経歴種馬管理者奨励		
	住 所	種 雄 馬 名	出 走 馬 名
豊 頃 町 農 協	中川郡豊頃町中央若葉町12番地	タ カ ラ コ マ	アポロスピード、カチシノ、キタノル タカアキ、ケンセイ、ゴールドクイン タカアキ、タカアキ、タカアキ、タカアキ イリキ、タカアキ、タカアキ、タカアキ
只 野 幸 一	足寄郡足寄町字宮城	タカラハヤブサ	アイヒメ、ケンダマンサ、タカアキ タカアキ、タカアキ、タカアキ、タカアキ サハヤブサ、タカラ、ハヤブサ、ニシキ、 バサト、ミズカバト、ミミシロ
青 田 善 夫	中川郡幕別町相川	タ ツ マ キ	イナズマ、サカユウウシ、シンバオ 、ソウノオーザ、ソノオーザ
衣 笠 薫	網走市潮見76番地 2	ハ ク リ ユ ウ	イナズマカミセ、ケンフジ、タンリ ユウ、ダイニシンリュウ、バクバフ ジ、ハタリユウオーザ、ナネコ
安 藤 武 利	釧路郡釧路町遠矢	(旧カミカワシンザン) フジロッシーニ	カナギフジ、ナカフシンザン、 フジオウ、リキマルホープ
川 崎 金 作	上川郡下川町上名寄	ユ ウ リ キ	ソウヤオンザ、テツハル ユウキコウ、リシリ
端 正 行	川上郡弟子屈町鋳別	イシノシンボル	カツハル、フジリュウ、 ブラック
高 山 支 征	中川郡池田町字高島29	エンガルボーイ	エンガルキリン、キンショウマ マル、ヘイゲントカチ
山 根 正 勝	釧路市鶴野58	ブルーキャッシー	ショホー、ダイニキャッシー、 ヤマトフジ
宮 坂 実	上川郡清水町字熊牛本村	メジロアサヒ	ジャンキング、ミヤサカエ、 メジロバウ
養 野 恒 夫	十勝郡浦幌町字共栄	イチモンジ	イチモンジヒカリ コンゴマサテル
高 畑 静 男	有珠郡壮別町立香51	カイジン	シンカイジン シハクバタジロウ
渡 辺 昇	河東郡上士幌町字居辺東18線202番地	キングアイ	カネノポル キクノタイトルル
渡 辺 三 郎	川上郡弟子屈町原野	ゴウカイ	カネミフロンティア ヒカリクイン
片 山 光 夫	夕張郡長沼町東町	サカエトーコ	トーコニセイ ニシキブリンズ
千 貝 義 雄	稚内市緑町1丁目1	シゲノハラ	シゲノフラー ソウヤフジハナ
渡 辺 芳 次	広尾郡忠類村字忠類99番地	シンザンオー	ゴシキザ ンカチシンザン
田 中 光 儀	阿寒郡鶴居村下久著呂	タケコマ	フジノスター マツキウ
新 木 ト ヨ	紋別郡遠軽町福路3丁目5番地 3	ダイイチウルバン	タカラゾ クイン
小 西 宏	士別市上士別町17線南37号	ダイセイコー	カツミユ キウセイコウ
長 谷 部 信 悦	沙流郡日高町日高210	テツリュウ	ゴリマツカ ゼ
寺 岡 勝 雄	稚内市港町5-6-11	トヨカツ	カイダ ンジョ
岩 本 政 治	石狩郡当別町字対雁	ニホンマル	ハツカ リラ
松 下 栄	紋別郡滝ノ上町字滝上原野3線北3番地	ハクバジロー	サントー ニーニシキ フクアラ
佐 藤 弘	広尾郡大樹町字大全208番地の2	バンコマ	カネノリ パーザ
浜 田 勘 治	中川郡中川町佐久	アサタカラ	ソウヤチ カラ
及 川 章	上川郡下川町三の橋	アポロオーザ	アポロク イン
遠 藤 久 夫	勇払郡早来町北進86	オーバン	ミネノタ カヒメ
内 藤 義 弘	磯谷郡蘭越町字目名	カツエイ	ホワイト ハマナス
虻 田 町 農 協	虻田郡虻田町字旭町30の3	カネマル	カネタ カ
田 中 吉 男	根室市歯舞1-74	キングタイガ	キング タイトルル
小 松 田 繁	富良野市朝日町9号	コマタカラ	フラー タカラ
杉 林 光 尙	瀬棚郡今金町字白石2番地	サロマテンリュウ	タツゴ ロウ
佐 藤 守 蔵	上川郡剣淵町3区	シホロテンリュウ	バンテ ンリュウ
成 田 功	伊達市舟岡町	スピードキング	マルセ ンシラオイ
田 中 軍 治	阿寒郡鶴居村茂雪裡	タダミツ	ジョウ セイハ
多 村 一 見	勇払郡總別町稲里	トカチハヤテ	テル オーザ

交付者氏名	競走経歴種雄馬管理者奨励		
	住 所	種 雄 馬 名	出 走 馬 名
本 寺 菊 雄	中川郡本別町木札内	トカチマル	トカチレンショウ
門 脇 清	稚内市川南	トチニシキ	カゲムシヤ
西 村 勇	夕張郡長沼町18区	ナガヌマハヤテ	イチトヨヒメ
大 道 実	野付郡別海町別海新栄	ハヤブサ	ネムロレデー
岩 城 米 光	旭川市東旭川町上兵村北3	ホームラン	ホームランオウ
砂 金 良 治	白糠郡白糠町茶路	リキチイチ	リキホマレ
小 西 宏	士別市上士別町17線南37	リンセイ	ミスリンセイ

競走経歴繁殖雌馬奨励金交付者

交付者氏名	競走経歴繁殖雌馬奨励		
	住 所	繁 殖 雌 馬 名	出 走 馬 名
三 井 樹 雄	帯広市西16条南4丁目117番地	アザミ	タマツキツバメ
米 田 貢	稚内市樺岡	キタノアラシ	リシリ
三 住 秀 明	苫前郡苫前町字旭422	スズラン	マルサンセンブー
岩 倉 正 幸	有珠郡壮瞥町字滝ノ町	トキヒメ	カクイセンブー
嶋 田 吉 太 郎	富良野市山部町東17線	バンミハル	シマノミハル
米 田 貢	稚内市樺岡	フジテンリュウ	ソウヤフジハナ
大 道 実	野付郡別海町別海新栄	ミスオサシマ	ネムロレデー
岩 岡 保	広尾郡大樹町字日方292番地	ロングベビー	フラノオーザ

(2) 騎乗奨励金

競走に出走した馬の騎乗騎手に対し、次により支給する。ただし、当該競走において戒告以上の処分を受けたときは支給しないものとする。

1 着	2 着	3 着	4着以下
17,000円	13,000円	11,000円	8,500円

により装鞍所に集合した馬の管理きゅう務員に対し、管理頭数4頭を限度とし次により支給する。ただし、当該競走において戒告以上の処分を受けたときは支給しないものとする。

1 着	2 着	3 着	4着以下
16,000円	12,000円	10,000円	7,500円

3. きゅう務員に関する報償金

(1) きゅう務奨励金

{ 条例第46条(旭川市)
規則第44条(帯広市、北見市及び岩見沢市) } の規定

4. 特別報償金

次に該当する馬の馬主、騎手、及びきゅう務員に対し、次により支給する。

該 当 事 項	支 給 内 訳
ア、{ 条例第33条(旭川市) 規則第31条(帯広市、北見市及び岩見沢市) } の規定により、出走投票の結果、制限頭数を超えたため抽選により出走できなくなったとき、又は1競走の出走頭数が6頭以下のため、競走が取り止めになったときとし、当該開催競馬において同一馬につき1回とする。但し、当該開催の競走に出走した馬を除く。	ア、当該競走の5着賞金相当額(ただし、30,000円を限度とする)。 イ、調教奨励金、騎乗奨励金及びきゅう務奨励金の5着奨励金相当額
イ、{ 条例第49条、第50条、又は第51条(旭川市) 規則第47条、第48条、又は第49条(帯広市、北見市及び岩見沢市) } の規定により、競走除外等と同様のため除外(友引)になったとき。	ア、当該競走の3着賞金相当額。 イ、調教奨励金、騎乗奨励金及びきゅう務奨励金の3着奨励金相当額。
ウ、{ 条例第23条第2項(旭川市) 規則第21条第2項(帯広市、北見市及び岩見沢市) } の規定により天災その他やむを得ない理由により、開催当日に競馬又は競走を取り止めたとき。	ア、当該競走の5着賞金相当額。 イ、調教奨励金、騎乗奨励金及びきゅう務奨励金の5着奨励金相当額。

5. 同着における報償金の支給

着順が確定した馬が同着の場合における報償金に

ついては { 規則第10条(旭川市)
要綱第9条(帯広市及び北見市)
細則第10条(岩見沢市) } の

規定により支給する。

6. 生産者に関する報償金

(1) 生産者賞

競馬番組に定められた重賞競走に出走し、確定した着順が第1着となった馬の生産者に対し、支給する。ただし、当該競走実施日において生存又は現存する生産者とする。

生産者賞	重賞競走の1着賞金の3%相当額
------	-----------------

ア、着順が確定した馬が同着の場合においては、同着となった総頭数で等分した金額を支給する。

7. 報償金に対する納税

ア、騎手に支給する諸報償金については、その10%を主催者が徴収して納税する。

イ、馬主に対し、1回の支払賞金が75万円を越える場合は、下記の算式により主催者が徴収して納税する。

$$\left(\text{賞金} - \left(\text{賞金} \times \frac{20}{100} + 60 \text{万円} \right) \right) \times \frac{10}{100}$$

7. 昭和58年度以降に新馬登録をした雌馬の取扱いについて

昭和58年度以降に新馬登録した雌馬については7歳までばんえい重量を20kg減量し、雌馬のみで編成した競走の取得賞金は1/2とする。なお、8歳以降は優遇措置をしない。

8. この要領に定めるものの他、番組編成上必要な事項については、番組編成会議で別に定める。

昭和61年度 {旭川市・帯広市} 地方競馬報償費支給基準

(趣旨)

第1条 この基準は {旭川市地方競馬実施条例(以下「条例」という。)}
{帯広市及び北見市地方競馬実施条例規則(以下「規則」という。)}
{岩見沢市地方競馬実施条例施行規則(以下「規則」という。)}

{旭川市地方競馬実施条例規則(以下「規則」という。)}
{帯広市及び北見市地方競馬実施要綱(以下「要綱」という。)} 及び {旭川市・帯広市} 及び {北見市・岩見沢市}
{岩見沢市地方競馬施行細則(以下「細則」という。)}

地方競馬番組により開催する地方競馬(市営競馬)に参加した馬の馬主、調教騎手、騎乗騎手、きゅう務員及び生産者に対する報償金の支給に関し必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第2条 この基準において、「馬主」、「調教騎手」、「騎乗騎手」、「きゅう務員」とは、

{条例第5条(旭川市)}
{規則第4条(帯広市、北見市及び岩見沢市)} に定める者をいう。

(報償金の種類及び支給額)

第3条 報償金の種類及び支給額は、次のとおりとする。

1. 馬主に関する報償金

(1) 賞金 競走に出走し、

{条例第69条(旭川市)}
{規則第67条(帯広市 北見市及び岩見沢市)} の規定

により、確定した着順が第1着から第5着までの馬の馬主に対し、競馬番組で示した金額を支給する。

特別競走	25,000円
------	---------

(4) 輸送手当 開催市毎の連続開催期間内における競走に出走した馬、又は特別報償金の受給資格のある馬の馬主に対し、1頭につき下記の金額を支給する。

輸送手当	12,000円
------	---------

(2) 出走手当 競走に出走した馬、又は特別報償金の受給資格のある馬の馬主に対し、1開催1頭につき下記の金額を支給する。

出走手当	45,000円
------	---------

(3) 着外手当 競馬番組に定められた重賞及び特別競走に出走し、確定した着順が第6着以下の馬の馬主に対し、次の区分により支給する。ただし、失格及び競走中止の場合は支給しない。

重賞競走	1着賞金300万円以上	100,000円
	1着賞金300万円未満	40,000円

2. 騎手に関する報償金

(1) 調教奨励金

ア、競走に出走した馬の調教騎手に対し、次により支給する。ただし、当該競走において戒告以上の処分を受けたときは支給しないものとする。

1着	2着	3着	4着以下
26,000円	22,000円	17,000円	12,500円

イ、{条例第102条(旭川市)}
{規則第99条(帯広市、北見市及び岩見沢市)} の規定により調教業務の委託を受けた調教騎手に対し、当該競走に係わる調教奨励金を支給する。

4 歳以上 4 歳以上の混合編成とする。

5. 負担重量

(1)騎手重量 騎手重量は75kgとする。

(2)ばんえい重量

ア 3 歳馬

ばんえい重量は500kgとし本年取得賞金60万円につき10kgの加増を行なう。なお、ばんえい重量は8月30日から510kg、11月8日から520kgとし、本年取得賞金60万円につき10kgの加増を行なう。

イ 4・5 歳馬

3歳時よりの通算取得賞金により、次に掲げるばんえい重量とする。ただし、120万円未満については8月30日から200万円未満に編入し、ばんえい重量10kg減量する。

取得賞金	400万円未満	300万円未満	200万円未満	120万円未満
ばんえい重量	620kg	600kg	580kg	560kg

ウ 4 歳以上

昭和58年以降の取得賞金により、次に掲げるばんえい重量とする。ただし、4・5歳馬で編入する馬は同額賞金クラスに編入し、ばんえい重量10kg減量する。

取得賞金	1,300万円以上	1,300万円未満	1,000万円未満	850万円未満	700万円未満	550万円未満	400万円未満
ばんえい重量	700kg	700kg	680kg	660kg	640kg	620kg	600kg

エ オープン馬

昭和58年以降の取得賞金1,300万円以上の馬をオープンとする。

(3)3歳及び4歳馬のせん馬はばんえい重量10kg減量する。

(4)6歳以下の雌馬はばんえい重量20kg減量とし、7歳以上の雌馬はばんえい重量10kg減量とする。

(5)普通競走において全馬のばんえい重量が高重量となるときは、全馬の重量を一率に減ずることができる。

(6)普通及び別定競走において委員長の指定する騎乗騎手は、通算勝利度数によりばんえい重量10kg減量する。

6. 騎乗の制限及び減量騎乗騎手の取扱いについて

(1)騎乗騎手の1日の騎乗回数は6回までとし、連続騎乗できる回数は3回を限度とする。ただし、委員長が特に認めた場合はこの限りでない。

(2)騎乗を変更した騎乗騎手は、翌日の騎乗を認めない。ただし、委員長が特に認めた場合はこの限りでない。

(3)委員長が指定する減量騎乗騎手は、数え年30歳以下の騎乗騎手で通算勝利度数30勝未満の者とする。ただし、減量騎乗騎手扱いで、すでに出走投票された競走については30勝以上となっても減量騎乗騎手と同様の扱いとする。なお、出馬表には△印で表示する。

番組編成要領

旭川市・帯広市
北見市・岩見沢市

1. 出走馬の資格

次の各号全部の条件をそなえていること。

- (1)地方競馬全国協会の登録を受けた馬
- (2)軽種および軽半血種以外の馬
- (3)日本国内で生産された馬
- (4)新馬 3歳
古馬 10歳以下 (ただし、昭和58年度せん馬優遇策に基づきせん馬となった馬は11歳までとする。)
- (5)馬体重 3歳 700kg } 以上の馬
4歳以上 750kg }
- (6)馬体検査、能力調教検査に合格した馬 (他競馬場において合格した馬を含む)

2. 出走の拒否

- (1)こ疾の程度が重く、又は外観上みにくい馬
- (2)出走取消をした馬及び競走除外馬 (同枠除外を除く) は、その開催の残余期間
- (3)尋常てい鉄を使用しない馬。ただし、委員長が特に処置を認めた場合はこの限りでない。
- (4)失明馬・片眼の視力が正常でない馬

3. 出走頭数の制限及び競走の取り止め

- (1)1競走における出走頭数は、10頭以下とする。
- (2)普通競走において、前項に定める頭数を超えて出走投票があった場合は、抽選により出走馬を決定する。
- (3)前項により出走できなかった馬は、競馬番組で示す当該馬が出走できる最初の競走に限り出走投票した馬に優先出走を認める。
- (4)出走投票の結果、1競走の頭数が6頭以下の場合は、その競走を取り止め新たに競走を設けることができる。ただし、偶発的事故、疾病等により出走を取り消し又は、競走除外を命じた場合を除く。

4. 競走の区別

取得賞金額 (1着～5着まで以下同じ) により編成し年齢別に次のとおりとする。なお、取得賞金は特に記載のない限り前回までの合計とする。ただし、6歳以下の雌馬のみで編成した競走の取得賞金は1/2とする。

3歳 3歳馬のみの編成とする

4・5歳 4・5歳馬の混合編成とし、通算取得賞金400万円以上の馬は4歳以上の競走に編入する。

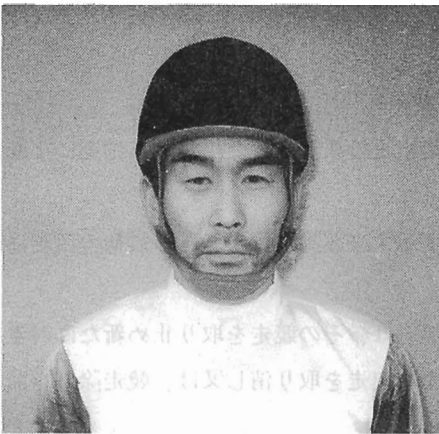
昭和60年度 優秀騎手表彰



第1位 長 沢 調 教 師

☆リーディングトレーナー

- | | |
|-----|---------|
| 第1位 | 長 沢 豊 秋 |
| 第2位 | 中 坪 時 雄 |
| 第3位 | 長 野 清 勝 |
| 第4位 | 松 井 浩 浩 |
| 第5位 | 西 邑 春 夫 |



第1位 金 山 騎 手

☆リーディングジョッキー

- | | |
|-----|---------|
| 第1位 | 金 山 明 彦 |
| 第2位 | 西 弘 美 |
| 第3位 | 千 葉 均 |
| 第4位 | 平 田 義 弘 |
| 第5位 | 藤 本 匠 |

昭和60年度賞金受賞ランキング

3 才

順位	競走馬名	父馬名	母馬名	性	年令	産地	生産者	取得賞金額 (円)
1	ニューフロンテヤ	ベルジ ジャンデュマレイ	ブル系 能信	雄	3	豊 頃	川向義信	8,635,000
2	タカラファイター	半血 タカラリッシン	半血 力姫	雄	3	様 似	中村玄一	6,285,000
3	ダイアナヒメ	半血 タカラコマ	半血 初花	雌	3	豊 頃	作藤義明	6,040,000
4	ダイシンボーイ	ベル エンガルボーイ	ベル 第六世イデューメー	雄	3	本 別	今野貞夫	5,492,000
5	アサヒタイショオ	半血 タカラハヤブサ	半血 農恵	雄	3	更 別	横野武則	5,000,000
6	ヒカルテンリュウ	半血 マツノコトブキ	半血 第二太陽	雄	3	池 田	牧野 一	4,990,000
7	ホマレカップ	ベル 第二オデオン	半血 宝姫	雄	3	足 寄	後藤有弘	4,840,000
8	ヒメクイン	ベルジ マルゼンストロングホース	半血 第二朝霧	雌	3	当 別	原田瀬都子	4,386,000
9	トカチレンポー	ベル 栄神	ベル系 久星	雄	3	池 田	上田健一	3,680,000
10	ミサワショウリ	ブル系 キタノテンリュウ	半血 大宮	雄	3	洞 爺	菊地 博	3,225,000

4・5才

順位	競走馬名	父馬名	母馬名	性	年令	産地	生産者	取得賞金額 (円)
1	ホウショウリキ	ベルジ マルゼンストロングホース	ベル系 ベントップ	雄	4	深 川	高橋 悟	7,775,000
2	タニノヒメリュウ	ベルジ マルゼンストロングホース	半血 ミス大輪	雌	5	白 老	谷川恒夫	7,147,000
3	ハクタイコー	ベルジ マルゼンストロングホース	ベル系 エリザルー	雄	5	早 来	遠藤久夫	6,705,000
4	タカラフジ	半血 タカラコマ	ブル系 能信	雄	5	豊 頃	川向義則	6,475,000
5	センショウリ	ベルジ ジャンデュマレイ	ベル 第二栄花	雄	5	幕 別	万藤茂太郎	6,005,000
6	カネミフロンティア	半血 ゴウカイ	半血 第二栄花	雄	4	中標津	池田 明	5,532,000
7	トカチヤマ	ベル 二世ロッシーニ	半血 第二ブルタニュー	雄	5	常 呂	高橋貞雄	5,087,000
8	ホウエイヒメ	ベルジ マルゼンストロングホース	半血 遠軽四	雌	5	深 川	光富光次	4,649,000
9	ヒカルタイショオ	半血 富士	半血 桜武	雄	5	標 茶	堀 正雄	4,595,000
10	カミチカオウ	ベルジ ジャンデュマレイ	半血 初雪	雄	5	帯 広	三井樹雄	4,497,000

6才以上

順位	競走馬名	父馬名	母馬名	性	年令	産地	生産者	取得賞金額 (円)
1	キンタロー	ベル 二世ロッシーニ	ベル系 宝玉	雄	9	別 海	糸川一郎	21,960,000
2	キンタイコー	ベル 楓朝	半血 日光	雄	6	上湧別	笹島 清	12,030,000
3	カミシホロトップ	ブル 蝶武	中半 勇栄	雌	9	北 見	武田金十郎	11,000,000
4	ヤマト	ベル 二世ロッシーニ	半血 第二栄宝	雄	8	小清水	片平信淵	9,395,000
5	マルトクイン	ベルジ マルゼンストロングホース	ベル系 栗姫	雌	6	新 得	深川繁信	9,160,000
6	イワイサミ	ベル 菅敬	半血 前進	雄	8	旭 川	岩城米光	7,575,000
7	ロイヤルキング	ブル 銅柑	ベル系 藤花	雄	8	弟子屈	渡辺三郎	6,525,000
8	タカラショウリ	半血 タカラコマ	ベル 第十一玉姫	雄	7	池 田	野村弘信	5,710,000
9	フジノヤマ	ベル 楓朝	ブル系 スズモク	雄	6	遠 軽	仙野勝栄	5,560,000
10	タカラソウシン	半血 タカラコマ	半血 昭宝	雄	7	豊 頃	門 寿雄	5,480,000

昭和60年度種雄馬ランキング

3 才

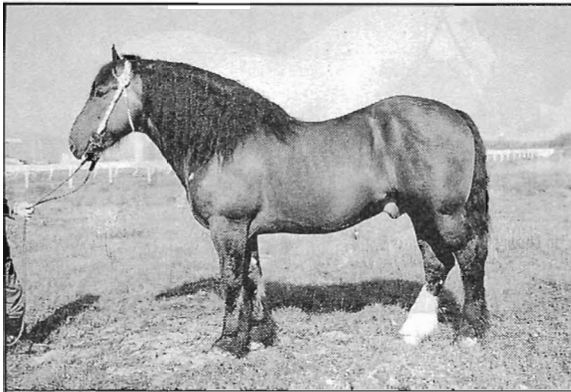
順位	種 類	種 雄 馬 名	頭数	勝数	取得賞金(円)	主 な 出 走 馬
1	半 血	タ カ ラ コ マ	30	51	41,795,500	ダイアナヒメ, オシン
2	半 血	タカラハヤブサ	16	42	26,566,000	アサヒタイショオ, ヒロユキ
3	ベルジ	ジャンデュマレイ	12	36	21,444,000	ニューフロンテヤ
4	ブル系	キタノテンリュウ	12	29	18,421,000	ミサワショウリ, テンリュウクイン
5	ペ ル	第 二 オ デ オ ン	4	11	9,518,000	ホマレカップ, ブルハウショウ
6	ベルジ	マルゼンストロングホース	4	13	9,474,000	ヒメクイン, ロングダンサー
7	ペ ル	二 世 ロ ッ シ ー ニ	6	9	9,233,000	シラヌカヒメ
8	ペ ル	楓 朝	9	13	9,083,000	ハヤカツ
9	半 血	マツノコトブキ	3	9	7,176,000	ヒカルテンリュウ
10	半 血	タカラリッシン	1	4	6,285,000	タカラファイター

4・5才

順位	種 類	種 雄 馬 名	頭数	勝数	取得賞金(円)	主 な 出 走 馬
1	ベルジ	マルゼンストロングホース	17	45	45,947,000	ハウショウリキ, タニノヒメリュウ, ハクタイコー
2	ベルジ	ジャンデュマレイ	19	60	37,278,000	センショウリ, カミチカオウ
3	ペ ル	二 世 ロ ッ シ ー ニ	21	43	33,308,000	トカチヤマ, ハヤタイショウ
4	半 血	タ カ ラ コ マ	23	52	32,010,000	タカラフジ
5	半 血	タカラハヤブサ	11	20	16,953,000	ゼンシン, ハヤブサニシキ
6	ペ ル	楓 朝	9	23	15,730,000	カズミノル, セイフウ
7	ベル系	タ ツ マ キ	6	20	12,109,000	ビクエース, イナズマ
8	ペ ル	第 二 オ デ オ ン	7	13	8,583,000	ツカサトップ
9	半 血	富 士	3	7	8,378,000	ヒカルタイショオ, ダイヒットエース
10	半 血	シ ゲ ノ ハ ラ	4	11	7,458,000	シゲノフラワー

6才以上

順位	種 類	種 雄 馬 名	頭数	勝数	取得賞金(円)	主 な 出 走 馬
1	ペ ル	二 世 ロ ッ シ ー ニ	23	56	72,108,000	キンタロー, ヤマト, ホマレベンケイ
2	半 血	タ カ ラ コ マ	33	61	68,072,500	タカラソウシン, タカラショウリ, タカラシンザン
3	ベルジ	ジャンデュマレイ	21	46	48,418,000	マサライデン, ワカタイショウ, キョウリュウ
4	ペ ル	楓 朝	15	25	34,818,000	フジノヤマ, キンタイコー, ダイニオノショウ
5	ベルジ	マルゼンストロングホース	9	26	31,735,000	マルトクイン, タミオヒメ, マルトカチヨシ
6	ペ ル	ボ ル ー ル	9	20	23,841,000	ハイスピード, カショウー
7	ブ ル	蝶 武	2	4	13,852,500	カミシホロトップ, タケヨシ
8	ペ ル	菅 敬	2	9	12,380,000	イワイサミ, クシロハクリュウ
9	ペ ル	久 都	8	14	10,953,000	マサショウリ
10	ブ ル	ボ ヌ ー ル	5	9	9,564,000	アサヒダケ

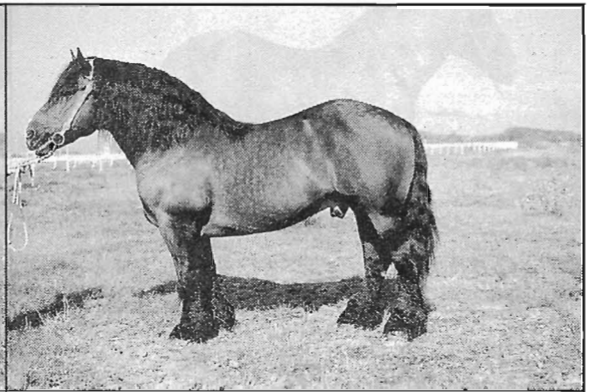


ウチウラ号

- 1.生年月日 昭和51年3月28日
- 2.生産地 胆振支庁 洞爺村
- 3.生産者 菊地和一
- 4.通算成績 111戦17勝
- 5.取得賞金額 19,429,000円
- 6.性・毛色 牡鹿
- 7.血統

半血 大雄

— クラ コレクション・エンタープライズ
— 中半 姫百合

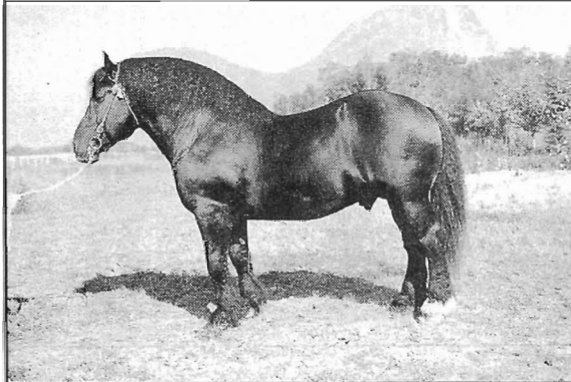


カリフォート号

- 1.生年月日 昭和51年5月1日
- 2.生産地 十勝支庁 尾寄町
- 3.生産者 佐々木七郎
- 4.通算成績 133戦16勝
- 5.取得賞金額 10,543,000円
- 6.性・毛色 牡鹿
- 7.血統

半血 勇

— ブル カポラール
— 重系 藤

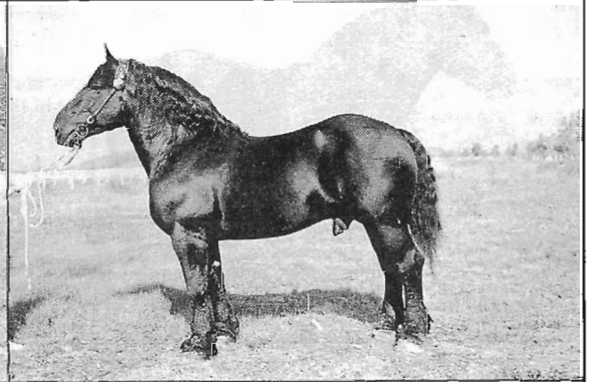


カチオープン号

- 1.生年月日 昭和51年5月1日
- 2.生産地 十勝支庁 本別町
- 3.生産者 上田隆一
- 4.通算成績 120戦16勝
- 5.取得賞金額 15,829,000円
- 6.性・毛色 牡青
- 7.血統

半血 春隆

— ペル ダンディ
— 重系 春姫

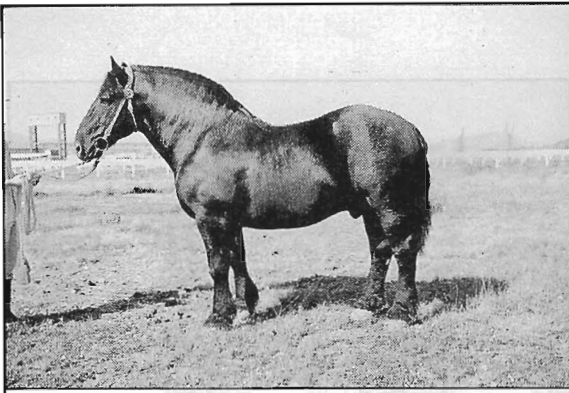


キタノウルフ号

- 1.生年月日 昭和51年5月6日
- 2.生産地 釧路支庁 白糠町
- 3.生産者 竹田基栄
- 4.通算成績 158戦14勝
- 5.取得賞金額 15,425,000円
- 6.性・毛色 牡青
- 7.血統

半血 優山

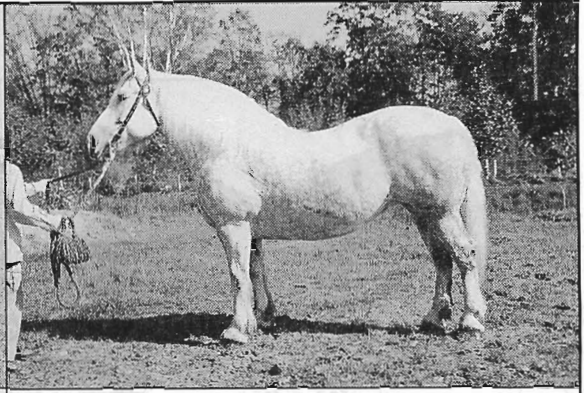
— ペル ヴォラール
— 中半 稔龍



クラークパワー号

- 1. 生年月日 昭和51年5月17日
- 2. 生産地 十勝支庁 大樹町
- 3. 生産者 佐藤昇一
- 4. 通算成績 143戦21勝
- 5. 取得賞金額 10,363,000円
- 6. 性・毛色 牡 青
- 7. 血統

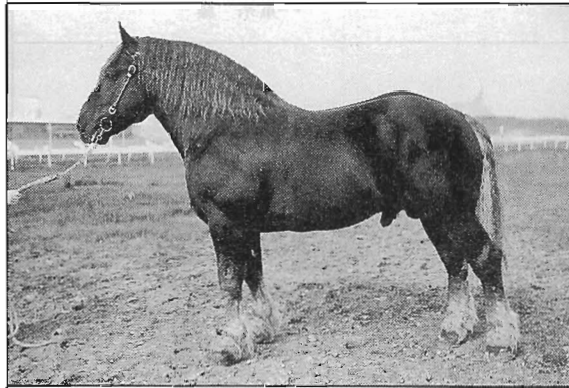
半血 美 静 — ベル 紅 兆
重系 第三十八美姫



スターカップ号

- 1. 生年月日 昭和51年6月1日
- 2. 生産地 空知支庁 由仁町
- 3. 生産者 萩原次雄
- 4. 通算成績 151戦20勝
- 5. 取得賞金額 29,400,000円
- 6. 性・毛色 牝 芦
- 7. 血統

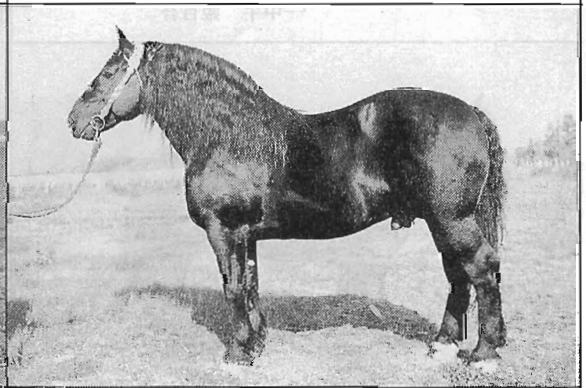
半血 楓 幸 — ベルジ マルゼンストロングホース
重半 楓 興



センブクザン号

- 1. 生年月日 昭和51年5月5日
- 2. 生産地 網走支庁 津別町
- 3. 生産者 辻重雄
- 4. 通算成績 138戦16勝
- 5. 取得賞金額 9,828,000円
- 6. 性・毛色 牡 栗
- 7. 血統

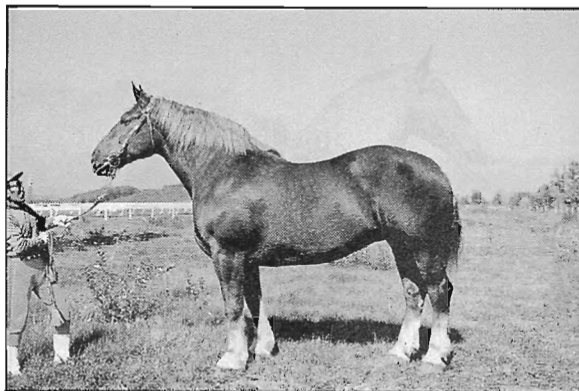
半血 フロリ雄 — 中半 ナオス雄
重半 フロリー



ソラチキリン号

- 1. 生年月日 昭和51年4月26日
- 2. 生産地 十勝支庁 池田町
- 3. 生産者 高島保男
- 4. 通算成績 155戦10勝
- 5. 取得賞金額 23,061,000円
- 6. 性・毛色 牡 青
- 7. 血統

ベル 宝 雄 — ベル 第三オデオン
ベル 大 宝

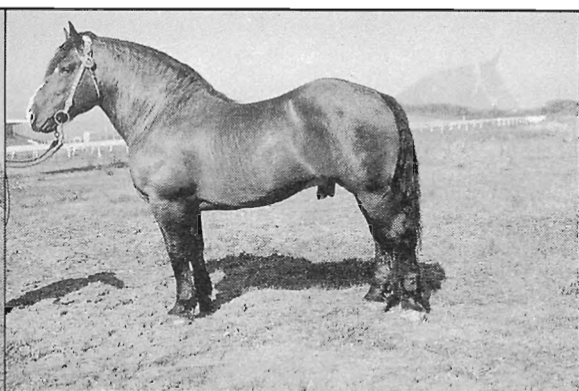


タミオヒメ号

- 1. 生年月日 昭和51年4月3日
- 2. 生産地 胆振支庁 早来町
- 3. 生産者 平野 儀雄
- 4. 通算成績 130戦20勝
- 5. 取得賞金額 22,505,000円
- 6. 性・毛色 牝 栗
- 7. 血統

半血 宝 桜

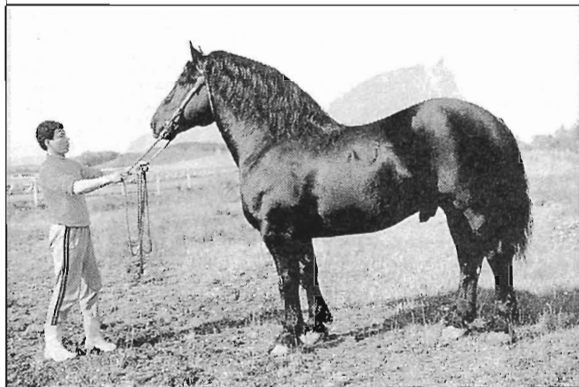
— ベルジ マルゼンストロングホース
— 重半 姫 宝



ダイサンエンゼル号

- 1. 生年月日 昭和51年3月30日
- 2. 生産地 根室市
- 3. 生産者 阿部 正義
- 4. 通算成績 152戦18勝
- 5. 取得賞金額 13,337,000円
- 6. 性・毛色 牡 鹿
- 7. 血統

半血 第三エンゼル — 重半 公 陽
— 重半 宝 春

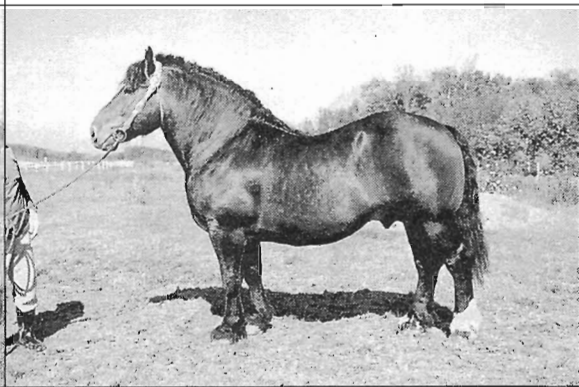


ツクモイチ号

- 1. 生年月日 昭和51年5月20日
- 2. 生産地 釧路支庁 厚岸町
- 3. 生産者 加藤 吉次
- 4. 通算成績 145戦19勝
- 5. 取得賞金額 11,613,000円
- 6. 性・毛色 牡 青
- 7. 血統

半血 竜 眸

— 重半 竜 松
— ペル系 琴 眸

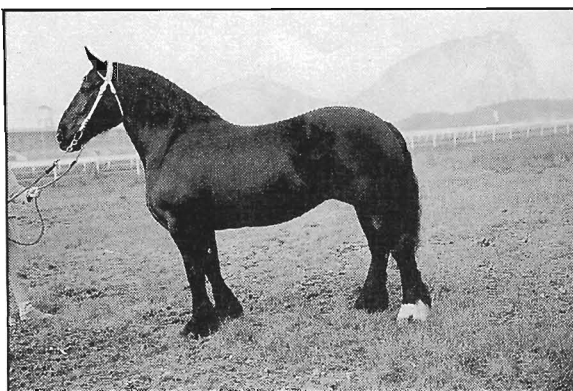


トミイチ号

- 1. 生年月日 昭和51年5月5日
- 2. 生産地 十勝支庁 浦幌町
- 3. 生産者 沢田 茂夫
- 4. 通算成績 132戦24勝
- 5. 取得賞金額 15,829,000円
- 6. 性・毛色 牡 鹿
- 7. 血統

ブル系 駒 宝

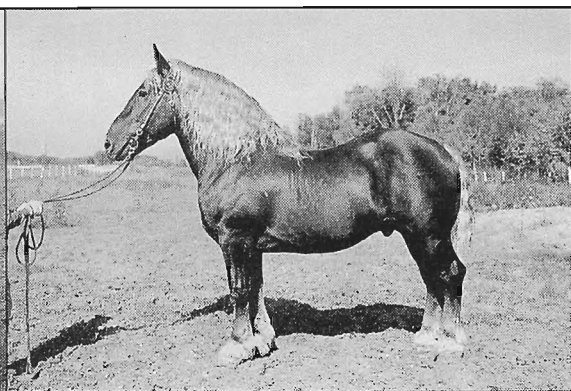
— ブル ドウユウドウユウ
— 重半 鉄 姫



ハツハナ号

1. 生年月日 昭和51年3月21日
2. 生産地 網走市
3. 生産者 衣笠義雄
4. 通算成績 132戦19勝
5. 取得賞金額 10,816,000円
6. 性・毛色 牝青
7. 血統

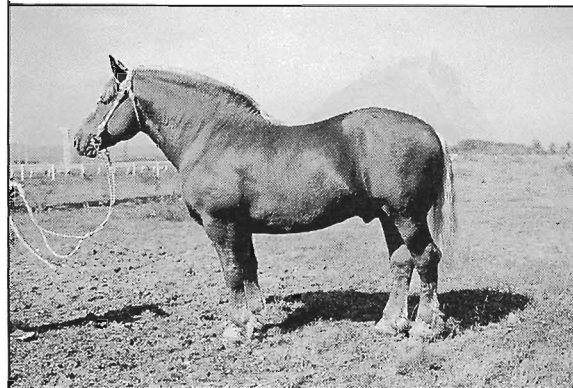
ベル系 勝正 — ベル 栄勝
 — ベル系 豊正



ハマナカトップ号

1. 生年月日 昭和51年5月8日
2. 生産地 網走支庁 佐呂間町
3. 生産者 太田三男
4. 通算成績 146戦16勝
5. 取得賞金額 11,310,000円
6. 性・毛色 牡栗
7. 血統

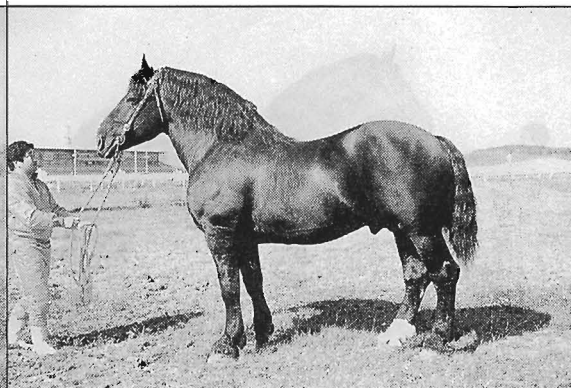
半血 勇誠 — 中半 豊孟
 — 中半 初姫



ヒカルオートリ号

1. 生年月日 昭和51年4月15日
2. 生産地 根室支庁 別海町
3. 生産者 信田正実
4. 通算成績 153戦20勝
5. 取得賞金額 11,533,000円
6. 性・毛色 牡栗
7. 血統

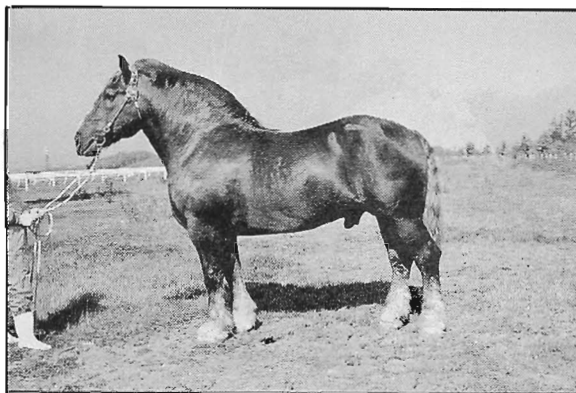
半血 慶要 — ベル 第17オートリ
 — 重半 第1春姫



ブラックリバー号

1. 生年月日 昭和51年5月5日
2. 生産地 釧路市
3. 生産者 松下正義
4. 通算成績 140戦13勝
5. 取得賞金額 20,897,000円
6. 性・毛色 牡青
7. 血統

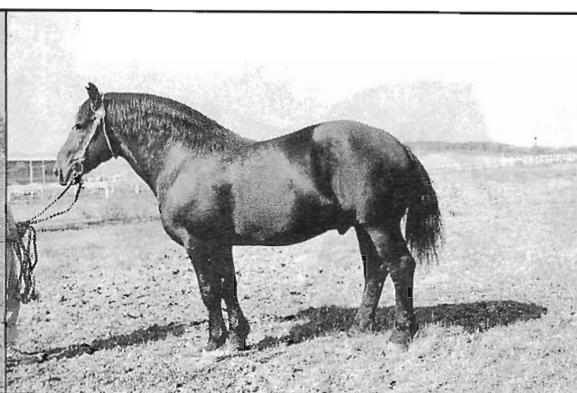
半血 宝岩 — 中半 南星
 — 重系 大岩



マサカツ号

1. 生年月日 昭和51年4月14日
2. 生産地 十勝支庁 池田町
3. 生産者 成田 房吉
4. 通算成績 140戦13勝
5. 取得賞金額 23,780,000円
6. 性・毛色 牡 栗
7. 血統

半血 メキシコ二世 — ベルジ ジャンデュマレイ
重半 第二メキシコ



マサタカラ号

1. 生年月日 昭和51年5月25日
2. 生産地 十勝支庁 本別町
3. 生産者 三沢 秀
4. 通算成績 138戦13勝
5. 取得賞金額 8,764,000円
6. 性・毛色 牡 青
7. 血統

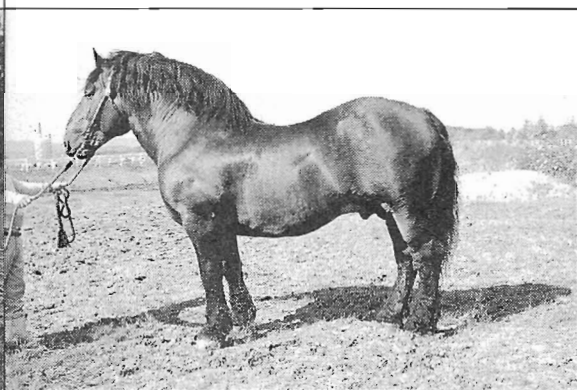
ベル系 優 孝 — ベル ダンディ
重系 孝 榮



ミサワコマ号

1. 生年月日 昭和51年4月25日
2. 生産地 紋別市
3. 生産者 片川 勝博
4. 通算成績 134戦17勝
5. 取得賞金額 25,487,000円
6. 性・毛色 牡 芦
7. 血統

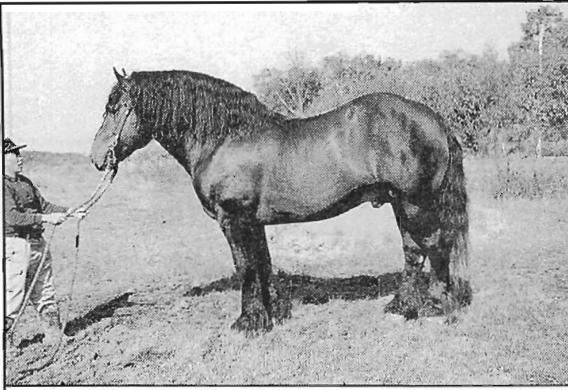
半血 玉 宝 — ベル 楓 朝
重半 隆 姫



ミネヒカリ号

1. 生年月日 昭和51年5月15日
2. 生産地 釧路支庁 白糠町
3. 生産者 中屋敷 長司
4. 通算成績 150戦19勝
5. 取得賞金額 10,245,000円
6. 性・毛色 牡 鹿
7. 血統

半血 十勝ハヤテ — ベル ヴォールール
中半 南多

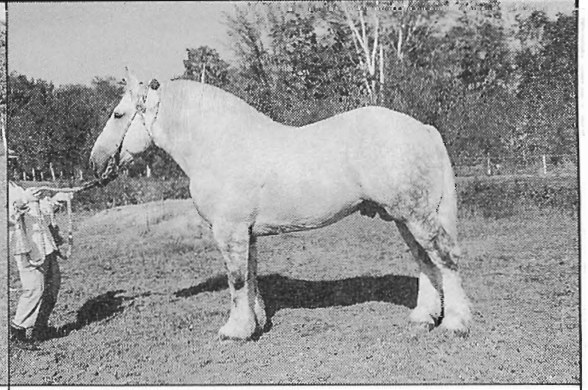


ユウセン号

1. 生年月日 昭和51年5月6日
2. 生産地 網走支庁 東藻琴村
3. 生産者 崎山 尚徳
4. 通算成績 146戦16勝
5. 取得賞金額 12,274,000円
6. 性・毛色 牡 鹿
7. 血統

半血 勝雄

— ペル 二世ロッシーニ
— 中半 ユニホマレ

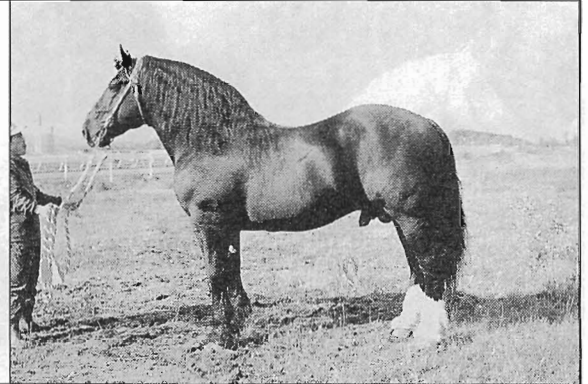


ユタカモリ号

1. 生年月日 昭和51年4月21日
2. 生産地 網走支庁 小清水町
3. 生産者 片平 進淵
4. 通算成績 130戦21勝
5. 取得賞金額 22,575,500円
6. 性・毛色 牡 芦
7. 血統

半血 北洋

— ペル ケブランタン
— 重半 常花



リュウタロー号

1. 生年月日 昭和51年5月1日
2. 生産地 十勝支庁 池田町
3. 生産者 中村 弘
4. 通算成績 127戦16勝
5. 取得賞金額 26,490,000円
6. 性・毛色 牡 青
7. 血統

半血 栄雄

— ペル 第三オデオン
— 重半 栄仙

昭和60年度市営競馬成績

主催者	期別	売得金額 (円)	1日平均 (円)	賞金額 (円)	入場人員 (人)	1日平均 (人)
旭川市	1	1,104,969,400	184,161,567	53,454,000	19,309	3,218
	2	1,360,043,800	226,673,967	58,558,000	22,906	3,818
	3	1,046,803,500	174,467,250	55,388,000	17,773	2,962
	4	1,105,052,700	184,175,450	56,928,000	17,013	2,836
	5	1,184,994,300	197,499,050	64,744,000	15,838	2,640
	計	5,801,863,700	193,395,457	289,072,000	92,839	3,095
帯広市	1	827,668,400	137,944,733	42,490,000	17,955	2,993
	2	857,347,300	142,891,217	42,946,000	16,758	2,793
	3	882,517,300	147,086,217	45,942,000	14,858	2,476
	4	847,706,600	141,284,433	52,850,000	14,861	2,477
	5	857,870,800	142,978,467	48,098,000	11,219	1,870
	6	1,257,328,800	209,554,800	63,660,000	15,592	2,599
計	5,530,439,200	153,623,311	295,986,000	91,243	2,535	
北見市	1	920,103,500	153,350,583	41,752,000	14,817	2,470
	2	993,104,400	165,517,400	40,580,000	12,494	2,082
	3	748,541,700	124,756,950	45,255,000	12,154	2,026
	4	899,539,600	149,923,267	45,141,000	12,461	2,077
	5	941,492,900	156,915,483	47,275,000	11,424	1,904
計	4,502,782,100	150,092,737	220,003,000	63,350	2,112	
岩見沢市	1	783,562,300	130,593,717	49,560,000	17,582	2,930
	2	790,971,000	131,828,500	52,190,000	15,367	2,561
	3	852,688,300	142,114,717	48,390,000	13,869	2,312
	4	1,088,904,800	181,484,133	49,894,000	19,217	3,203
	5	1,097,490,800	182,915,133	64,534,000	17,230	2,872
計	4,613,617,200	153,787,240	264,568,000	83,265	2,776	
合計		20,448,702,200	162,291,287	1,069,629,000	330,697	2,625

昭和60年度道営競馬成績

競馬場	期別	売得金額 (円)	1日平均 (円)	賞金額 (円)	入場人員 (人)	1日平均 (人)
岩見沢	1	913,887,400	152,314,567	73,890,000	20,760	3,460
	2	999,319,100	166,553,183	72,630,000	11,291	1,882
	3	1,020,683,400	170,113,900	67,320,000	11,348	1,891
	4	1,012,299,500	168,716,583	77,310,000	13,232	2,205
	5	1,073,233,800	178,872,300	71,010,000	14,990	2,498
	6	1,126,813,200	187,802,200	80,190,000	15,629	2,605
	7	795,803,200	132,633,867	81,990,000	8,442	1,407
	8	1,067,297,100	177,882,850	100,440,000	10,287	1,715
	9	1,081,006,000	180,167,667	89,820,000	7,967	1,328
	10	1,227,789,400	204,631,567	112,050,000	11,819	1,970
計	10,318,132,100	171,968,868	826,650,000	125,765	2,096	
旭川	1	657,617,400	109,602,900	75,600,000	11,237	1,873
	2	771,001,700	128,500,283	76,050,000	12,476	2,079
計	1,428,619,100	119,051,592	151,650,000	23,713	1,976	
札幌	1	1,842,167,300	307,027,883	88,380,000	37,445	6,241
	2	1,645,801,300	274,300,217	78,840,000	30,962	5,160
	3	1,678,003,700	279,667,283	73,620,000	30,288	5,048
	4	1,584,500,000	264,083,333	79,830,000	29,673	4,946
	5	1,761,803,900	293,633,983	97,200,000	34,891	5,815
計	8,512,276,200	283,742,540	417,870,000	163,259	5,442	
合計		20,259,027,400	198,617,916	1,396,170,000	312,737	3,066

昭和61年度市営競馬日程表(予定)

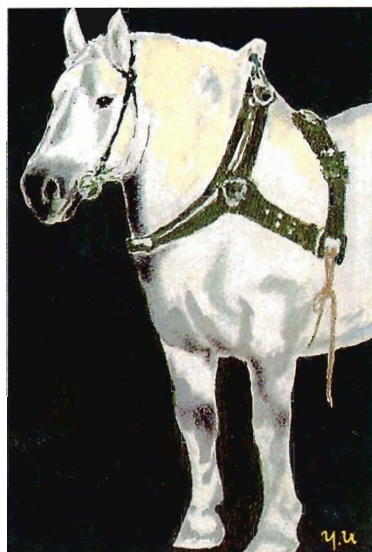
北見 旭川 帯広 岩見沢

4	1	2	3	4	5	⑥	7	8	9	10	11	12	⑬	14	15	16	17	18	19	⑳	21	22	23	24	25	26	⑳	28	㉑	30	
月																															
5	1	2	③	④	⑤	6	7	8	9	10	⑩	12	13	14	15	16	17	⑱	19	20	21	22	23	24	⑳	26	27	28	29	30	31
月			北①								北②							北③													
6	①	2	3	4	5	6	7	⑧	9	10	11	12	13	14	⑮	16	17	18	19	20	21	⑳	23	24	25	26	27	28	㉑	30	
月																															
7	1	2	3	4	5	⑥	7	8	9	10	11	12	⑬	14	15	16	17	18	19	⑳	21	22	23	24	25	26	⑳	28	29	30	31
月																															
8	1	2	③	4	5	6	7	8	9	⑩	11	12	13	14	15	16	⑰	18	19	20	21	22	23	⑳	25	26	27	28	29	30	⑳
月																															
9	1	2	3	4	5	6	⑦	8	9	10	11	12	13	⑭	⑮	16	17	18	19	20	⑳	22	⑳	24	25	26	27	㉑	29	30	
月																															
10	1	2	3	4	⑤	6	7	8	9	⑩	11	⑫	13	14	15	16	17	18	19	⑳	21	22	23	24	25	⑳	27	28	29	30	31
月																															
11	1	②	③	4	5	6	7	8	⑨	10	11	12	13	14	⑮	16	17	18	19	20	21	22	⑳	㉑	25	26	27	28	29	⑳	
月																															
12	1	2	3	4	5	6	⑦	8	9	10	11	12	13	⑭	15	16	17	18	19	20	⑳	22	23	24	25	26	27	㉑	29	30	31
月																															

昭和61年度道営競馬日程表(予定)

岩見沢 旭川 札幌

4	1	2	3	4	5	⑥	7	8	9	10	11	12	⑬	14	15	16	17	18	19	⑳	21	22	23	24	25	26	⑳	28	㉑	30	
月																															
5	1	2	③	④	⑤	6	7	8	9	10	⑩	12	13	14	15	16	17	⑱	19	20	21	22	23	24	⑳	26	27	28	29	30	31
月																															
6	①	2	3	4	5	6	7	⑧	9	10	11	12	13	14	⑮	16	17	18	19	20	21	⑳	23	24	25	26	27	28	㉑	30	
月																															
7	1	2	3	4	5	⑥	7	8	9	10	11	12	⑬	14	15	16	17	18	19	⑳	21	22	23	24	25	26	⑳	28	29	30	31
月																															
8	1	2	③	4	5	6	7	8	9	⑩	11	12	13	14	15	16	⑰	18	19	20	21	22	23	⑳	25	26	27	28	29	30	⑳
月																															
9	1	2	3	4	5	6	⑦	8	9	10	11	12	13	⑭	⑮	16	17	18	19	20	⑳	22	⑳	24	25	26	27	㉑	29	30	
月																															
10	1	2	3	4	⑤	6	7	8	9	⑩	11	⑫	13	14	15	16	17	18	19	⑳	21	22	23	24	25	⑳	27	28	29	30	31
月																															
11	1	②	③	4	5	6	7	8	⑨	10	11	12	13	14	15	⑮	17	18	19	20	21	22	⑳	㉑	25	26	27	㉑	29	30	
月																															



昭和61年 3月

札幌市北区北10条西4丁目北海道畜産会館2階 (TEL) 代表747-5345